

第

一

一九〇〇年ニ於ル露國大學校戰術科學生ノ絶東  
戰役ニ關スル坐上戰術

本篇ハ明治三十八年一月旅順開城ノ際同軍港司令官々廳ニ於テ海軍陸戰重砲隊指揮官海軍大佐黒井悌次郎ノ收得シテ大本營ニ進達セルモノナリ篇中記載スル所ハ千九百年ノ春明治三十三年恰モ義和團事件發生ノ頃ナリ露國海軍大學校ニテ日露ノ開戦ヲ假想シ兩國ノ東洋ニ於ル當時ノ現狀ニ照シ研究セル作業問題ノ集録ニシテ三十七八年戰役ノ三年以前ニ係レリ故ニ一見廢紙ニ過キササルノ感ナキニアラサルモ其ノ畫策スル所ハ浦鹽斯德ヲ以テ海軍ノ策源地トナシ旅順ハ寧ロ自然ノ成行キニ委スルモノトナセルカ如キ現今ニ於ル彼我ノ關係ヲ研究セルノ看アリ依テ後日ノ參考ニ資スル所アルヘキヲ思ヒ譯シテ特ニ之ヲ木卷ニ收ム

## 目次

○ 問題ノ大意	.....	一頁
○ 方略ノ遂行	.....	六
○ 附録第一及ヒ第二一八九〇年ノ春露日間ノ國交斷絶シテ戰スルニ到ル状態並ニ海軍勢力ノ比較	.....	三七
○ 同 第三日本ノ陸軍力	.....	五二
○ 同 第四露國陸軍々隊ノ配備表並ニ浦鹽斯德及ヒ豆滿江ヨリ亞米利加灣ニ至ル沿岸ノ防禦	.....	五四
○ 同 第五韓國紀要	.....	五九
○ 同 第六兩國ノ宣言	.....	七一
○ 同 第七戰爭前ノ彼我ノ状態ニ關スル覺書	.....	七九
○ 同 第八露國側ノ執リタル戰略ニシテ作業日誌ニ登錄セラレタルモノ	.....	九〇
○ 同 第九戰策ノ實行ニ關シ露國總司令官及ヒ其ノ幕僚ノ執リタル處置	.....	九三
○ 同 第十日本側ノ豫測	.....	一二三
○ 同 第十一日本側ノ戰策	.....	一三一
○ 同 第十二三月十二日迄ニ於ル日本陸軍ノ執リタル處置	.....	一三二
○ 同 第十三作業ノ結論(陸軍ノ部)	.....	一五七

## 明治三十七七八年海戰史

### 第十二部附録文書

#### 卷二十一上 露國ニ關スル狀況

第一 一九〇〇年ニ於ル露國大學校戰術科學生ノ絶東戰役ニ關スル坐上戰術(露國秘書類)

○問題ノ大意

一九〇〇年明治三十三年ノ冬ニコライ海軍大學校ノ海軍戰術科教程ヲ履ム學生ニ對シ坐上戰術ノ問題トシテ同年ノ春ニ於ル現況ニ就キ露日戰争ヲ課スルコト、ナリ之ニ干與セル審判官教官竝ニ學生等ハ海陸軍ヨリ下記ノ如ク之ヲ任命シ又當時ノ外交政策ノ狀況ハ附録第一ニ示スカ如ク韓國ノ概況ニ關シテハ附録第五ニ示スカ如キ條件ヲ以テシタリ

太平洋ニ於ル露日海軍勢力比較ハ附録第二ニ示スカ如シ本表ニ據ルトキハ戰鬪ニ堪フヘキ日本艦隊ノ勢力カ著シク露國ノ勢力ヨリモ優勢ニアリテ特ニ水雷艦隊ニ於テ其ノ然ルヲ見ル

露國艦隊ノ増援トシテハ外國造船所ニ於テ建造中ニ在リ未タ竣工ヲ告ケサルモノ、代艦トシテ或ハ地中海ヨリ或ハリバールヨリ或ハ或條件ノ下ニ黑海ヨリモ豫備艦隊ヲ派遣スヘキ筈ナリ但「ワリヤーグ」ノミハ既ニ竣工ノモノト認メホラデルフィアヨリ地中海ヲ通過シ太平洋艦隊ニ合スヘキモノト定メラル

日本艦隊モ亦英國ニ於テ建造中ノモノカ回航シテ幾分増加サルヘント雖モ二箇月ノ後ニ於テハ結局露國側ニ於テ幾分ノ優勢ヲ見ルヘキ算用ナリ

陸上ノ勢力ハ左ノ如シ

日本ハ二十萬ノ兵ヲ動カシ得ヘク又高速力ノ運送船ニ由リ大輸送一度約四萬人ヲ爲スコトヲ得  
露國ハ烏蘇利邊境ニ配置セル兵アルモ其ノ數著シク劣勢ニアリ即チ計約三萬五千ニシテ而モ其  
ノ各隊ハ互ニ著シキ距離ヲ隔テ、配置シアリ

陸軍部隊ノ編制及ヒ沿海州、西伯利亞、及ヒカザン等ノ軍管區ヨリノ増援ハ附録第四ニ示スカ如シ  
海上ノ輸送ハ之ヲ利用スルコト能ハサルモノトシ單ニ西伯利亞鐵道ノミニ由ルモノトシテ三箇  
月ノ終ニ至リ滿洲ニ於テ九萬ノ野戰軍ヲ得ルノ算用ナリ

役員ノ編成

露西亞側

總司令官 アレクサンドル太公殿下(譯者曰ク當時海防艦ア子ラルアドミラル  
アブラクシン副長海軍中佐今ノ海軍少將)

海軍中佐 エゴリエフ(譯者曰ク  
現時大佐)

同 ロヂラーノフ(譯者曰ク現時大佐日露戰役ニハナ  
ロイモフ艦長トシテ俘虜トナレリ)

同 ホムートフ

海軍大尉 ボクロフスキー

同 ドミトリエフ

陸軍歩兵中佐 男爵コルフ

騎兵中尉 ズウエギシツエフ

日本側

總司令官 海軍大佐 ウ井レニユース(譯者曰ク當時ノ軍令部第二  
局長今ノ少將技術會議々々長)

海軍中佐 ウオルチヤスキー

同 チエルヌイシエフ

同 イワノフ

同 ミツウリツチ

同 パルスチ

同 スホームリン

同 ザゴリヤンスキー、キーセリ

同 ビエーラエフ

同 ストイコフ

同 ビーメノフ

陸軍中佐 ボグスラフスキー

海軍大尉 ロゼストウエンスキー  
事故ニヨリ

同 スクルイドロフ代ル

同 クリーゲル

審判官 海軍少將 ミフ子ウ井ツチ

海軍少將 海軍大尉 學校長 海軍少將 參謀本部 陸軍少將

同	陸軍大佐	エバンチン
審判官附	海軍中佐	ヤーコフ・レフ <small>(譯者曰ク今ノ大佐三十七年四月十三日露法セル艦艦ベトロバウロウスタクノ艦長タリ)</small>
同	同	ステツエンコ <small>(譯者曰ク日露戰役中浦鹽艦隊ノ中佐參謀)</small>
同	侍從武官長	伯爵ゲイデン <small>(譯者曰ク今ノ大佐)</small>
同	海軍大尉	ベクレミーンシエフ
同	同	フフチニコフ <small>(譯者曰ク海軍大學校國際法教官)</small>
作業事務係長	海軍大尉	パウリーノフ
作業事務係	海軍大尉	グロスマン
以上ノ外		ステツエンコ
		カズナコフ <small>(譯者曰ク特官會議員海軍大學校評議員)</small>
		ピリレフ <small>(譯者曰ク現時中將海軍大臣)</small>
		フオン・ブエリケルザム <small>(譯者曰ク日露戰役ノ第二艦隊司令官)</small>
		セラブレニコフ <small>(譯者曰ク日露戰役ノ海軍大佐)</small>
		グラマツチコフ <small>(譯者曰ク日露戰役ノ海軍大佐)</small>
		クラード <small>(譯者曰ク日露戰役中橋名ヲ新聞紙上ニ博志シ人當時ノ海軍大學校教官)</small>
		エバンチン

海軍大將	海軍中將	海軍少將	同	海軍大佐	海軍中佐	海軍大尉	同
在滿公使館附陸軍大佐	在東京公使館附陸軍大佐	其ノ他數名	露西亞側ノ方略	ハ時々作業ノ講堂ニ臨席シ必要ノ注意ヲ與ヘラレタリ	露軍ハ艦隊ノ勢力日本軍ノ海軍勢力ニ比シ劣ル所アルヲ以テ其ノ本來ノ任務トスル制海權ヲ握リ敵ノ揚陸動作ヲ妨害スルノ必要アルニモ拘ラス直接日本艦隊ト衝突スル能ハサルモノト認メ一意増援艦隊ノ投合ヲ待ツコトニ決セリ而テ成ルヘク早ク此ノ目的ヲ達セントシ之ニ合同スル爲メ太平洋艦隊ノ主力ハ宣戰布告ニ先ダチモルツクス群島 <small>(譯者曰ク北緯南緯ノ南方ニ向ヒ出動セリ)</small> 浦鹽斯德旅順口及ヒ大連灣ニハ水雷艇ト第二等ノ軍艦ヲ殘シ置クコト、シ巡洋艦、ロシーヤ及ヒリニューリクノ二隻ハ初メ牽制ノ目的ヲ以テ旅順口ヲ出テ日本島ノ東側ヲ通航スル大洋航路ヲ執リテ一旦浦鹽斯德ニ入り其ヨリ更ニ時機ヲ見テ宗谷海峡ヲ通過シ再大洋ニ出テ囊ニ南下セル主力ト合スル爲メ南下スヘキコト、ナレリ	以上ノ運動ヲ開始スルト同時ニ陸軍ノ部隊ニ動員ヲ命シ義勇艦隊汽船ヲ以テ現役兵ノ一團ヲ旅順口ニ送り海軍兵ノ一部ト合シ又其ノ砲ヲ使用シ旅順口ノ防禦ヲ完ウセシム浦鹽斯德ニハ要塞兵ノ充分ナル兵數ヲ存留シ置クコト、シノウオキエフスグ隊 <small>(譯者曰クボシエツト海内ニアリ)</small> ハ七月十日迄ニ伯都納ニ同二十一日迄ニ吉林方面ニ集中サルヘキ部隊ニ對シ前衛トナラシメタリ	

ハ時々作業ノ講堂ニ臨席シ必要ノ注意ヲ與ヘラレタリ

露西亞側ノ方略

ハ時々作業ノ講堂ニ臨席シ必要ノ注意ヲ與ヘラレタリ

露軍ハ艦隊ノ勢力日本軍ノ海軍勢力ニ比シ劣ル所アルヲ以テ其ノ本來ノ任務トスル制海權ヲ握リ敵ノ揚陸動作ヲ妨害スルノ必要アルニモ拘ラス直接日本艦隊ト衝突スル能ハサルモノト認メ一意増援艦隊ノ投合ヲ待ツコトニ決セリ而テ成ルヘク早ク此ノ目的ヲ達セントシ之ニ合同スル爲メ太平洋艦隊ノ主力ハ宣戰布告ニ先ダチモルツクス群島(譯者曰ク北緯南緯ノ南方ニ向ヒ出動セリ)浦鹽斯德旅順口及ヒ大連灣ニハ水雷艇ト第二等ノ軍艦ヲ殘シ置クコト、シ巡洋艦、ロシーヤ及ヒリニューリクノ二隻ハ初メ牽制ノ目的ヲ以テ旅順口ヲ出テ日本島ノ東側ヲ通航スル大洋航路ヲ執リテ一旦浦鹽斯德ニ入り其ヨリ更ニ時機ヲ見テ宗谷海峡ヲ通過シ再大洋ニ出テ囊ニ南下セル主力ト合スル爲メ南下スヘキコト、ナレリ

以上ノ運動ヲ開始スルト同時ニ陸軍ノ部隊ニ動員ヲ命シ義勇艦隊汽船ヲ以テ現役兵ノ一團ヲ旅順口ニ送り海軍兵ノ一部ト合シ又其ノ砲ヲ使用シ旅順口ノ防禦ヲ完ウセシム浦鹽斯德ニハ要塞兵ノ充分ナル兵數ヲ存留シ置クコト、シノウオキエフスグ隊(譯者曰クボシエツト海内ニアリ)ハ七月十日迄ニ伯都納ニ同二十一日迄ニ吉林方面ニ集中サルヘキ部隊ニ對シ前衛トナラシメタリ

陸軍參謀長ノ覺書ニハ附録第七將來ノ作戰ニ關スル意見ヲ陳述シアリ又主トシテ日本海ノ水面ニ於テ艦隊ノ協同働作ヲ要スルノ希望ヲ述ヘアリ  
戰役ノ初期ニ際シ露軍ニハ日本海ニ於テ特別編制ノ巡洋艦隊ヲ編制スルノ企畫アリシモ此ノ計畫中止トナレリ

#### 日本側ノ方略

日本軍ハ其ノ陸軍參謀長ノ意見附録第十ヲ採用シ國民軍ト海軍勢力ノ一部ヲ以テ自國ノ沿岸防禦ニ充テ艦隊ノ主力ヲ擧テ陸兵輸送ノ護衛ト大陸ニ向ヒ之カ上陸掩護トニ當ルノ策ヲ執レリ釜山ヨリ上陸セシメタル一箇師團ニハ道路ノ改築ニ從事シ以テ制海權ノ鞏固ナラサル場合ヲ顧慮シ平壤トノ交通ヲ完カシシムルノ任務ヲ與ヘ約六萬ヲ算スル陸軍ノ主力ハ之ヲ二個ノ梯團ニ分チ露國艦隊ノ働作カ分明スルヲ待テ韓國ノ黃海側ヨリ平壤附近ニ揚陸セシムルノ企畫ヲ爲セリ共ヨリ以後ハ交戰ノ狀況ニ應シ強勢ナル一部隊ハ南烏蘇利邊境カ或ハ關東カノ内ニ上陸セシムルノ企畫ナリ  
概シテ日本軍ノ企畫ハ假令鞏固ナラサルモ制海權ヲ掌握シ廣ク海上ノ交通ヲ利用シ成ル可ク戰鬪ノ區域ニ近ク陸兵ヲ揚陸セントスルニアリ  
本章ニハ方略ノ概略ヲ記載スルニ止メ詳細ハ附録ニ於テ之ヲ示スコト、セリ

#### ○方略ノ遂行

兩對手ハ三月一日ヨリ衝突ノ準備ニ從事シ之ニ要スル種々ノ處置ヲ執レリ即チ露西亞側ニ在テハ第一日ニ共ノ數五十五ニ及フ命令及ヒ訓令ヲ發シタルナドアリ此等處置ノ詳細ハ總テ之ヲ報告ノ中ニ添付シアリ蓋何レモ皆他日有事ノ日參考資料トシテ直ニ之ニ準據シ得ヘキモノナレハナリ露國側ノ作戰計畫ノ眼目ハ畢竟四月三十日ト定メタル期限内ニ於テ遠隔ナル海面ヨリ黃海ノ水面ニ向ヒ海軍勢力ヲ集中セシメ特ニ婆羅的艦隊ヲシテ二週日タケ早ク出港セシメントスルニ在リ我カ戰艦ノ速力ト航續距離トヲ以テシテ時機ニ投スルカ如ク之ヲ派遣センニハ頗ル周到ナル注意ヲ要ス若シ事阻斷シタル曉ニハ回航ノコト却テ諸般ノ働作ヲ滯滞セシムルノ原因トナルヘシ勢力集中ノ一般方略ハ表ニ示スカ如ク又其ノ詳細ハ現存ノ書類ニ就キ研究スルヲ要シ爰ニハ概念ヲ得ル爲メ其ノ主要ノモノ、ミヲ擧ク運動開始ハ三月一日ト定メラレタルヲ以テ此ノ日、リヤードグハヒラデルフイアヨリアヅールス島ニ「ボルターワ」セワストーポリ「ハリパーワ」ヨリシエルプーニ驅逐艦「グロゾウ」オイ「ウラー」スツヌイ「ウヌ」シーテリヌイ「ハア」ブルヨリアルジールスニ「ナヒーモフ」アブリヨーク「カストローマ」譯者曰ク下ノ兩者運送船及ヒ母艦及ヒ水雷艇二隻ハビレーヨリポートサイドニ向ヒ「ツリース」ワチーチェリヤ「ドゥエー」ナツアチアポストロフ「ロス」チスロウ「及ヒ」アリヨール譯者曰ク前三者ハ黑海艦隊ノ精銳ナリ「ハセ」ワストポリヨリポートサイドニ向ヒ何レモ出發セリ

之ト殆ト同時ニ運炭船ノ運動ヲ初メ英本國濠洲及ヒ亞米利加等ヨリ補給石炭ヲ運送スルノ手筈ヲ定ム東航艦艇ニ石炭ヲ補給スルハ義勇艦隊汽船及ヒ露國通商汽船會社汽船ノ補助ヲ藉ルコト、シ或

ハ都合ニ依リ港内碇泊ノ上陸上ヨリスルコトアリ但後ノ場合ニハ再同一國ノ港灣ニ入ラサルコトヲ努ムヘシ

各義勇艦隊汽船ハ最近ニ出發セントスル軍艦ニ伴フヘシ英國ニ於テ新造セル「スモールレンスク」ハ地中海ニ入り水雷艇隊ニ附従スヘシ

在絶東ノ主力艦隊ハ三月三日旅順口ヨリ出港スヘシ其ノ大洋ニ出テタル後ハ分レテ二トナリ其ノ「ローンヤ」及「ヒリユーリック」ハ北航シ津輕海峡ヲ經テ三月十三日浦鹽斯德ニ入り「ペトロパウロウスク」ナワリン「シツイ」モスクワ「サラトーフ」ヘルツン「キーエフ」ノ諸艦船ハ直ニブーントン島「モルツク」群島ニ向ヒ三月十五日同地ニ到達スルノ豫定ヲ以テ航スヘシ

小艦船水雷艇及ヒ補助船舶ハ旅順大連浦鹽斯德ニ止リ戦闘準備ヲ爲スヘシ

陸軍モ亦動員ヲ行ヒ其ノ一部ハ監視哨ニ就キ又南滿洲ニ集中スルノ準備ヲナス西伯利亞軍隊ノ補充トシテハ歐露ノ軍管區ヨリ輸送ヲ行フ

歐露ヨリ東航スル諸艦ハ紅海ニ集合スルコト、定メ爰ニ日本ノ新艦ニシテ回航スルモノヲ待チ四月二日及ヒ四日ノ夜之ニ對シ水雷攻撃ヲ行フ此ノ結果露軍ニ利アリ即チ朝日及ヒ出雲ハ損傷ヲ受ケ其ノ東航幾日カ遅延サル然レトモ露軍ニモ亦驅逐艦「グロゾウオイ」「ウラースツマイ」二隻沈没シ之カ乗員ハ「スモールレンスク」ニ收容サル、コト、ナレリ

露國艦艇ハ「アツダバチブー」等ヲ經テ南方ノ針路ニヨリ印度洋ヲ航過シ黑海艦隊「ナヒーモフ」及ヒ義勇艦隊汽船二隻ハ四月九日ニ婆羅的艦隊「ワリヤーグ」及ヒ「スモールレンスク」ハ四月十四日ニ

總集合點ニ到着シ爰ニ聯合艦隊ヲ編成シ一隊トナリ北ニ向ヒ航行呂宋島ノツーマンゴニ達シ爰ニ石炭ノ補充ヲ行ヒタル後四月二十五日正午黃海ニ入り東經一二四度北緯三四度三〇分ノ地點ニ達シ上海ヨリ情報ヲ得ルコト、定メタリ

電信局ト通信ノ方法及ヒ生糧品補充ノ手續等ハ爰ニ記載セス

四月十三日日本軍カ旅順ニ對シ總攻撃ヲ行ヒタル日ニ當リ同港ヲ脱出セル「フサードニク」ノ齋セル情報ニ依レハ旅順ハ未タ開城ノ悲運ニ陥ラサルコトヲ信セシムルモノアリ四月二十九日ヨリ三十日ニ移ル夜間露國艦隊ハ日本偵察艦隊ト行き逢ヒ之ニヨリ封鎖ノ解カレタルヲ知り鎮南浦方面ニ向ヒタルモ日本艦隊ノ主力ヲ發見セス雙方巡洋艦ハ互ニ砲火ヲ交ヘタル後相離レタリ大連灣ニ歸リ爰ニ露艦隊ハ其ノ後ノ運動ニ要スル石炭ヲ補充シ日本艦隊ハ優勢ナル敵艦隊ノ近ツケルヲ探知シ海上游弋ヲ止メ佐世保及ヒ下ノ關ニ向ヘリ但敵ノ監視ヲ怠ラス

以上ノ如クニシテ露國方ハ主要ノ戰場ニ海軍力ノ集中ヲ遂ケタリ此ノ間便宜ノ爲メ日本方ノ動作ト照應ヲ挿入ス

日本ハ到底戰爭ノ避クヘカラサルヲ見ルヤ三月一日ヨリ戰爭準備ヲ初メ其ノ軍艦ハ之ヲ各鎮守府ニ分配シ鎮守府艦隊ヲ編制シ以テ露國艦隊ノ動作ヲ監視シ來レリ

陸軍部隊ノ輸送ニ適セル總テノ汽船ヲ徵發シテ之ヲ乗船スヘキ港灣ニ集中セシメタリ

三月八日第十二師團ヲ釜山ニ向ケ輸送ス木師團ノ任務ハ海上交通ノ杜絶シタル場合ニ韓國内地ヲ通シテ軍隊ヲ行軍セシムル爲メ之カ道路ヲ開通スルニアリ



同時日本巡洋艦ハ或ハ黄海ニ偵察ヲ試ミ或ハ小笠原島方面ニ派遣セラル是露國艦隊ノ主力ヲ求ムルカ爲メニシテ主力ハ既ニ旅順ヲ出テ同港ニハ單ニ第二流ノ艦艇ノミ殘留セルノ報ニ接シタレハナリ

日本軍ハ露國艦隊ノ退去ニヨリ大膽トナリ三月十二日主力艦隊護衛ノ下ニ六十隻ヨリ成ル輸送船隊ニ陸軍兵ノ第一旅團ヲ乗セ派出スルコトニ決シ此ノ部隊三月十五日平壤ニ著シ揚陸ヲ行フ揚陸ヲ終リタル運送船ハ直ニ自己所屬ノ港ニ歸航スルコト、定メラレタリ

封鎖戦隊ハ浦鹽斯德及ヒ旅順ヲ封鎖スル管ト定メラレ之カ爲メ宣戰布告ノ翌日霧中ニ乘シ旅順ヨリ出港セル水雷艇ノ攻撃ヲ受ケ巡洋艦橋立ヲ亡ヘリ

第二梯團ハ之ヲ八十五隻ノ運送船ニ分乗セシメ三月二十三日下ノ關ヲ出テ二十六日軍艦護衛ノ下ニ平壤ニ到着セリ此ノ部隊カ揚陸ヲ終リタル時ハ韓國内ニ七萬ノ日本軍アリテ日本側ニ優勢ヲ見タルノミナラス韓國軍隊ヲ露軍ニ合スル能ハサルコト、ナレリ此ノ時期ヨリ露國陸軍ハ動員ヲナシ集中ノ途ニ就キ要塞兵ハ防備ニ取掛ルコト、ナル

第三梯團ハ之ヲ百隻ノ運送船ニ分乗セシメ四月六日下ノ關ヲ出テ黄海ニ入ル本梯團ハ旅順ノ防備薄弱ナルヲ見ルニ於テハ關東州ニ揚陸ノ管ナリ是ヨリ先キ三月二十六日大連灣ハ砲撃ヲ受ケ之カ防禦ニ當ル三隻ノ軍艦沈没シタルモ「ドンスコイ」及ヒ「モノマール」ノ二隻ハ三月三十日旅順ヨリ封鎖ヲ脱シ南方ニ向ヘリ

四月十日午前六時二個師團ケル灣ヨリ揚陸ヲ始メ同時海上ヨリ旅順ヲ砲撃ス十時ニ到リ鳴灣ヨ

リモ揚陸ヲ行ヒタルモ初メハ成功セス然レトモ海岸ヨリ撃退サル、ニ到ラス陣地ヲ維持シテ爰ニ掩堡ヲ築ケリ

三日ヲ經テ旅順ノ海陸總攻撃ヲ行フ然レトモ遂ニ成功セス(抽籤ニ依リ)

四月十八日再舉總攻撃ヲ行フ然レトモ要塞ハ此等勇敢ナル突撃ニ對シ耐持スルヲ得タリ

負傷及ヒ病兵ヲ木國ニ後送シ又軍隊ノ一部ヲ鴨綠江口ト營口トニ分チ轉送シ金州地頭ニハ一個師團ヲ駐屯セシメ鐵道ヲ占領シタル上ハ韓國ニ於ル部隊ト相聯合シテ半島ノ北部ニ運動セントシタルモ此ノ企畫未タ發展ニ到ラス

露國艦隊近ツケリトノ情報ニ接シ日本艦隊ハ旅順ノ封鎖ヲ撤シ其ノ港口ノ通路ニ運送船一隻ヲ沈メテ之ヲ閉塞シ又黄海ニハ有力ナル偵察戰隊ヲ配シ四月十九日石炭補充ノ爲メ佐世保及ヒ下ノ關ニ歸レリ

四月十九日ノ夜「アドミラル、コロニコフ」ハ汽船「ヤロスラウリ」及ヒ水雷艇隊ヲ護衛シ航行中日本ノ假裝巡洋艦小隊ニ發見サレ對馬島附近ニ於テ十隻ヨリ成ル水雷艇隊ヨリ攻撃ヲ受ケ此ノ結果雙方共水雷艇四隻ツ、ヲ亡ヒ汽船「ヤロスラウリ」ハ轟沈セラル

「アドミラル、コロニコフ」ハ水雷艇隊ヲ率井英國ヨリ回航ノ途ニ在ル戰艦朝日ヲ迎撃スルノ目的ヲ以テ臺灣海峽ニ向フ水雷巡洋艦モ亦之ニ合スル管ナリ

日本軍ハ尙第四梯團約二萬ノ兵ヲ六十隻ノ運送船ニ分乗セシメ新浦ニ向ケ輸送ノ準備ヲ爲セリ

新浦ニハ露ノ駐屯軍アリ揚陸ノ成否ハ問ハスニテ明ナルモ日本軍ハ其ノ偵察ノ結果成效スヘキ

モノトセリ

四月三十日露國聯合艦隊ハ黃海ニ入り其ノ鎮南浦方面ニ向ヒタルノ情報日本ニ達ス

### 終結ノ海戦

露國艦隊ノ大連灣ニ於テ石炭補給ヲ爲シツ、アルノ間日本艦隊ハ水雷艇隊ヲ率井木浦ニ集中シ偵察艦ヲ放チテ敵ノ働作ヲ監視セリ露國艦隊ハ五月一日石炭補充ヲ終ヘ其ノ翌日舟山島ニ向ヒ出港爰ニ自己ノ運送船ヲ迎ヘ之ヲ旅順ニ護送シ大連灣ニ歸リ碇泊セリ

日本軍ハ露軍艦隊ノ優勢ナルヲ認ムルモ己レ水雷艇ノ多數ヲ有スルヲ以テ屢々大連碇泊中ノ露艦ニ向ヒ頻次ノ水雷攻撃ヲ行ヘリ五月二日ノ夜第一回攻撃ハ三隻ノ水雷艇ヲ亡ヒテ不成功ニ終リ三日夜第二回攻撃ハ露軍百方手ヲ盡セルニモ拘ラス遂ニ戰艦セレストーポリヲ戰列ヨリ亡ヘリ露國軍艦ハ其ノ舷側ヲ外海ニ向ケ「ホーサー」ヲ以テ互ニ舫ヒヲ取り繫泊シ防禦網ヲ二重ニ張ル但特別準備ノ運送船ヲ使用スルノ防材張り方ハ露軍之ヲ有セス

### 陸上ニ於ル働作ノ景況

露軍ノ發展ハ五月四日ニ到ルモ尙未タ遙ニ及ハサル所アリ然レトモ之カ保安ノ方法ニ就テハ諸般ノ處置ヲ執ラレタリ即チ吉林ヨリ奉天ニ向フ方面ニハ優勢ナル前進部隊ヲ派遣シ又ノウオキエフスク軍團ハ之ヨリ北韓方面ニ前進セシメタリ是時宜ニヨリテハ韓國ノ中心ニ向フカ或ハ中央烏蘇利ニ向ヒ働作スヘキモノニシテ就中後者ニ向フニ於テハ最有望ト目セラル

伯都納ノ集中ハ七月十日ニ終ルヘキ見込ニシテ其ノ以後ナラテハ勝算望ムヘカラス

日本陸軍ハ五月初旬ニ既ニ滿韓ニ於ル露軍ニ對シ中樞ノ位置ヲ占メタリ即チ四個師團ハ鴨綠江ノ北方彎曲部ニ陣地ヲ占メ其ノ後方ニハ尙二個師團ノ豫備アリ一個師團ハ其ノ前營ヲ營口ニ有シ奉天ニ向フノ途ニ上リ他ノ二個師團ハ大和尚山ノ南方ニ在リテ五月二十日ニハ増援トシテ前頭ノ師團ニ合シ得ヘシ

一個師團ハ關東地頭ニ残り旅順ヲ閉塞ス二萬ヨリ成ル最後ノ梯團ハ四月二十四日未タ露國聯合艦隊ノ北上セサル間ニ新浦ニ上陸シ得タリ

大陸ニ上リタル日本軍ノ總數ハ十四萬三千砲四二〇門ト算シ七月一日迄ノ糧食ヲ有ス其ノ以後ハ土地ノ生産物ヨリ給養ヲ仰キ不足ヲ感スルコトナシ

斯クテ兩軍ノ斥候衝突ノ時ヲ以テ作業終結トナリ軍主力ノ衝突ヲ見ス勝敗ノ籤モ亦抽カレステ作業ヲ終レリ

### 兩側ノ對照及ヒ審判官ノ講評

審判官ハ作業中ニ當リ兩側ノ或働作ニ對シ警告ヲ與ヘ又作業終結ノ後ハ雙方ノ當事者ヲ相會合セシメテ互ニ情報ノ共認ニ關スル報告書ヲ呈出セシメ出席者ノ意見及ヒ辯明ヲ聽キ取リタリ就中露西亞側ノ執リタル働作ハ他日有事ノ日之ヲ應用スルノ場合ニ臨ミテハ成ルヘク多大ノ教訓ヲ與フヘキモノナルヘントノ目的ヲ以テ審判官ハ特ニ之カ檢察ト講評トヲ加ヘタリ日本側ノ働作ニ關シテハ日本人カ實際如何ノ働作ニ出ツルヤ知ル能ハサルヲ以テ單ニ假設的ノ效果ヲ有

スルニ過キス

(イ) 學生中陸軍代表者カ立案スルカ如キ日本陸軍ノ兵數ニ關シテハ過大ノ推算ヲナシナカラ共ノ戰鬪ノ能力ヲ視ルニ極テ低キ程度ヲ以テスルノ不謹慎ナル見界ハ審判官ノ贊成スル能ハサル所ナリ

己レノ敵ヲ侮ルヘカラス日本人ノ如キ特異ノ性情ヲ有スル者ヲ敵トシテハ特ニ然リトス須ク自己勢力ヲ適當ニ發展スルコトニ努メ又對敵ノ發展ニモ注意シテ監視スルコト必要ナリ

(ロ) 露國艦隊ノ所在モ其ノ意志モ之ヲ確知スルニ由ナキノ時ニ當リ大規模ノ陸兵輸送ヲ行ハントノ日本側ノ決心ハ假令護衛ヲ附シタリトスルモ甚タ冒險ノ處置ナリト認メサルヲ得ス但日本側ハ巧ニ其ノ戰略上ノ優點ヲ利用シ露國陸軍ノ集中ニ先タチ其ノ欲スル占領ヲ遂ケ大陸ニ於テ交戦シ得ルニ到レリ

(ハ) 日本側ノ最甚シキ失策ハ旅順ヲ逸出シテ南下セル露國艦隊ニ對スル偵察ノ不充分ナルニアリ是ヲ他日露日ノ實戦トスレハ吾人ハ敵ヨリ不撓ノ追窮ヲ受クルモノト覺悟セサルヘカラス露國巡洋艦小隊ト戰艦小隊ノ互ニ分離シタルノ時ニ於テ日本艦隊ノ之ニ乘シ攻撃ヲ加フルニ於テハ勝算歴々トシテ明ナリシナリ事若シ爰ニ到リテハ假令總増援艦隊ノ回航合同スルモノトスルモ露軍ハ遂ニ其ノ優勢ヲ見ル能ハサリシナラン而モ損傷セル日本軍艦ハ其ノ工廠ノ有スル無限ノ修船實力ニヨリ迅速復舊シ得ヘカリシナリ

尙日本艦隊ハ露國艦隊ノ一部ト衝突シ勝利ヲ得タリトスレハ日本軍ハ直ニ航續距離ノ多キ軍

艦數隻ヲ派遣シ新艦ニシテ歐洲ヨリ回航ノ途ニアル者ヲ迎ヘシメ斯クテ一方ニハ露國増援艦隊ノ回航ヲ停滯セシムルノ策ニ出ツルコトヲモ爲シ得ヘキナリ

(ニ) 捲土重來ノ勢ヲ有スル露國聯合艦隊ト決戦ヲ試ムルニ先タチ水雷攻撃ヲ以テ之ヲ弱ラサントノ日本側ノ決心ハ事宜ニ適シタル策ト認メラル何トナレハ露國艦隊ノ彈量ハ日本ノモノヨリモ優勢ナルモ之ニ反シ日本艦隊ハ水雷艦艇ニ於テハ著シキ優勢ヲ有スレハナリ故ニ假令若干隻ノ水雷艇ヲ犠牲トスルモ露國艦隊ノ戰艦ノ隻數ヲ減スルハ決戦準備ノ意ニ於テハ策ノ得タルモノト認メラル

露國側ノ働作ニ對シ左ノ講評ヲ加ヘラレタリ

(一) 日本軍ノ平壤附近ニ上陸ヲ試ミントスルモノニ對シ何等之ヲ防碍スルノ處置ヲ執リタルコトナク又鳩灣ニ日本運送船ノ入港ヲ妨クルコトヲモ爲サ、リシ

(二) ノウオキエフスク枝隊ヲ迅速ニ前進セシメンニハ海軍ト協同シテ浦鹽斯德ヨリ元山ニ向ケ陸軍兵及ヒ其ノ軍需品ノ海上輸送ヲナスヘカリシナリ然ルニ事爰ニ出テサリシ

(三) 日本軍ノ行ヘル新浦上陸ノ成功セルヤ否ヤノ問題ハ作業終結ノ後ニ到ルモ尙何等講評ヲ加フル能ハス

(四) 定期汽船便ニヨリ派出通信員ヲ使用シ牒報ヲ得ルノ方法ヲ講セサリシ

(五) 諸軍艦ニ航續距離ノ僅ナルコト、石炭調達ノ困難ナルコト、ハ露國艦隊ノ働作ヲ滯留セシメタリ給炭ニ關シ最良ノ方法ハ義勇艦隊汽船ヲ籍ルニアリ

(六) 旅順口ノ港口ニハ閉塞船ノ沈メラレタルモノアルト且外港ニ未タ掃海セラレサル面積アリテ  
 錨地狹隘ナルカ爲メ露國艦隊ハ其ノ石炭補充ヲ行フニ當リ同港ニ於テスル能ハスシテ大連灣  
 ニ於テシ共ノ間敵ノ水雷攻撃ニ對シテハ周到ニシテ果斷ナル防禦方法ヲ講セリ然レトモ此ノ  
 如キ處置アリトスルモ特務船例ヘハ防材船ヲ有セサリシ點ハ水雷艇ノ夜襲ニ對シテハ甚タ冒  
 險ノ状態ニアリタルモノト謂フ可シ  
 然ルニ斯ル水雷襲撃ヲ冒シテモ碇泊スルヨリハ寧ロ自己ノ後方ニ掩護ノ戰隊ヲ置キナカラ敵  
 ノ偵察艦ヲ驅逐シ直隸海峽内ニ入り終夜航行スルヲ以テ露國艦隊ニ取り有利ナルヘシトノ意  
 見モアリタリ

(七) 若シ「リユーリク」ロシーヤ及ヒ高速義勇艦隊汽船二隻ヲ以テ巡洋艦戰隊ヲ編制シ日本ノ同戰隊  
 ト對抗セシメタランニハ其結果ヲ見タルヤモ圖ラレス

(八) 滿洲ニ於ル國際關係ノ問題ハ研究セラレサリシモ此ノ解決ハ露國ニ取り有利ノ方ニ理解セラ  
 レタリ  
 艦隊ノ一部ヲ旅順ト浦蘆斯德トニ殘シ其ノ主力ヲ提ケ戰場ヲ出テ或集合點ニ向ヒ爰ニ約二箇  
 月間モ空シク滯留シテ地中海ヨリノ増援ヲ待ツカ如キ戰略ノ結果ニハ多大ノ注意ヲ拂ハサル  
 ヘカラス  
 勿論斯ノ如クニシテ最近キ時日ノ間ニ分離セル艦隊ヲ一團ニ聯合シ日本艦隊ト決戰ヲ爲サン  
 ニハ充分優勢ノモノトナシ得ヘキモ同時此ノ二箇月間ハ敵ハ海上ニ充分ニ跳梁跋扈スルモノ

ト覺悟セサルヘカラス其ノ南方ニ於ル艦隊集合地ヲ發見サレンカ此ノ時コソハ日本艦隊ノ尙  
 優勢ナル關係上危險ノ地ニ陷ルヘシ但シ主ナル戰場ヨリ餘リニ遠隔ナルノ故ヲ以テ日本軍ハ  
 其ノ或ハ此ノ企畫ヲ斷念センモ圖ルヘカラスト雖モサル代リニ倍陸兵輸送ノ舉ニ出テン此ノ  
 見地ヨリスレハ或他ノ戰略ニ出ツルヲ以テ有利ト認メラル、モノアラシカ試ニ之ヲ説カン  
 (一) 總海軍力ヲ日本海ニ集中シ以テ浦蘆斯德及ヒ其ノ以南ノ沿岸ニ對スル敵ノ揚陸ヲ防グコト  
 トスレハ之ニ由テ享クル所ノ利益ハノウオキエフスク部隊ハ直ニ南滿洲ニ向ケ得ルニ在リ」  
 浦蘆斯德ハ二個ノ出入口ヲ有シ旅順等ニ比スレハ之ヲ封鎖スルニハ一層ノ困難ヲ感スヘシ  
 ト雖モ或期間日本ハ其ノ艦隊著シク優勢ナルヘキヲ以テ露國艦隊ヲ日本海内ニ威壓シ得テ  
 黄海方面例ヘハ平壤附近鴨綠江口關東州沿岸等ニハ全ク任意ニ其ノ揚陸ヲ行ヒ得ヘキナリ  
 (二) 總海軍力ヲ黄海ニ集中シ旅順ヲ根據地ト定ムルトキハ之ニ依テ得ル所ノ利益ハ日本陸軍ノ  
 揚陸運動ヲシテ黄海ノ北部ニ對シテハ甚タ困難トナラシメ朝鮮海峽ノ沿岸カ若クハ日本海  
 方面ヨリセサルヘカラサルコト、ナラシムルニ在リ但此ノ策ヲ執ルニ於テハ旅順ノ封鎖ハ  
 日本ニ取り比較的容易ノ業ニシテ又南烏蘇利境ニ駐屯スル露軍ハ須ク上陸地點ト目セラル  
 ヘキ豆滿江新浦及ヒ尙浦蘆斯德附近ニ迄モ豫メ配備サレヘキモノト覺悟セサルヘカラス  
 旅順ニシテ容易ニ封鎖セラレ我カ烏蘇利軍隊ニシテ豫メ其ノ配備ニ就カサルトキハ韓國ニ  
 於ル日本陸軍ノ働作ハ自由ノモノトナラン  
 (三) 總海軍力ヲ南韓ノ一港カ若クハ朝鮮海峽ノ一島ニ集中センカ

斯ノ如キ位置ハ日本運送船ノ出航ノ航路ニ當リ日本海方面ニ對スルモ黃海方面ニ對スルモ其ノ輸送ヲ威脅スルヲ以テ有利ト認メラル

但此ノ方略ノ實行ニ關シテハ第一日本海軍力ニ對スル優勢ヲ有セサルヲ以テ強テ之ヲ遂ケント欲セハ一八九六年ノ坐上戰術作業ノ成績ニ於ルカ如ク露國艦隊ヲシテ窮境ニ陥ラシムルモノナリ

斯ノ如クナルヲ以テ此等提議ノ中一トシテ敵ノ揚陸運動ヲ妨害シ沿岸一帯ノ安全ヲ保證スルニ足ルモノナシ然レトモ韓國沿岸ノ中何レカノ一方ニ於テハ或局部ニ限リテハ敵ノ揚陸ヲ困難ナラシムルコトヲ得依テ太平洋艦隊ノ總艦艇ヲ例ヘハ浦鹽斯德ニ配備スルニ於テハ日本海ノミハ敵ノ揚陸ヲ防クコトヲ得ヘシ斯クテ其ノ巡洋艦ヲ使用セハ黃海トノ通信ハ之ヲ維持スルニ難カラサルナリ勿論旅順ハ此ノ場合ニ於テハ固有ノ物資ニヨリ持久シ得ルモノト認メサルヘカラス

此ノ方略ノ不利トスル點ハ地中海ヨリ回航スル増援艦隊ノ合同カ遅延スルコト、又其ノ朝鮮海峽及ヒ津輕海峽ヲ通過シタル後ニ甚タ不利益ノ狀況ニ陥ルニアリ

此等増援艦隊ノ幸ニ合同スルニ於テモ其ノ勢力ニ於テ日本ノ戰鬪艦隊ニ匹敵スルノ程度ニ在ラサルヘカラス此ノ勢力アリテ然ル後ニ在來ノ被封锁艦隊ノ加リテ初テ日本ニ對シ優勝ノ勢力ヲ構成シ日本軍ヲシテ海上ノ游弋ヲ絶タシムルニ到ルヘキナリ故ニ露西亞側ニ於テハ如何ノ決心ヲ執ルモ其ノ望マルヘキ眞ノ結果ハ歐洲ヨリ到達スル増援艦隊ノ合同シタル

後ニ於テ初テ收メラルヘキモノト覺悟セサルヘカラサルナリ

作業當事者ノ決心ノ如ク此等増援艦隊ヲ迎フル爲メ太平洋艦隊ノ主力ヲ提ケテ南下スルノ策ハ畢竟敵ノ勢力ト比シ自己ノ薄弱ナルノ窮境ニ處シ其ノ被ル損害ヲ極少ナラシメントスルニ外ナラス

此ノ如キ方略ニ出テサラント欲セハ太平洋ニ充分ノ兵力ヲ貯フコト最必要ナリ

露西亞側ノ方略ヲ論スルニ當リ説ヲ爲スモノアリ曰ク太平洋艦隊ノ一部勢力ハ或程度迄ハ却テ地中海艦隊ニ對シ豫備艦隊トナルヘシト

我カ海軍ヲ以テ直ニ英國海軍ニ比スヘカラサルハ第一英國ニ於テハ海軍ノ主要根據地ヲマルタトセリ然ルニ我ニ於テハ之ニ準スル根據地トシテハ目下ハ浦鹽斯德ニアリ將來ハ旅順ニアラン加之英國ハ蘇士運河其ノ他ノ交通路ヲ管制シアルヲ以テ地中海艦隊ヲ東方ニ派遣センハ隨時之ヲ遂行シ得ヘキモ吾人ハ此ノ點ニハ甚シク困難ノ狀況ニアリ

我カ艦隊ノ一部分ヲ割キ之ヲ地中海ニ逆航セシムルハ英國ト利害ノ目的ヲ一ニスルトキノミ行ハレ得ヘシ然ラサル場合ニ於テハ絶東ニ於テモ印度洋ニ於テモ我カ海軍力ノ働作ニ對シ障礙トナルヘキモノ充分ニ存セリ若シ又此ノ如キ勢力ヲ地中海ニ配シタランニハ恐ラクハ同海内ニ封锁セラル、ニ到ラン

最或特別ノ局處の目的ヲ以テ有力ナル地中海艦隊ヲ配備セントノ斯ル考案モ嘉スヘシト雖モ是ハ佛國若クハ自餘ノ某國ト同盟ヲ得タルノ時ナリ

陸軍ニ在テモ其ノ韓國(若クハ清國)ニ於テ決戦ヲ試ムルニ到ルハ西伯利亞及ヒ歐露ヨリ著シキ援隊ノ到達シタル後即チ三―四箇月ノ後ナルヘキコト明ナリ然ルニ此ノ間ニハ日本軍ハ既ニ韓國ヲ占領スルノミナラス尙深ク爰ニ根據ヲ固ムルニ到ルヘシ依テ此ノ占領ヲ許サ、ラント欲セハ常ニ充分ノ兵數ヲ配備シ集中ニ時ヲ遷サス直ニ動作ヲ起シ得ルカ如キ準備アルヲ要ス

例ヘハ吉林附近若クハ鴨綠江上流ノ地方ニ一軍團ヲ配置シタリトセハ我カ保護州ノ不可侵權ヲ侵害スル如何ノ行爲ニ對シテモ嚴シク屏懲ヲ加ヘ得ヘキナリ

斯ノ如キ軍團ヲ編制シ之ヲ配備シ又維持センニハ勿論多額ノ金ヲ要スヘキモ之ヲ軍艦建造ニ比スレハ時日ノ點ニ於テハ著シク短期ノ間ニ成就シ得ヘシ尙軍團ノ編成ニ要スル要素トシテハ我カ國ニ於テハ之ヲ得ルコト難シトセス兵卒、馬、野戰砲及ヒ陸軍將校スラモ水兵、軍艦、巨大ナル海軍砲及ヒ海軍將校ヲ得ルヨリモ迅速ニ準備補充シ得ヘキナリ

又滿洲ノ中央ニ陸軍兵ノ多數ヲ平素駐屯スルノ土民ニ及ス影響ノ大ナルハ艦隊カ海岸ニノミ寄港シ其ノ接スル所ノ民衆ト言ヘハ全クノ局處的ニシテ殊ニ外國人ヲ多シトスルト同一ノ論ニアラサルコトヲ忘ルヘカラス

一軍團ノ兵ハ之ヲ使用シテ道路ヲ開通シ鐵道敷設工事ヲ助ケ又將來ニ必要ナル要塞ヲモ建築シ得ヘク又恐ラクハ黃色人種ニ對シ我カ文化ヲ普及セシムルノ補助トモナラン

清國ニ於ル特別ノ事情ハ四軍團ヲ編成シ置クノ必要ヲ喚起セシメタリ何人ト雖モ今ノ時ニ於テ滿洲占領ノ必要ヲ疑フモノアラス——隨テ同時前記考案ノ遂行ヲ見ン

#### 一九〇〇年坐上戰術作業問題海軍部ニ關スル記錄

一九〇〇年ノ戰術作業ニ際シ絶東ニ於ル我カ海軍ノ状態ヲ研究スル時ハ我カ艦隊勢力ヲ増加スルノ必要アル一目瞭然タリ既ニ清國ニ對シ干涉ノ端ヲ啓キタルヨリ生スル葛藤ハ自餘ノ外國殊ニ日本ト衝突ヲ來スヘキノ關係ニアリ此ノ場合ニ於テハ總テ事ノ成リ行キハ假想外交政略ノ章ニ於テ陳述スルモノト甚シキ懸隔ナシト雖モ働作ノ發端ハ韓國ニ於テセスシテ清國ニ關シ起ルモノトス尤韓國問題モ亦爭端ノ因トナリ易シトス

勿論退讓ナル外交政策ハ相互ノ關係ヲ融和シ衝突ヲ避ケ得ヘシト雖モ事變ハ由來政府ノ一定ノ意志ニ反シ圖外ニアル長官等ノ自負ノ野心ヨリ起リ易キモノニシテ尙此ノ退讓モ其ノ度ヲ超エ戰爭準備未ダ整ハサルノ口實ノ下ニ今日迄經營慘憺ノ末漸クニ其ノ基礎ヲ固メントシ將來ニ於テモ亦莫大ノ金額ヲ要セントスル現下ノ状態ヲ失ハントスルカ如キハ失態ノ甚シキモノト謂ハサルヘカラス故ニ從來屢戰術作業ノ行ハレシ時及ヒ其ノ他ノ場合ニ於テモ既ニ我カ海軍力ノ不足ナルヲ認メラレ此ノ結果トシテ擴張ニ係ル新艦艇竣工ノ曉ヲ鶴首シテ待ツヘシトハ一般ノ傾向ナリ然ルニ我カ新艦艇ノ建造機裝ノ工事ハ銳意急カレツ、アルト同時對手モ亦同シク其ノ海軍勢力ヲ張リツ、アリ斯クテ兩々同一目的ニ向ヒ趨ルモノトセハ東方ニ於ルカ如ク渺カラス西方ニ於ル利益ニモ併セテ顧慮スルノ吾人ヨリモ對手ハ早ク既ニ其ノ目的ヲ達シ得ヘシ故ニ若シ吾人ニシテ歐洲ニ於ル均勢ニ對シ注意ヲ拂フコト渺シトセンカ吾人傳來扶植ノ美果ハ吾人ノ競爭者ノ奪フ所トナルヘシ例ヘハ黑海ノ如キ吾人ハ既ニ古代露西亞ノ海トシテ此ノ關門ヲ安全

ニ因メタルニアラスヤ

吾人ノ日本ト土耳其ニ對スル態度ニハ雙方緩急ノ別アルヘカラストハ既ニ幾回カ吾人ノ受ケタル勸告ナリ又十年前近東方問題土耳其ニ關スル日本人ノ見解ト題セル書ノ公ニセラレタルコトアリ今ハ君府駐紮英國大使ハ同時日本政府ノ代表者タルノ事實ヲ忘却スヘカラス土耳其ハ其ノ海軍ヲ再興シ又英國士官ナラサル迄モ獨國士官指導ノ下ニ陸軍ノ改革ヲ行フ寔ニ故ナクンハアラス總テ此等ハ吾人ニ取り不快トスル所ナリ

海軍ノ艦艇ヲ新造シ成ルヘク早ク海軍力ヲ増スコトノ如何ニ困難ナルヤヲ説明センカ爲メ爰ニ一八九二年ノ春清國河航砲艦殊ニ天津ノ警備艦一隻ヲ建造スルノ必要起リタル事實ヲ説カン即チ當時ノ太平洋艦隊司令長官今ノ海軍大臣ノ幕僚間ニ一隻ノ砲艦ヲ設計セラレタリ是「ギリヤーク」ニシテ此ノ案ノ話頭ニ上リテ以來無慮八箇年ノ後漸ク絶東ニ回航セラレタルカ如キ有様ナリ同時又「マンデウール」コレローツ型砲艦ヲ太平洋艦隊ニ加ヘントノ問題起リシモ此ノ議遂ニ決裁ヲ經スシテ止ム但此ノ型ハ稍有力ニシテ急速ニ建造シ得タリシナラン若シ我ニ此ノ型式砲艦十二隻ヲ有センニハ日清戰爭終結ノ時ニ當リ日本海軍力ヲ殲滅シ得タルナラン即チ日本ニ取りテモ其ノ隣國ニ取りテモ同様最恐ルヘキノ勁敵トナリシナリ今時ト雖モ此ノ種砲艦尙有利ノモノト認メラレツ、アリ

太平洋ニ於ル露國海軍力ヲ増大ニ維持スルノ必要ヲ感スルニ到リタルノ考案ハ造船工事ノ停滯遲延カ外部ニ發露スルニ到リ初テ起リタルモノトス而モ現時ニ於テモ同様擴張計畫ニ係ル艦艇

ノ建造ニハ其ノ竣工期ノ遲延事實トシテ現レツ、アリ

太平洋艦隊ハ現時ニ在テモ六年前ニ在テモ露西亞ノ威力ニ比例シタルモノト謂フヘカラス何トナレハ對手ハ既ニ吾人ト協同利益ニ向ヒ相提携ヲ欲スル者ニアラス自己ニ或特異ノ希望ヲ懷キツ、アルノ兆現レタレハナリ

要スルニ大勢力ニシテ存在スル以上ハ之ニ課スルニ過度ノ要求ヲ以テセストモ夫相應ニ働作シ得ヘキ希望優ニ存スルモノトス

吾人ノ人後ニ落チタルノ例ハ既ニ世ノ知悉スル所ニシテ今更ノコトニアラス例ヘハ吾人ハ一八五三年ニ到ル迄汽船ノ建造ニ後レタルアリ又一八七七年マテニ黒海ニ於テ攻撃艦隊ヲ浮ヘ得ルノ權利ヲ有シナカラ之ヲ利用スルコトナカリシカ如キアリ又補助物資ニ對シテモ何故カ是冷々ニ看過セリ勿論補助船舶ハ商船ヲ徵發スヘキモノナレハ特別其ノ目的ニ適シ建造サレタル軍艦ト同一ノ勢力ヲ構成スルモノニアラスト雖モ急ニ之ヲ利用シ得ル爲メ時日ノ黠ニ於テ得ルトコト甚タ大ニシテ決シテ輕々看過スヘキニアラス現ニ近來西米ノ戰爭ニ就テ見ルモ快走船及ヒ汽船ヲ軍事行動ニ使用スルノ利益アルヤハ夙ニ證明セルトコロナリ

一八五四年ノクリミア戰爭後英國政府ハ何故ニクロンスタッドノ攻撃ニ淺吃水汽船ヲ用ヒサリシヤトテ輿論ノ攻撃ヲ受ケタリシカ其ノ後一八七八年ニハ稍時機ヲ後レタリト雖モ尙皇子叢島ノ警備艦トシテ若干隻ノ曳船ヲ使用シタルノ事實アリ

以上ノ理論ハ必竟手裡ニ現存スル總勢力ヲ時宜ニ適セル目的ニ利用スルコトノ必要ニ歸著シ

ノ如ク行ヒタル上初テ我カ沿海敵襲ノ虞アル地點ノ防禦ニ當リ又必要ニ應シ自ラ進テ敵ヲ攻撃シ得ルタケノ勢力ヲ得ヘキナリ免ニ角不撓ノ勇氣ヲ以テ當ルノ決心ヲ示スハ對手ノ執著心ヲ弱メシムルナリ

海軍力ノ一般配備ノ原則ヲ説明センカ爲メ先ツ沿海ノ一ニ就キ其ノ海軍勢力ノ任務ヲ説カン婆羅の艦隊ノ任務ハ防禦戰ノ場合ニ於テハ防禦ニ協同シ特ニ敵ノ上陸防止ニ努ムヘシ攻撃戰ノ場合ニ於テハ敵艦隊ヲ撃破スルカ若クハ之ヲ封鎖シ我カ上陸部隊ヲ掩護スルニアリ以上何レノ任務ヲ遂行スルニ於テ最便トスル所ハ中央根據地ニ充分ノ編成ニアル艦隊ヲ集中スルニアリトス然ルニ惜哉我カ婆羅の海ニ於テハ此ノ如キ艦隊ヲ安全ニ集中セシメ又其ノ全編成ノ儘容易ニ出港セシムルカ如キ中央根據地ヲ有セス

之ニ反シ急ニ突撃ヲ加フルカ如キ働作ニハ便利ナル地形ニ乏シトセス故ニ婆羅の海ニ殘留スル艦隊ニ對シテハ局處防禦ニハ最適合セリ

抑海戰ノ局面ハ婆羅の海ノミト限ラレサルヲ以テ多數ノ艦艇ハ本海以外ニ在ルモノト認メサルヘカラス然ルトキハ其ノ内國殘留ノ艦艇ヲ以テ沿岸ノ諸要港ニ配置シ置クトキハ沿岸防禦ニ當ルヘキ陸兵ノ數ヲ節約シ之ヲシテ主ナル戰場ニ集中セシムルヲ得ヘシ是得策ト認メラル

黑海艦隊ノ任務ハ第一ボスフォラス海峡ニ向ヒ作働シ第二多瑙河口ヲ封鎖スルカ若クハ之ニ闖入スルノ目的ヲ以テ同河ノ下流ニ向ヒ作動スルニアリ本海艦隊ノ戰艦及ヒ砲艦ノ數ハ夫々相當ノ任務ニ服スルニハ充分ナリ水雷艦艇ハ其ノ數多キタケ利益アリ之ニ爾他ノ軍艦若干隻ヲ加ヘ

前記ノ諸任務ニ協同働作セシメ又運送船ノ大多數ヲ得テ迅速陸兵輸送ヲ計ルコトヲ要ス唯遺憾トスル所ハ舊時ノ建造ニ係ル軍艦ハ未タ其ノ武裝ヲ改メサルニアリ然レトモ免ニ角現今ノ黑海艦隊カボスフォラスノ占領ヲ遂行シ得ヘキハ疑ヲ容レサル所ニシテ近頃又戰艦一隻巡洋艦二隻ノ建造ニヨリ増勢サル、善ナレハ此ノ擴張ノミニテ土耳其ノ最近擴張ニ匹敵シ得ヘキナリ若シ敵ニシテ我ノ機先ヲ制シ優勢ヲ以テボスフォラス海峡ヲ超エ黑海ニ進入シタリトセンカ然ル場合ニ於テハ我カ艦隊ハヒロストーポリニ隱レ爲シ得ヘクンハ封鎖ヲ破リ之ト小戰ヲ交ユレハ可ナリ

此ノ如キ不利益ノ狀況ニ陥ルヲ避ケントセハ我ヨリボスフォラスヲ通過スルカ若クハ強行通過シ進ンテダーダネル峽ヲ占領セント努メサルヘカラス但此ノ目的ヲ遂ケンニハ土耳其ト同盟スルカ若クハ外方ヨリ同峽ヲ閉ツル地中海艦隊ノ協力ヲ藉ラサルヘカラス  
ウシヤコフセニヤールウ井ンダーデン及ヒリコルド等ノ諸海軍將官ノ研究ニヨレハ我カ地中海艦隊ハ二途ノ任務ヲ有ストセリ即チ或海軍強國ト同盟シ協同利益ヲ追フニ止ルカ或ハ露國ノ爲メ特ニ必要ナル目的ヲ達スルタメ之ガ前途ニ横ハル百般ノ困難ヲ排スルタケニ充分ノ準備ニアルコトナリ

特ニ必要ノ目的トハ他ナシダーダネルノ閉鎖ニアリ換言スレハ土耳其ヲ敵トシタル場合ニハ海峡ヲ封鎖シ一帶ノ要塞ヲ破壊シ若シ又土耳其ト同盟ノ場合ニ於テハ海峡ノ防禦ニ當ルニ在リ地中海艦隊ノ増援ニハ黑海艦隊ノ戰艦ヲ出スコトニ積算シ置クノ外途ナシトス若シ然ラサレハ



(譯者曰ク例ヘハ婆羅的或ハ太平洋艦隊等ヨリスレハ)土耳其竝ニ其ノ後援國ヨリ紛亂ヲ來スノ原因トナルヘシ

我カ白海ニ於テノ防禦ハ察スルトコロ目下ノ状態ニ於テハ尙未ダ敵ノ侵略ニ對シテハ受働的ノモノトナルヘシ敵ノ此ノ侵略ハ我カ水産業ノ存立ヲ脅シ直接ニハ我カ利益ヲ奪ヒ我ニ損害ヲ加ヘ間接ニハ又我カ競争ニ對シ隣國ヲ保護スルコトハナル

爰ニハ恐ラクハ小挑戰ノ餘地アルヘシト思ハル依テ大形曳船若干隻ヲ武装シ小艇ニハ發射機ヲ裝シ又敷設水雷ヲ沈置スヘシ

裏海ハ或事件ノ發生シタル曉ニハ輸送上最必要ノ途トナル故ニ從來屢論セラレタルカ如ク所在汽船カ變心シテ武装ヲ整ヘ我ニ反抗スルモノニ對シ若クハ解體輸送ノ上組立テラルヘキ水雷艇ニ對シ裏海艦隊ヲ以テ安全策ヲ講セサルヘカラス

太平洋ハ我カ艦隊ノ雄飛スヘキ局面トナルヘシ故ニ實際如何ノ方面ニ事業ノ發展アルヤヲ考察シ之ニ準シ我カ艦隊ヲ擴張セサルヘカラス但此ノ單簡ナル方法即チ艦隊ノ派遣モ艦隊ヲ創メテ編成スルト云フノ意味ニ於テハ甚ダ高價ニ値スルノミナラス尙之ヲ遠隔ノ域ト外國ノ水面ニ維持スルノ意味ニ於テ巨萬ノ金額ヲ費スコトナルヘシ

國庫ヨリ支拂フ金額ノ殆ト全部ハ外國仲買人ト外國職工及ヒ工業家ノ懷ニ落ツ故ニ吾人ハ絶東ニ於テ我カ戰鬥力ヲ創設スルト同時豫メ賠償金ヲ支拂フノ理トナリ結局此ノ賠償金ハ我カ對手ヲ強メ發達セシムルノ資ニ歸スルモノナリ乃チ我カ費ス所ハ全ク正真正正ノ額ニ於テ勢力トナラス

シテ相當ノ減率ニ於テ目的ヲ達シ得ルモノト理解シ之ヲ記憶セサルヘカラス我カ過去ノ歴史ハ之ヲ證スルノ例ニ乏シカラス例ヘハ吾人ハ陸軍力ノ小部隊ヲ以テ優勢ナル敵ノ同部隊ニ當リ赫赫ノ成功ヲ博シタルコトアルモ之ニ反シ不足ナル海軍ヲ擧ケ陸軍ト協同動作ヲ試ムルノ時ニ當リ各方面ニ不幸ノ影響ヲ被リタルコトアリ

目下我カ絶東ニ於ル狀況ハ恰モエカチエリナ大女帝時代若クハ稍此ノ以後ノ時代ノ狀況ト其ノ趣ヲ同シウセルモノアリ

伯德大帝ハ異常ノ銳意ヲ以テ屢百難ヲ排シテ漸クニ國境ヲ擴メタリ是他ナシ帝ノ創設セル海軍ハ遠隔ナル海上ノ働作ヲ試ミンニハ不足ナリシカ故ナリ

機船艦隊ハ克ク陸軍ニ協同シ成功セシモ帆船艦隊ハ尙廣大ナル事業ニ伴フ能ハサリシスグテ帝ハ漸ク其ノ治世ノ晩年ニ到リ航海術ヲ發揮セント努メタリ

露西亞民族ノ助長的發展ノ著シキ時代以後エリザベツト女帝ノ世ニ當リ黒海ニ出テントノ陸軍ノ企畫モ再失敗ニ終レリ然ルニ其ノ當時ノ技術ニ相應シ稍満足スヘキ海軍力ヲ創設シ之ヲ利用シ得ルニ到ルヤ直ニ我カ自然ノ國境ヲ擴ムル上ニ於ル成功ハ實ニ著シカリシ

但此ノ如キ赫々ノ功ヲ收メタル海軍ノ活動モ一旦祖國ト聯絡ヲ絶タレ良好ノ根據地ヲ有セサルニ於テハ忽チ萎靡不振ニ陥リシコトヲモ念頭ニ記憶スルヲ良トス

斯ノ如クニシテ「チユス」メ海戰々勝モ多島海遠征モ其ノ實ヲ論セハ漸ク牽制運動ノ效果ヲ有シタルニ過キス第二回多島海遠征モ亦全ク失敗ニ終レリ何トナレハ歐羅巴迂回ノ交通路ハ英國トノ

國際關係ノ移變ニヨリ全ク遮斷サレシト尙瑞典ノ態度我ニ反抗セシモノアリシカ故ナリ  
 艦隊ト本國トノ間ニ聯絡ノ關係ハウシヤコフ遠征ノ結果ヲ見ルトキハ判明センウシヤコフハ土  
 耳古海峽ノ通航自由ナリシ間ハ成功ニ働作セリ又セニヤールウ井ン艦隊ノ失敗ハ明ニ好根據地ヲ  
 有セサル艦隊ハ海上ニ游弋シ得ヘキモノニアラサルノ事實ヲ證明シテ餘リアリ  
 我ニ惡意ヲ挿ム諸國ハ這般ノ消息ヲ解シ若シ我ニシテ地中海ニ軍港ヲ有スルニ於テハ其ノ享有  
 スル利益莫大ナルヲ悟リ嘗テスワロフ及ヒウシヤコフカゼノア占領策ヲ唱道セシトキ警報ヲ揭  
 ケタリシコトアリ

絶東ニ於ル我カ艦隊ハ今日迄恰モヲロフカ若クハセニヤールウ井ン艦隊ノ状態ニ髣髴タルモノ  
 アリ何トナレハ我ノ亞細亞大陸ヲ迂回シ得ルハ一ニ諸外國ノ好意如何ニ屬スレハナリ又沿海州  
 ノ沿岸ハ希臘ニ同シク假令其ノ浦鹽斯德ノ防備ハパロスニ勝ルモノアリトスルモ未タ以テ安全  
 ト稱スルニ足ラサルナリ尙關東州モ之ヲ富裕ニシテ産業地タルゼノアニ比スヘクモアラス却テ  
 貧困ニシテ補助支出ヲ要スルノ旅順口アルノミ  
 現時ハ我カ露國ノ資源ヲ蕩盡シテ迄モ此ノ遠隔ナル海軍根據地ノ間ニ交通ノ便ヲ設クル大事業  
 ノ完成セラレントス勿論鐵道ハ海峽ノ通過ヲ自由ニスルモノニアラスト雖モ此ル宏大ノ補助機  
 關ノ存スル以上ハ沿海州ニ於テ其ノ産スル石炭ト露國ノ臣民トニヨリ造船造機資力ノ發達ヲ促  
 シ本國ト距離ノ遠遠ヨリスル不利益ヲ補フニ到ルヘシ  
 然ルニ此ノ大事業ハ近キ將來ニ完成セラレンモ纏テ考フルトキハ其ノ曉ニ及ンテ我カ艦隊ハ依

然浦鹽斯德ニ據ルトスルモ防備ハ未タ薄弱ヲ免レス旅順ハ尙一層甚シ加之其ノ編制ハ到底日本  
 ニ對シ之ヲ威壓スルメケノ位置ヲ取ル能ハス況ヤ日本ニシテ或強海軍國ノ後援ヲ籍ルノ時ニ於  
 テヲヤ

此ノ如キ事情ノ存スルカ故ニ太平洋艦隊ハ自己ノ存立ニ最安全ノ策ヲ取り同時有リ得ヘキ我ニ  
 敵意ノ合同ニ對シ威嚇的ノ態度ニ出テサルヘカラス  
 有事ニ際シテハ戰艦ヨリナル主力ヲ浦鹽ニ置キ巡洋艦ハ之ヲ旅順ニ集メ之ト共ニ河用砲艦其ノ  
 他ノ軍艦若干隻ト最銳驅逐艦ノ總數ヲ配スルヲ以テ最有利ノ策ナリト思ハル  
 本章ニハ陸兵配備ノ詳細ヲ説明セス但浦鹽及ヒ旅順ニハ之ヲ防禦スルニ充分ノ衛戍ト要塞ト軍  
 需トヲ有レ滿洲ニ於テハノウオキエフスク吉林及ヒ鴨綠江上流ニ全編制ニアル一軍團ヲ配備ス  
 ルヲ得ヘレ本軍團ノ任務ハ事宜ニヨリ清韓何レノ方面ヘモ出動スルニアリ  
 此ノ他旅順浦鹽斯德ニハ敵地上陸ノ目的ヲ以テ迅速輸送ニ準備シタル軍隊ヲ有スルコト、積算  
 スヘシ今日ニ於ルカ如ク兵力ヲ分駐スルノ危険ナルハ言ヲ俟タズ然レトモ大沽砲臺ノ一部ヲ押  
 領シ置クコトハ有利ト認メラル

露國海軍力配備ノ實例

裏海ニハ既ニ汽船「ゾルキ」及ヒ小艦二隻ト尙近々就役スヘキ巡洋艦「アストラバッド」アリト雖モ尙  
 私船若干隻ヲ徵發シ之ニ四七密速射砲ヲ備ヘ以テ交通ヲ妨害セントスル不時ノ敵變ニ備フルヲ  
 以テ得策ト認メラル

アルハンゲリスクニハ水雷艇四隻外装水雷艇十二隻及ヒ敷設水雷百罐ヲ派遣スルヲ以テ得策ト認メラル

大形曳船若干隻ヲ購入セハ之ニ舊式六吋若クハ八吋砲ヲ舳部ニ搭載シ恰モ河航砲艦ノ如クニ機装スルヲ得ン

以上ノ如キ小艦隊ノ編成整フタルトキハ敵ヲシテ白海ノ海面ニ跳梁スルノ念ヲ絶タシムは無防禦ヲ公然世間ニ發露シ世クトキハ自然ト奸計ヲ誘引スルカ故ニ此ル防備ノ必要ヲ見ル

黒海艦隊ハ充分ノ戰鬥準備ヲ整フヘシ  
諸運送船ニハ砲煩及ヒ遠征用軍需品ヲ搭載スヘシ

上陸部隊中ノ先發部隊ヲ輸送スヘキ運送船ヲ定メ又各運送船ノ航程ニ相應シ配船表ヲ調製スヘシ各商船ノ船長運轉手ニハ海峡艦隊及ヒ河口ノ水路研究ノ爲メ運送船乗組ヲ命シ周航ヲ遂ケシムヘシ陸軍部隊ニハ正確ニ乗船及ヒ揚陸ノ演習ヲ課スヘシ

地中海艦隊ハ左ノ諸艦ヨリ編成サルヘシ即チ戰艦「アレクサンデル」二世「ニコライ」一世「アドミラル」セニヤール「ウヰル」アドミラル「ウシヤール」コフ「砲艦」アラブル「水雷巡洋艦」アブリヨク「及ヒ水雷敷設船」

「アムール」エニセイ「カ」若クハ此等ニ代ルヘキ汽船ト驅逐艦八隻ナリ本艦隊ニ陸兵一大隊ツ、ヲ搭載セル運炭船二隻ヲモ附屬セハ最便益ヲ感スヘシ此ノ集合點ハダーダネル海峡ノ外方ト定ム

ビレーノ警備艦タル砲艦「ザボロジエツ」及ヒ「ツローン」碇泊ノ皇艦「スタンダート」ハ或働作ニ對シテハ根據地トモナリ又情報傳達ノ任務ニモ服サシム可シ

若シ戰艦「ベレスウエート」及ヒ「オスラービヤ」ノ二隻ヲ機裝完成ノ爲メ佛國ノ軍港ニ送り得ルコトトナラハ地中海艦隊ニ編入シ置クヲ可トス但絶東ニ向ケ回航不可能ノ時ヲ謂フ

同様ノ有様ニテ巡洋艦「ワリヤード」モ「ヒラデルフィア」ヨリ太平洋ニ向ヒ出發ノ日遅延スルコト、ナラン

「バヤーン」モ亦恐ラクハ尙一年ハツローンニ止ルヘシ  
前記黒海ノ海軍力ト地中海艦隊ノ合同ハ土耳其古ニ對シ吾人ニシテ働作ノ成功ヲ得ハ恰モ一八二九年ニ於ルト同一ノ狀況ニアラシム

現時他ノ海軍列強トノ國際關係ハ我ニ取り好況ニアルモノト認メ得ヘキ理由アリ若シ佛國艦隊ニシテプレスト若クハシエルブルニ集中シアランニハ著シク英國ヲ牽制シ得ヘシ但伊太利ノ

精背ハ未タ判明セス  
婆羅的海ニ於テハツロンスタッドノ固定防禦ヲ補助シ又哨戒勤務ニ服サシムル爲メ海防艦ト練習艦ノ一部ヲ殘スヘシ即チ「アフリカ」「ドウヰナ」「ルインダ」「フランス」「ラブリー」「チユニツク」老朽驅逐艦數隻水雷艇八隻乃至十六隻乗船及ヒ港務部用船艇若干隻ト尙天修理機裝中ノ諸艦ニシテ他ノ

港灣及ヒ外國ニ回航シ得ヘカラサルモノ是ナリ「バルラーダ」「アソリ」「アブラクシン」「オスラービヤ」「アウローラ」「ヂャーナ」「ボベード」

「スウエツ」「ボルグ」ニハ練習砲臺「レムリ」「ベルウエネツ」「ネトロニメニヤール」「バジャルスキー」「ゲネラル」

「アドミラル」「ゲルツ」「オグ」「エザシブル」「スキ」「グロジャール」「スチー」「エフ、ロツ」「バ」「ウオエウオーダ」「フサード」

ニク「ト」一個驅逐隊水路嚮導船及ヒ港務部用船艇ヲ備フヘシ水雷敷設船「アムール」及ヒ「エニセイ」モ亦爰ニ配スヘシ(地中海ニ出テサル場合)

エツケ鼻トバレズンド間ノシユヘラフニハ水雷艇三十二隻ト曳船及ヒ大艇ニ速射砲ヲ搭載シタルモノ若干隻トヲ備フヘシ

アボニハ十一時砲ヲ搭載セル砲艦四隻驅逐艦八隻水路嚮導船若干隻ヲ備フヘシ

ナルリニハ驅逐艦八隻

トランズンドニハ水雷艇四隻砲艦二隻裝砲艇若干隻

リーガニハ海防艦「スメルチ」チヤロダイカ練習艦「ウエルヌイ」ウオイン「水雷巡洋艦」レイテナントイリーン及ヒ水雷艇約四隻

リバーリニハ戰艦伯德大帝「P」ミニン驅逐艦中精銳ノモノ總數ト若シ或條件ニテ回航シ得ルナラハ「アスコリド」ボガツイリ及ヒ「ノーウ非ク」ト其ノ他總外國注文ノ艦艇ニシテ絶東回航ノ機ニ後レタルモノ

太平洋ニ於テハ旅順口ヲ根據トシテ左ノ諸艦ヨリ巡洋艦戰隊ヲ編成スヘシ「ロシーヤ」モスクワ「ヘルソン」リューリク「サラートフ」アリオール後ニ到リ之ニ合同スルモノヲ「グロモボイ」スモーレンスク及ヒ購入セラレタル北獨逸「ロイド」社汽船トナス

牽制枝隊ハ「コロニロフ」ザビヤカ「コレーツ」マンヂウール「ギリヤーク」ラズボイニク「フサードニク」ガイ「ダマール」ノ諸艦ヨリ成ル防禦戰隊ハ巡洋艦「スウエートラナ」(「P」西伯利海軍團附大形水雷艇八隻ト最

新建造ニ係ル新回航驅逐艦十隻トヨリ成ル港務部雜役船及ヒ運炭船二隻陸揚用船二隻モ之ニ加ル「愈」戰端ノ啓カル、危險ノ逼リタル場合ニハ勿論此等牽制枝隊ハ豫メ軍港内ニ呼還サル、管トス浦壘斯德ニハ日本海ニ瀕スル我カ領域沿岸ヲ保護センカ爲メ主戰艦隊ヲ配シ尙必要ノ場合ニハ之ヲシテ日本ヲ威嚇セシムヘシ是陸兵輸送ノ準備ヲ整フルニ利アリトナシ我ニ此ノ畫策アルノ事實ヲ知ラシムルモ差支ナシ

我カ北方艦隊バ左ノ諸艦ヨリ編成ス

戰艦「ベトロバウロウスク」シツイウエリーキー「ナワリン」巡洋艦「ナヒーモフ」ウラチーミル、モノマー「ドミトリード」ンスコイ「義勇艦隊汽船」ベテルブルグ「砲艦」グレミヤーシチー「アツワリー」ジヌイ「驅逐艦五隻運炭船六隻及ヒ商船若干隻陸軍兵輸送ニ適スル設備ヲ整フ」

若干時(三箇月半)ノ後「セリストーポリ」ホルターリ「之ニ合シ恐ラクハ」ワリヤーク「モ亦此ノ見込アリ又六箇月ノ後ニハ」ペレスウエート「オスラー」ビヤ「アスコリド」ノーウ非ク「及ヒ恐ラクハ」バヤーン「ボガツイリ」モ亦之ニ合スヘシ

港務部用船及ヒ「アレウツ」ヲ爰ニ駐メ敷設原ノ衛艇タラシムヘシ

黒龍江ニハ砲艦「シウーチ」及ヒ「ポーブル」ト西伯利亞海軍團ノ運送船ノ敷設水雷ヲ搭載セルモノ一隻ト小形水雷艇約四隻ヲ入ラシムヘシ而テ此等艦艇ハ勿論江内ニ越冬ノ覺悟ニアラシムヘシ江内ノ働作ニハ「ギリヤーク」最適センモ同艦ハ天津ニ出動セシムルノ時機アルヘキヲ察セハ一層ノ必要ヲ感セン

諸港灣ノ間ニ軍需品運搬用トシテ東清鐵道會社航業部ノ汽船ハバロフスクト特ニ徵發シタル汽船若干隻ヲ之ニ充テ尙陸軍兵輸送用ノ運送船ヲモ順番ニ使用スヘシ冬季ニ際シテハ浦鹽斯德里艦隊ヲ出港セシムルノ必要アル可シ此ノ時コソハ最危險ノ状態ニ陥リタルモノナリ但十一月ニハ我カ艦隊ハ著シク増勢ヲ得ル筈ナルト又此ノ時ニ及ンテハ列國ノ嚮背モ稍判明スルニ足ラン若シ事茲ニ到ラストセハ寧ロ浦鹽内ニ越冬スルノ安全ナルニ若カス前記諸艦ヲ各任務ニ配スルト同時ニ外國建造中ノ戰艦ヲ好キ買手ヲ求メテ假ニ賣渡シ置クヲ得策トセンカ此ノ最好ノ買手トハ佛國政府トナス蓋歐洲ノ戰爭ヲ惹起スル場合ニ拿捕セラレハノ恐ナケレハナリ

外國建造中ノ驅逐艦ヲ成ルヘク早ク回航セシメンニハ之カ兵員ト需品トハ運送船ヲ仕立テ、供給セシムヘシ決シテ一旦婆羅的海ニ還リ時日ヲ遷延セシムル等ノコトアルヘカラス監視ノ爲メアルジールニ地中海艦隊ノ中ヨリ一隻ヲ止メ置クヲ良トシ又ボートサイド及ヒコロンボニハ將校及ヒ機關部員若干名ヲ駐在セシメ疾病其ノ他事故ニヨリ服務ニ堪ヘサルモノニ交代セシムヘシ是護衛艦ヲ附シ汽船ニテ航行セシムルニ勝レ或戰艦ニ取リテハ之ヲクロンスタッドニ於テ艤裝スルヨリモ佛國ノ軍港ニ送り同地ニテ準備セシムルヲ以テ得策トナサン何トナレハ其ノ出費ハ高價トナルモ時間ニ於テ迅速竣工スル所アレハナリ艦隊ノ出師準備ヲ最迅速ニ整ヘント欲セハ豫メ戰隊司令官及ヒ其ノ幕僚ヲ任命シ軍令部監督ノ下ニ總テ艤裝ニ關スル諸計畫ヲ此等士官ニ一任スルヲ良トス

同時補欠ニ要スル人員編成ヲ定メ置クヘシ砲塔艦譯者曰ク海防艦ニシテ内國防備ニ充テラレタル舊式ノ艦ニハ艦長一名ト副長二名内一名ハ陸上將校ヲ置キ水雷艇ニハ每二隻ニ就キ將校一名小形水雷艇ニハ艇長一名ト兵學校生徒一名ツ、ヲ配スルヲ要ス八月ニ入り豫後備召集ヲ行フヲ便トス但之ヲ行フニモ必要ニ應シ少シツ、間斷ナク行フヲ良トス此ノ如クニシテ此ノ費用ヲ新艦ノ急工事ニ充ツル方正當ナリ何トナレハ此ノ頃ニハ新創艦隊ノ試運轉期ニ際スレハナリ各工廠ニ於テスル將來ノ造船工事モ大至急ニ營マルヘシ何トナレハ危機ノ切迫ハ尙前途ニモ望マルヘケレハナリ就中水雷艇ハ大小兩型ノ「ヤロー」式ノ竣工ニ盡力スヘシ此ノ種ノ水雷艇ハ迅速ニ準備シ得ヘクシテ又攻撃的防禦ニハ最有效ノモノトス尙爲シ得ヘクンハ潜水艇ヲモ加フヘシ現時一般外交上ノ傾向ハ我カ國ト清國トノ間柄ニ對シ恰モ曾テ土耳其ニ對スル關係ト墾據タル所アリト想ハシムルモノアリ此迄共斃レノ戰爭ニハ其ノ主ナル起因トシテハ通例宗教上ノ疾視ヨリスルモノ多カリシモ而モ隱微ノ原動力ハ常ニ歐洲某國ノ弄セル陰謀與リテ力アリ其ノ目的トスル所ハ我カ國ヲ疲憊セシメ我カ國ヲシテ内部ノ生産力ヲ發達シ自ラ強大ナルノ基ヲ開カシメサルニ在リ露西亞ハ北方ニ於テモ南方ニ於テモ數度ノ戰爭ニ堪ヘ其ノ極遠ニ何レノ方面ニモ勝ヲ制シタリ然レトモ未タ以テ自己ノ南門ヲ管制スル能ハス隨テ莫大ノ延張ヲ有スル海岸線ニ對シ巨費ヲ濫出シテ斷ニス新困難ト闘ヒツ、ハアリ

列國カ清國ニ對シ干渉ノ端ヲ啓キタルノ事實ハ目下ノ状態ニ於テハ偶以テ我カ國ノ傾注セル注  
意ト兵力トヲ西方ヨリ誘引スルニ於テ有力ナル牽制トナレリ是單ニ牽制トシテノミ看過スヘカ  
ラスシテ吾人ノ眞ノ敵ハ爰ニ存ス—爰ニ近東ニ於ルカ如ク併テ絶東ノ問題ヲモ解決セサルヘカ  
ラス

婆羅的艦隊ノ増勢ト云ヒ婆羅的海以外ニ港灣ノ收得ト云ヒ世界的艦隊トシテ自營巡洋艦隊供給  
ヲ外國港灣ニ仰カサルヲ云フノ大規模ノ發達等ハ目下喫緊ノ問題ナリトス此等問題ニシテ解決  
ヲ見ルノ曉ニ及ンテ初テ吾人ハ吾人ノ強敵ニ對シ武ヲ用フルヲ得ン事爰ニ及ンテハ今ヤ甚タ猜  
疑ノ念ヲ以テ之ヲ見ルノ日本モ我トハ固キ友邦トナラン斯クテ滿韓問題モ双方ノ反目角逐ヲ止  
メ何時トナク自然ノ解決ヲ見ルニ至ルヘシ

此ノ如キ意見ハ第一我カ太平洋艦隊ヲ増勢スヘントノ意見ト一見矛盾ノ看アルモ更ニ一層進歩  
シタル深キ真相ニ於テハ然ラサルナリ

太平洋艦隊増勢ノ考案ハ嘉スヘント雖モ吾人ハ既ニ此カ實行ノ機ニ後レタリ換言スレハ事件ノ  
發生ハ準備ヨリモ急速ニ起レリ隨テ目下ノ形勢ニ於テハ絶東問題ハ不充分ナル我カ艦隊ヲ以テ  
解決ヲ待ツコト、ナレリ斯クテハ現時ノ状態ニ於テ我ニ利益ヲ收メンコト頗ル成算ニ乏シ勿論  
太平洋ニ於ル我カ勢力ヲ維持センカ爲メニハ大至急工事ヲ以テ造艦計畫ヲ遂行シツ、アルモ惜  
哉吾人ハ既ニ優勢ヲ得ルノ機會ニ後レタリ尙絶東領域ニシテ敵人ノ封鎖ヲ被ル以上ハ到底優勢  
ヲ見ルノ時ナカラン

此ノ如ク絶東問題ニノミ總テノ國力ヲ傾倒シ又局處事件ニノミ我カ注意ヲ傾注シ知ラス謙ラス  
ノ間吾人ハ有力ナル牽制ニ陥リ西方問題ニ於テ失フ所多カラシ故ニ豫メ歐羅巴諸海ニ於テ相當  
ノ戰鬪力ヲ創設スルノ策ニ出ツルコト亦必要ナリ斯ノ如クニシテ尙モ再機會ヲ逸センカ其ノ時  
コソハ經濟上ニ於テモ將タ國民元氣ノ點ニ於テモ西歐某國ニ雌伏ノコト、ナリ隨テ我カ邊境ノ  
領域モ他ノ有ニ移ラン

左レハ婆羅的海ニ於ル將來ノ戰略研究作業モ大ナル效力ヲ有スルモノニシテ本問題ト關聯シ之  
ヲ研究スルトキハ倍將來ニ我カ海軍擴張ノ必要ヲ明ニセン

○附錄第一及ヒ第二

一九〇〇年ノ春露日間ノ國交斷絶シ交戦スルニ到  
リタル假定外交政策ノ狀態並ニ海軍勢力ノ比較

侍從武官 伯爵ゲイデニ述

朝鮮海峽ニ面スル韓國南部ノ地方ニ對シ日本政府ノ從來執リ來レル執著ニシテ秩序アル平和的  
侵略政策例ヘハ京城釜山間ノ電信保護ト稱シ武装セル兵隊ヲ沿道ニ配置セルカ如キ又ハ韓國沿  
岸ニ石炭庫ヲ設置センカ爲メ或地域ヲ收メントスル我カ露國ノ企圖ヲ飽ク迄阻碍セントスルカ  
如キ事實ハ遂ニ一九〇〇年二月ニ至リ韓國駐在我カ外交官ヲシテ非常手段ヲ執ルノ止ムヲ得サ  
ルニ至ラシメタリ此ノ結果トシテ馬山浦ニ於テ曩ニ我カ露國ノ標識セン地區ニシテ一旦日本人  
ニ拂渡サレタルモノ公式ニ我カ手ニ戻ルコト、ハナレリ事茲ニ出ツレハ當然日本政府トノ葛藤  
ヲ覺悟セサルヘカラストテ關東州總督ニ訓令スル所アリ若干ノ軍艦ヲ馬山浦ニ集合セシムルコ

ト、ナリ此ノ令ニ基キ二月末ニ至リ同地ニ集リタル軍艦ハ一等巡洋艦「ウラチーミル」モノマープ同「ドミトリ」ドンスコイニ等巡洋艦「ザビヤカ」及ヒ水雷砲艦「ガイダマー」ナリ此ノ報ニ接スルヤ日本政府モ亦釜山ヨリ浪速、高千穂、千代田、和泉、嚴島ト二隻ノ驅逐艦、六隻ノ水雷艇ヨリ成ル一艦隊トヲ同シク馬山浦ニ派遣シ同時ニ歩兵一個旅團ト砲兵一聯隊ノ動員ヲ命シテ之ヲ吳港ニ集メ運送船トシテハ十一隻ノ汽船ヲ備入レタリ尙日本政府ハ三月一日附ヲ以テ韓國政府ニ抗議セシメテ曰ク露國ニ譲リ渡サレタル馬山浦ノ地區ニシテ今ヨリ十日ノ後即チ三月十一日ヲ限リ之ヲ購得セル日本臣民ニ公式引渡シアルニアラサレハ日本政府ハ兵力ヲ以テ之ヲ執行スルノ手段ニ出ツヘシ此ノ目的ヲ達スル爲メ日本政府ハ陸兵ヲ韓國領域内ニ揚陸セシムヘシトテ同日附ヲ以テ更ニ二個師團ヲ動員シ海軍ニハ出師準備ヲ命シタリ露國政府モ亦日本政府ノ爲ス所ヲ知り韓國政府ヲ脅迫シ到底日本ト兵禍ノ避クヘカラサルヲ豫測シ沿海州及ヒ西伯利亞ノ兩軍管區ノ兵ヲ動員シ亞細亞海ニアル總テノ義勇艦隊汽船ノ出港ヲ差止ムルノ命令ヲ發シタリ

三月九日韓國政府ハ紛争ノ地區ニ關シ締結ヲ了セル約束ヲ辭シ該地區ヲ自國政府ノモノト宣言セリ爰ニ於テ十一月ニ至リ日本ノ歩兵一旅團ト砲兵一聯隊トハ釜山ヨリ上陸ヲ始メタリ之ニ對スル日本政府ノ韓國政府ニ向ヒ曰フ所ハ馬山浦ノ地區カ日本臣民ニ交付サル、迄ハ日本軍隊ニ依リ釜山ヲ占領シ且ツ韓國ニ於テ露國ノ側ヨリ日本ノ利益ヲ侵害サル、コトアルヘキヲ慮リ全韓國ノ領域ニ在ル日本臣民ノ利益ヲ保護スルニ兵力ヲ以テスト曰フニ在リ

三月十二日露國公使東京ヲ去ル又同日附ヲ以テ露日雙方ノ海軍大臣ハ外國港灣ニ在ル海軍將官

及ヒ艦長ニ訓令シ敵ヨリ敵對ヲ受ケタル場合ニハ戰鬪行爲ヲ開クヘシト雖モ兵ノ宣戰布告ハ狀況ニ據ル旨ヲ達セリ

譯者曰ク太平洋艦隊司令長官カ「リユーリック」外二艦ヲ率井公使「バプロフト」共ニ馬山浦ニ入り木標ヲ建テタルハ明治三十二年五月ノコトナリ爾來馬山浦問題トシテ三十三年七月ニ涉リ此ノ間一箇年「マンヂウール」「フサレド」ニク「ガイダマー」ノ三艦ヲ警備艦トシテ留メ釜山馬山浦間ヲ始終往復セシメタリシカ七月ニ至リ全ク放棄セリ此ノ假設ノ狀況ハ全ク此ニ因セルモノト思ハル

武力ノ狀況

一九〇〇年三月一日ノ現在ニ就キ亞細亞海ニ浮フ露日軍艦ノ數ハ左ノ如シ

露軍

浦 艦 斯 德 巡洋艦「アドミラル、コルニコフ」

二十節水雷艇四隻、十一節水雷艇十一隻

旅 順 口 戰艦「ベトロパウロウスク」「ナワリン」「シツイ、ウエリーキー」、

裝甲巡洋艦「ロニーヤ」「リユーリック」

砲艦「グレミヤーシチー」「ポーブル」「シウーテ」「コレーツ」

水雷砲艦「フサードニク」

十六節水雷艇四隻

五 濟 島 裝甲巡洋艦「ウラチーミル」モノ「マール」ドミトリ、ドンスコイ

二等巡洋艦「ザビヤーク」

水雷砲艦「ガイダマーク」

上 海 砲艦「アツワージヌイ」マンダウール

希臘ノ「ビレ」 裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」

水雷砲艦「アブレーク」

ヒラデルフィア ヨリシエルプールニ至ル途中

巡洋艦「ワリヤーク」

ア ー プ ル 三一六噸驅逐艦三隻

リ パ ー ワ 戦艦「ボルターワ」セリストーポリ

黒海ノセリストーポリ 戦艦「ツリースワチーチェリヤ」ロスチスロフ「ツウエーナツアチ、アボ

ストロフ」

前記黒海艦隊ノ三戦艦ハ二月末ニ土耳其政府ト特ニ協商ヲ遂ケ黒海ヨリ出シ其ノ代艦トシテ  
婆羅的海ヨリ他ノ三艦ヲ代入ル、コト、ナリ居レリ

義勇艦隊汽船

族 順 口 「モスクワ」ハマロフスク」

積荷ヲ卸セリ

大 連 灣 「ヘルツン」

積荷ヲ卸セリ

吳 淞 「ウオロー子シ」ウラチーミル」

積荷ヲ卸セリ

馬 山 浦 (艦隊附屬「キーエフ」

石炭ヲ搭載シアリ

浦 鹽 斯 德 「ステルブルグ」ヤロスラーウリ」

香 港 「サライトフ」

新 嘉 坡 「ニーヂニ」ノウゴロツド」

一千人ノ新兵ヲ搭載シアリ

亞 丁 「エカチエリノスラフ」

千五百人ノ新兵ヲ搭載シアリ

ビ レ ー 「カストローマ」

ポ ー ト サ イ ド 「タムボフ」

ヲ デ ヲ ヲ 「アリオール」

二箇月ノ後五月一日ニハ戦艦「ニコライ第一世」ミニシ「ゲチラル、アドミラル」及ヒ驅逐艦六隻水雷  
艇六隻ノ機装完成スル筈ナリ

四箇月後七月一日ニハ戦艦「ベレスウエート」巡洋艦「グロモボイ」「パルラーダ」「アムール」「エニセイ」驅  
逐艦二隻水雷艇四隻ノ機装完成スル筈ナリ

(實際ニハ此ノ完成期六箇月モ後ル、コトアリ或艦ニヨリテハ一箇年モ後レタルモノアリ)

日本軍

吳 港 戦艦富士、八島、敷島

裝甲巡洋艦淺間、常磐



巡洋艦吉野千歲笠置高砂須磨明石宮古八重山千早龍田

驅逐艦八隻一等水雷艇(至二十三節)八隻

釜山 巡洋艦浪速高千穂千代田和泉筑紫

驅逐艦二隻一等水雷艇(二十節)六隻

基隆 巡洋艦秋津洲

長崎 巡洋艦松島嚴島橋立高雄

驅逐艦一隻一等水雷艇七隻

橫須賀 戰艦鎮遠扶桑

巡洋艦濟遠

驅逐艦一隻一等水雷艇七隻

水雷母艦一隻

舊式ニ屬スル「スループ」「コルベット」及ヒ砲艦等ハ日本ノ各軍港ニ分配シアリ

以上ノ外英國ニアルモノ戰艦朝日巡洋艦出雲ナリ

一九〇〇年三月一日現在石炭在頓ハ

浦鹽斯德ニ二萬噸

旅順口ニ一萬五千噸

陸軍ノ兵數ハ關東州ニ一萬人滿洲鐵道ノ護衛トシテ配置サレタルモノ二千八百蘇利邊境ニ三

千人アリ總テ此等ノ兵ハ充分ニ戰鬪準備ヲ整ヘアリ

以上ノ外八週日ノ後即チ五月一日ノ前後ニ東部西伯利亞ノ軍隊一萬五千人ヲ得三箇月ノ後即

チ六月一日ノ前後ニハ西部西伯利亞ノ軍隊一萬五千人ヲ得六週日後即チ四月十六日ノ前後ニ

ハ莫斯科軍管區ノ前頭梯團ハスレーチエンスク迄到着スル割合ニアリ

軍隊ノ給養ハ滿洲ヨリ徵發スルコトヲ得

旅順口奉天間ノ鐵路ハ軍隊輸送ニ利用シ得ヘク其ノ他西伯利亞全線路ニ在テモ亦然リ

作業ニ就キ小言

抑日本カ韓國ノコトニ關シ露國ト干戈ノ間ニ相見ルニ至リタル真ノ目的トシテハ一ニ韓國ヲ占領シテ之ヲ自己ノ掌中ニ置キ露國ヲシテ韓國ノ領域ニ一指ヲ染メシメス韓國ニ於テハ全然日本ノ主權ヲ認メシメントスルニ在ルコト疑ヲ容レス然ルニ此ノ目的ヲ達セン爲メ日本ハ陸上ニ於テ長時日ニ涉リ露西亞ト對抗センコトハ其ノ能クスル所ニアラス殊ニ滿洲鐵道完成ノ曉ニ於テハ露國ハ多數ノ軍隊ヲ集中シ得ルヲ以テ今ノ時ニ及ヒ日本軍ノ最急務トスル所ハ成ル可ク早ク韓國ニ其ノ陸兵ヲ揚ケ爰ニ堅固ナル防禦陣地ヲ築キ計熟スルヲ待テ浦鹽斯德ヲ陥ルカ或ハ旅順口ト關東半島一帶ノ地ヲ回復シ以テ清國々民ニ對シ其ノ威風ヲ示シ之ヲ其ノ一味ニ引入レテ對露同盟ヲ締結シ露清國境ノ有ラユル諸點ヨリ侵入シテ大打撃ヲ加フルニ在リ是一ニ日本陸軍ノ任務ニ屬ス

日本海軍ノ第一任務ハ戰役ノ初期ニ於テ韓國ニ陸兵ノ揚陸ヲ掩護スルト本國トノ交通ヲ維持ス

ルニ在リ之カ爲メニハ其ノ當初ニ於ル優勢ヲ利用シ露國艦隊カ自國港灣ニ隠ル、ニ於テハ之ヲ封鎖シ出ツルニ於テハ之ヲ殲滅スルニアリ

日本ト交戦スル露軍ノ目的ハ亞細亞大陸ヨリ之ヲ擊退スルニ在リ隨テ此ノ目的ヲ達センカ爲メニハ日本軍ニ相當スル兵數ヲ集中スルコト必要ナリ然ルニ一九〇〇年明治三十三年ノ現況ニ在テハ之ヲ爲スニ四箇月乃至六箇月ヲ要シ西伯利亞滿洲線路ノ完成ニ及ンテハ二箇月乃至四箇月ヲ要スヘシ又露國艦隊ノ任務ハ戰役ノ初期ニ於テ日本艦隊ヲ壓シ日本海ヨリハ勿論朝鮮海峽ヨリモ黄海ヨリモ露國ノ領域ニ向ヒ行動スル陸兵揚陸ノ企圖ヲ全ク斷念セシムル程ニアラスンハアルヘカラスト雖モ之ヲ現實ニスルタケ優勢ノ海軍力ヲ亞細亞海ニ維持シ置クコトハ今日迄ノ處歐羅巴海ニ於ル海軍勢力ノ權衡上ヲ顧慮スルヨリ政略上ニモ軍事上ニモ之ヲ許サ、リシナリ是ニ於テカ日本艦隊ノ我カ露國艦隊ヨリモ優勢ナルノ算用ハ將來殊ニ戰役ノ初期ニ於テ之ヲ認メサルヘカラサルナリ此ノ如キ事態ニアルカ故ニ露國艦隊ニハ一層重大ナル任務ノ負擔サルルモノアリ其ノ一ハ日本海方面ヨリ韓國ト接壤スル我カ領域ヨリ上陸シ滿洲ニ入り我カ軍ノ側ト背面トヲ脅スノ陸兵揚陸ヲ防止スルコト其ノ二ハ黄海ノ北方韓國ヨリ又關東半島ヨリスル無敵ノ揚陸運動ヲ防止スルコト其ノ三ハ敵ノ通商ヲ妨害シテ其ノ勢力ヲ牽制スルニ在リ露國艦隊ニシテ此ノ任務ヲ遂行シタランニハ陸軍ヲシテ等シク其ノ任務ヲ全ウセシメ戰役ノ主ナル目的ヲ達シタルモノト謂フヘシ但此カ爲メニハ成ルヘク早く日本艦隊ヲ殲滅セサル可カラズ

日本ノ海軍力

類別	艦名	戰闘力	破損率	速力	航續	距離	艦數	類別	速力	戰闘力合計	平均破損率	戰闘速力及レ航續距離ニ於テ
一	敷島	一一〇	〇、二〇	一七	一七〇〇	二八〇〇	三	一	一七	二九〇〇	〇、二〇	一七〇〇
一	八島	八六	〇、二〇	一七	二二〇〇	三五〇〇	三	一	一七	二九〇〇	〇、二〇	二八〇〇
一	富士	八四	〇、二〇	一七	二二〇〇	三五〇〇	三	一	一七	二九〇〇	〇、二〇	二八〇〇
二	淺間	九五	〇、五五	二〇	二四〇〇	三六〇〇	六	二	二〇	三三三〇	〇、六二	二二〇〇
二	常磐	九五	〇、五五	二〇	二四〇〇	三六〇〇	六	二	二〇	三三三〇	〇、六二	二二〇〇
二	笠置	三五	〇、六五	二二	二三五〇	三五〇〇	六	二	二〇	三三三〇	〇、六二	二二〇〇
二	千歲	三五	〇、六五	二二	二三五〇	三五〇〇	六	二	二〇	三三三〇	〇、六二	二二〇〇
二	高砂	三六	〇、六〇	二二	二三五〇	三五〇〇	六	二	二〇	三三三〇	〇、六二	二二〇〇
二	吉野	三〇	〇、七五	二〇	二四〇〇	三五〇〇	六	二	二〇	三三三〇	〇、六二	二二〇〇
二	松島	二八	〇、七五	一五	二四〇〇	三五〇〇	三	二	一五	八四〇	〇、七五	二四〇〇
二	嚴島	二八	〇、七五	一五	二四〇〇	三五〇〇	三	二	一五	八四〇	〇、七五	二四〇〇
二	橋立	二八	〇、七五	一五	二四〇〇	三五〇〇	三	二	一五	八四〇	〇、七五	二四〇〇

類別	艦名	戦隊				戦闘力	破損率	速力	航続	距離	艦数	類別	速力	戦闘力	平均	戦闘力及び航続距離
		戦闘力	破損率	速力	航続											
一	「ペトロパウロウスタ」	九九	〇、〇二	一六	二二五〇	三二〇〇	三	一五	二二六	〇、二五						
一	「シツイ、ウエリキー」	六六	〇、〇三	一五	二〇〇〇	三〇〇〇										
一	「ナリリン」	六〇	〇、二五	一五	二〇〇〇	三〇〇〇										

露西亞海軍力

類別	艦名	戦闘力	破損率	速力	航続	距離	艦数	類別	速力	戦闘力	平均	戦闘力及び航続距離
三	比叡	九	〇、九〇									
三	金剛	九	〇、九〇									
二	平遠	五	〇、七五									
	砲艦九隻	六	〇、九五	四一六								
	砲艦四隻	三	一、〇〇	八								
	一等水雷艇十二隻			二五								
	二等水雷艇二十五隻			二一								
	三等水雷艇十二隻			一八								
	四等水雷艇十六隻			一六								
	水雷母艦三隻											

類別	艦名	戦闘力	破損率	速力	航続	距離	艦数	類別	速力	戦闘力	平均	戦闘力及び航続距離
二	扶桑	一三	〇、七五									
三	筑紫	一〇	一、〇〇									
三	高雄	五	〇、九五									
三	濟遠	七	〇、八五									
一	鎮遠	二四	〇、五〇									
三	龍田	四	一、〇〇	一九	一〇〇〇	一八〇〇	四	三一八、五	一七〇、九五	一八〇〇		
三	千早	四	〇、九五	一九	一〇〇〇	一八〇〇						
三	宮古	四	〇、九五	一八五	一六〇〇	二八〇〇						
三	八重山	五	〇、九五	一八五	一六〇〇	二八〇〇						
三	明石	一七	〇、八五	一八	一七〇〇	二七〇〇	二	三一八	三四〇、八五	二七〇〇		
三	須磨	一七	〇、八五	一八	一七〇〇	二七〇〇						
二	和泉	二〇	〇、八〇	一六、五	二二〇〇	三三〇〇	五	二一六、五	一〇六〇、七九	二五〇〇		
二	高千穂	二四	〇、八〇	一六、五	二七〇〇	三八〇〇						
二	浪速	二四	〇、八〇	一六、五	二七〇〇	三八〇〇						
二	秋津洲	二三	〇、八〇	一七	一五〇〇	二五〇〇						
二	千代田	一五	〇、七五	一七	一五〇〇	二五〇〇						

地中海ニアリテ豫備ノ役務ヲナスモノ(六―八週間)										
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
「ゾウチナワアチアポストロフ」	「ツリー、スツチーチェリア」	「ロスチスラウ」	「フサイードニク」	「ガイダマーク」	「ボープル」	「マンヂウール」	「アツワージヌイ」	「グレミヤーシチー」	「グレイヤーシチー」	「フサイードニク」
五四	七八	七二	七	四	三	三	二	二	二	
〇、三〇	〇、二〇	〇、二五	〇、九五	〇、九五	〇、九五	〇、九五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	
一六	一六	一六	一一	九	九	一一	一一	一一	一一	
一七〇〇	一八〇〇	二〇〇〇	新浦	旅順口	新浦	大連灣	新浦	大連灣	大連灣	
三二〇〇	二八〇〇	三〇〇〇	七	四	三	一	二	二	二	
四	一	一	七	四	三	一	二	二	二	
一六	一六	一六	二	二	三	三	二	二	二	
二四四	二四四	二四四	一	一	九	九	八	八	八	
〇、三一	〇、三一	〇、三一	〇、九五	〇、九五	〇、九五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	

類別	艦名	戦闘力	破損率	速力	航続	距離	艦數	類別	速力	合戦闘力	平均破損率
二	「ロシーヤ」	九〇	〇、五五	一八	二八〇〇	五〇〇〇	二	二	一七	一七〇	〇、五七
二	「リューリック」	八〇	〇、六〇	一七	二四〇〇	四〇〇〇	二	二	一七	一七〇	〇、五七
二	「ウラチーミルモノマーフ」	二三	〇、七〇	一四、五	二五〇〇	三五〇〇	二	二	一四、五	五六	〇、七〇
二	「ドミトリードンスコイ」	二三	〇、七〇	一五	二五〇〇	三五〇〇	二	二	一五	二一	〇、七〇
三	「アドミラルコルニコフ」	二一	〇、八五	一五、五	二四〇〇	四〇〇〇	一	三	一五、五	二一	〇、八五
三	「モスクワ」	五	〇、九五	一八	八二〇〇	一五〇〇〇	四	三	一七、五	二〇	〇、九五
三	「ヘルツ」	五	〇、九五	一七、五	九〇〇〇	一五〇〇〇	四	三	一七、五	二〇	〇、九五
三	「サラートフ」	五	〇、九五	一七、五	九〇〇〇	一七〇〇〇	四	三	一七、五	二〇	〇、九五
三	「ベテルブルク」	五	〇、九五	一七、五	九〇〇〇	一七〇〇〇	四	三	一七、五	二〇	〇、九五
三	「キーエフ」	〇	一、〇〇	一三		六〇〇〇	六	六			
	「ウラヂーミル」	〇	一、〇〇	一三		六〇〇〇	六	六			
	「ウオローチシ」	〇	一、〇〇	一三		六〇〇〇	六	六			
	「ニチニウゴロツド」	〇	一、〇〇	一二、五		三五〇〇	六	六			
	「ヤロスラーウリ」	〇	一、〇〇	一二、五		三五〇〇	六	六			
	「ハバロフスク」	〇	一、〇〇	一一		二〇〇〇	六	六			

類別	艦名	戦闘力	破損率	速力	航続	距離	艦数	類別	速力	合戦闘力	平均破損率
一	「ナヒーモフ」	四〇	〇、五〇	一六	二八〇〇	四三〇〇	一	三	一七、五	五	〇、九五
三	「アリヨール」	五	〇、九五	一七、五	九〇〇〇	一七〇〇	一	三	一七、五	五	〇、九五
運送船											
	「エカチエリノスラフ」	〇	一、〇〇	一三	〇	六〇〇〇					
	「タムボフ」	〇	一、〇〇	一三	〇	六〇〇〇					
	「カストローマ」	〇	一、〇〇	一三、五	三五〇〇	三五〇〇	六				
	「チハーチュフ」	〇	一、〇〇	一三、五	三五〇〇	三五〇〇					
	「ニコライ」	〇	一、〇〇	一三、五	三〇〇〇	三〇〇〇					
	「ゾリガ」	〇	一、〇〇	一三、五	三〇〇〇	三〇〇〇					
婆羅的海ニアリテ豫備艦ノ役務ヲナスモノ											
一	「ボルターリ」	九〇	〇、二〇	一六	二二五〇	三二〇〇	二	一	一六	一八〇	〇、二〇
一	「セリストーポリ」	九〇	〇、二〇	一六	二二五〇	三二〇〇	二	一	一六	一八〇	〇、二〇
米三	「ワリヤーグ」	六〇	〇、六五	二〇	一七〇〇	四〇〇〇	一	二	二〇	六〇	〇、六五
米四	「スモールレンスク」	五	〇、九五	一九	九〇〇〇	一五〇〇〇	一	三	一九	五	〇、九五

總戦闘力比較 (戦役ノ初期)

(譯者曰ク米米ハ二三ノ誤植ナラン暫ク原文ノ儘ヲ記ス)

日	等級	速力	戦闘力	破損率	露	西	亞
三	一	一七	二九〇	〇、二〇	三	一	一五
一四	二	二〇、五	五三二	〇、七一	四	二	二二、六
六	三	一九、一	五一	〇、九二	五	三	一八、一
一〇	三	一八	五〇	〇、九五	六隻ノ運送船		
一等水雷艇 十二隻 二等水雷艇 二十五隻 三等水雷艇 十二隻							
一等水雷艇 二隻 二等水雷艇 四隻 三等水雷艇 七隻							

六乃至八週ノ後

日	等級	速力	戦闘力	破損率	露	西	亞
三	一	一七	二九〇	〇、二〇	七	一	一五
一四	二	二〇、五	五三二	〇、七一	四	二	二二、六
六	三	一九、一	五一	〇、九二	六	三	一八、一
一〇	三	一八	五〇	〇、九五			

日	本				露				
	數	等級	速力	戰闘力	破損率	數	等級	速力	戰闘力
四	一	一七	四一〇	〇、二〇	九	一	一五	六四〇	〇、二五
一五	二	二〇五	六一七	〇、六九	五	二	一四	二八六	〇、六四
一六	三	一五	一〇〇	〇、九三	七	三	一六	五一	〇、九二

以上ノ表ニ於テ戰闘力トハ毎分時千「フ」ト噸ノ活力ヲ算シ相似スル艦ノ等級ニ據リ比較ス又  
破損率トハ裝甲艦ニ〇・一ヲ與ヘ以上非裝甲艦ヲ一・〇〇トス

○附録第三 日本ノ陸軍力

日本ハ尙未ダ全ク陸軍ノ編制ヲ完成シタルモノト云フ可カラス現時六師團ト近衛一師團トハ新  
定員數ニ據リ編成サレ各師團トモ之ヲ動スヲ得各師團ハ歩兵四聯隊(三大隊ツ、ノ騎兵一聯隊四  
中隊ツ、ノ砲兵一聯隊砲六門ヨリ成ル野砲中隊六ト同山砲中隊三ト)工兵一大隊ヨリ編成サル即  
チ歩兵一萬一千騎兵五百ト砲五十四門ニシテ全七個師團ノ兵數ハ歩兵七萬七千騎兵三千五百ト  
砲三百七十八門アリ

師團司令部ハ概シテ日本島ノ東岸ニアリ即チ仙臺第二(東京第一)名古屋第三(大坂第四)廣島第五等

ニシテ第六師團ハ九州島ニ在リ此等六個師團ハ汽船會社ノ汽船ニシテ助成金ヲ受クルモノヲ借  
リ上ケ七日間ニシテ搭載準備ヲ整ヘ得ヘキモノト見テ誤ナカラシ汽船ノ總噸數ハ二十萬噸ニ下  
ラサルヘシ輸送ノ程度ハ毎千噸ニ付遠距離ニ於テ二百五十名、近距離ニ於テ五百人ニシテ其ノ速  
力ハ十二節以上ナリ

第八師團ヨリ第十二師團ニ至ル五個師團ハ騎兵及ヒ砲兵ノ數ニ於テ未ダ充實セス即チ各歩兵一  
萬一千騎兵百二十五砲十八門ナリ此ノ五個師團ヲ合シテ歩兵五萬五千騎兵六百二十五砲九十門  
トナル但初メノ六個師團ヲ動シタル後ニ於テ此等モ亦速ニ準備サル、コト、ナルヘシ此ノ中二  
個師團ハ日本島ノ西岸ニ他ノ二個ハ南東岸ニ一個ハ九州島ニ各其ノ司令部ヲ置ケリ第七師團ハ  
北海道ニ在ルモ未ダ編成ニ到ラス

彈藥及ヒ糧食運搬ノコトニ關シテハ各師團輜重大隊ノ編制アリ各大隊ハ八六百名馬三千頭ヨリ  
成ル一八九五年戰役(日清戰役)ニ在テハ主トシテ軍夫ヲ使役シ之ヲ負擔セシメ若クハ手車ニ積載  
シテ之ヲ牽カシメタリ此ノ軍夫ノ數二師團(一軍)ニ就キ一萬人ニ達シ一部ハ日本ヨリ備入レ一部  
ハ韓人及ヒ支那人ヲ利用シタリ

日本兵ノ給養ハ每人一日米約一「リートル」ナリ  
目下元山釜山及ヒ仁川ニハ一大隊ツ、ノ日本兵駐屯セリ



同	ブラゴヘスチエンスク
同	チタ
同	ニコラヘフスク
同	旅順口
同	大連灣
同	マレグワイ
二等倉庫	ラズドクノエ
同	アヌーチノ
同	フラウヤンカ
三等倉庫	スレーチエンスク
同	ウユルフチウジンスク
同	トロイツコサーコフ
同	チルチンスク
同	カーメン、ルイパーロフ

其ノ他エカチエリノニコリスグニアル軍用倉庫及ヒ浦鹽ニアル製粉所ヨリモ補給スルコト、ス

浦鹽斯德港及ヒ豆滿江ヨリア米利加灣ニ至ル沿岸ノ防禦

海軍中佐 ホムートフ達

浦鹽斯德港ノ衛戍ハ左ノ如シ

陸軍兵 七千人 海軍兵 三千〇六十人

此ノ中陸軍兵ハ左ノ細別ヨリ成ル

戰列大隊 貳個 要塞大隊 五個 要塞砲兵中隊 六個  
水雷中隊 壹個 哥薩克百人隊 貳個(三百人) 計 七千人

以上ノ要塞砲兵六個中隊ハ海軍砲臺十二陸軍砲臺五ノ砲員ニシテ此ノ外各海陸軍砲臺ヨリ一小隊ヲ、ヲ編制シ敵ノ攻撃ニ備フ此ノ數五中隊ナリ残り六大隊ハ浦鹽斯德ニ向フ敵ノ上陸運動ヲ防禦スル爲メ充分ノ準備ニアルヘシ

水雷中隊ノ任務ハ防禦水雷ヲ敷設スルニアリ浦鹽斯德ノ港口及ヒボシエツト灣ニ水雷ヲ敷設スルノ外シヨート半島ノ南端ヨリ第七望樓迄ノ線ニ在テ黑龍灣ニ圓錐形水雷譯者曰ク機械水雷ナリノ群連ヲ沈置シ又同式水雷ノ群連ヲ陸上砲臺ノ射角ノ利カサル區域ニ之カ補助トシテ海岸ヨリ三十鏈ノ距離ニ於テ沈没スルノ任務ヲ有ス

哥薩克百人隊ノ一部ハボシエツト灣ヨリア米利加灣迄沿岸一帯ノ郵便線路ノ護衛ニ任シ一驛ニ就キ六人ノ割トシ全線ヲ十驛トシ總計六十人ヲ配スルコト、ナス  
海軍兵ハ左ノ細別ヨリ成ル

艦艇乗員 千七百人 假裝船ノ補充員 五百人 陸戰隊員 百五十人  
港務部員 七百人 計 三千〇五十人



港務部員七百人ノ中六十三人ヲ望樓ニ配付ス此ハ各樓ニ付三人ヲ見積リ浦鹽斯德ボシエツト其ノ他ノ島嶼ニ存在スル望樓ノ數二十一アルカ爲メナリ外ニ各樓ニ水兵ノ補助トシテ獵兵三名ツツヲ配置スルコト、シ此ノ數二中隊ヲ見積リ宣戰布告ト共ニラズドリーノエ區ヨリノ召集員ヨリ取ル亞米利加灣ヨリノ召集ニ係ル他ノ獵兵二中隊ハ蘇城石炭坑ノ防禦ニ充テラル、管ナリボシエツト灣ノ衛戍ハ左ノ諸兵ヨリ成ル

戰列 大隊 壹個 要塞砲兵中隊 壹個 水雷中隊 一個(水雷衛所員)

ボシエツト灣ノ附近ニハ必要ノ場合ニ増援トナルヘキ陸軍兵ノ大部隊ヲ駐屯セシムヘキコト、ス豆滿江ノ口ハ探險隊ノ溯航シタル後沈木譯者曰ク樹木ヲ伐リ石ヲ付シテ水面下ニ沈メ河ノ航行ヲ妨害スル装置ナリヲ以テ之ヲ塞ク

浦鹽斯德ヨリ黑龍灣ヲ横切り海底電線ヲ敷設シ陸上線ト連接セシム

黑龍灣ノ海岸ニ沿ヘル鐵道線路ニハラズドリノエヨリ召集シタル獵兵ヲ配シ之ヲ護衛セシム宣戰布告ノ日ヨリ總テノ燈臺ニ消火ヲ命シ航行スル船舶ノ規約ノ燈火ヲ掲揚スルトキニ限り點火ス

浦鹽斯德港ノ警戒ニハ水雷巡洋艦ヲ以テ之ニ充テ又哨戒勤務ハ同港ニアル總テノ水雷艇ヲ以テ之ニ服サシメ港ノ密接ナル封鎖ニ陥ラサル限り附近ノ沿岸警戒ノ爲メ出動セシム  
ボシエツト灣及ヒアマメリカ灣ニハ水雷艇ノ爲メ石炭庫ヲ設置ス

○附錄第五 韓國紀要

北韓 總論

陸軍中佐 男爵コル フ述

北韓ノ地形ハ其ノ狀恰モ不等邊平行方形ヲ爲シ東ヨリ南西ニ五百六十露里延長シ直徑二百露里ニ達ス二邊ノ平行セル側ハ北ハ滿洲ニ疆シ南ハ韓半島ヲ接續シ平行セル兩邊ハ朝鮮海及ヒ日本海ニ臨ム斯ノ如キ自然ノ地勢ヲ有スルヲ以テ第一兩海ヨリ滿洲ヲ隔離シ(遼東半島ヲ除ク)第二敵ヲシテ陸兵揚陸ノ企畫ヲ斷念セシメ以テ富饒ナル滿洲ヲ安全ニシ第三韓半島ニ向ヒ作戰ノ廣キ立場トナリ第四半島ノ最狹部ニ向ヒ進入ヲ容易ナラシメ第五我カ南島蘇里邊境ト關東州ヲ連結スルノ條帶ト爲ル

北方疆界線ノ初頭三分一ハ山岳重疊ノ高臺トナリ白頭山ト稱スル火山質ノ頂巔ヲ有ス此ノ山脈ハ北東ニ於テ他ノ火山系山脈ト繋リ此ノ方面ニ於テ豆滿江ノ河域ヲ限ル別ニ南東ニ向ヒ一ノ山脈岐レ再分レテ二トナリ其ノ一ハ豆滿江ト海トヲ分チ他ハ南西ニ走リ大同江及ヒ清川江ノ分水界ヲ有スル他ノ山脈系ト合ス此ノ山系ハ前記兩江及ヒ南西ニ流ル、鴨綠江及ヒ其ノ支流一帯ノ河域ヲ分テリ此ヨリ分岐スル支脈ノ中海ト竝行スルモノハ大同江ノ水源ニ近キマンサン府ノ附近ニ達シ其ヨリ更ニ海ニ向ヒ元山ノ南ニ至リ急ニ低下シテ遂ニ金剛山脈ト合ス此ノ海ニ沿ヘル一帯ノ山脈ヲ沿海山脈ト稱セリ

前述ノ如キ山脈及ヒ河水ノ形勢ハ國防上最有利ノ地形ヲ形成セリ即チ第一日本海方面ヨリ陸兵

ヲ揚陸セシメントナラハ敵ハ内地ニ入ルニ先タチ沿海山脈ヲ越エサルヘカラス第二半島ヨリ鴨  
 綠江ノ最北彎曲部ニ出テントナラハ大同江一帶ノ防禦線ヲ破リタル上山脈ノ頂點ヲ越エサルヘ  
 カラス第三南滿洲ニ入ラントセハ大同江清川江及ヒ鴨綠江ノ防禦線ヲ順次ニ破ラサルヘカラリ  
 ルナリ此ノ地方自然ノ沼澤ハ殆ト皆無ナルモ人工ノ池例ヘハ水田ノ如キハ年内ノ長時日ニ互リ  
 存在セリ此等水田ハ甚タ小サキ平面ノ區劃ニ分チアレハ騎兵ノ働作ト砲車及ヒ輜重車ノ運動ニ  
 ハ甚シキ阻碍トナルモノナリ但之ニ車道ヲ開通スルコトハ左程困難ノ事業ニアラスシテ全ク勞  
 働者ノ數ニ由リ迅速ニ之ヲ施スコトヲ得ヘシ此等水田ノ存在スル區域ヲ一方ヨリハ兩海岸ト他  
 方ヨリハ沿海山脈及ヒ大同江ノ西方端川アンサン府ノ線ニ走ル山脈トニ由リ圍繞ス豆滿江ノ彎  
 曲部附近ニハ米ヲ産セス然レトモ小ナル水田ハ豆滿江ノ下流及ヒ鴨綠江ノ中流ニアリ森林ハ大  
 抵白頭山一帶廣キ地域ノ平キ山頂及ヒ其ノ傾斜面ニアリ之カ爲メ一層此ノ附近ノ地ヲシテ近ッ  
 クヘカラサルモノト爲セリ  
 氣候ハ冬季山地ニ於テハ嚴寒ニシテ夏季ハ到ル處暑氣酷シ殊ニ夏季ニハ屢熱帶地方ニアルカ如  
 キ大雨ノ到ルコトアリ之カ爲メ河川ノ出水ハ年中二回アリ即チ早春ト夏季トニテ夏季ノ出水ハ  
 間斷アリ三箇月連續ス出水期ニハ本流ニ舟行ノ便アリ然レトモシヤラン船ヲ溯ラシムルコトハ  
 流勢ノ急ナルカ爲メ極テ困難ナリ小流ニ於テモ航行シ得ヘクシテ小舟ノミ之ニ通ス平水ニ於テ  
 ハ舟行ハ豆滿江ニアツテハ瑛春ヨリ鴨綠江ニ在テハ帽子山ヨリ清川江ニ在テハ熙川ヨリ大同江  
 ニ在テハ平壤ヨリ少シク上流ヨリ通ス出水期ニ際シテハ橋ノ乏シキト是アルモ極テ疎雜ナルト

ヲ以テ著シク河域ニ通スル交通ニ影響ヲ來スコトアリ概シテ道路ハ迂餘曲折セリト雖モ比較的  
 僅少ノ勞力ヲ加ヘテ車道ニ改築スルヲ得ヘシ住民ハ殆ト耕作ノミヲ生業トスルヲ以テ山林地方  
 ニハ住スルモノ無ク河域ニノミ多ク住居セリ然レトモ其ノ村落ハ散在セルヲ以テ軍隊ヲ舍營セ  
 シムルニハ不便ナリ加之燕麥小麥等穀類ノ收穫ナキコト、耕地及ヒ牧畜地ノ面積小ナルコト、  
 倉庫ノ全ク存在セサルコトハ全ク給養ヲ輜重ニ仰カサルヘカラサルコト、ナル但米ノミハ此ノ  
 限ニアラス製造及ヒ貿易等ハ見ルニ足ルモノナシ

朝鮮各部分ノ概覽

韓國ノ地勢ハ之ヲ若干ノ小部分ニ區別スルトキハ其ノ各部ハ陸上并ニ沿岸ノ形勢ニ於テ各特異  
 ノ性質ヲ具有スルヲ見ル

黃海朝鮮海灣ニハ甚タ著シキ潮ノ干滿アリテ干滿ノ差四〇呎一六八呎一晝夜間ニ數露里ノ長サ  
 ニ互リ隱現スルノ堆アリ故ニ此ノ方面ニ在テ陸兵ノ揚陸ハ單ニ河口ニ於テノミ之ニ適セリ大同  
 江ノ口ニハ鎮南浦アリ鴨綠江ノ口ニハ義州アリ何レモ周年航行シ得ヘシト雖モ後者ニ在テハ冬  
 季薄氷ヲ破ラサルヘカラサルト又水道ノ水深淺ク且測量ノ不充分ナル缺點アリ此等二港ノ外ニ  
 ハ黃海ニ瀕スル朝鮮岸ニハ價值アル港灣ナシ  
 日本海ニ於テハ百三十度ノ子午線以西ハ氷結スルコトナク干滿ノ差亦四呎ヲ超エス沿岸ハ陡界  
 ニシテ高シ雄元端角ト舞水端角トノ間ハ巖岩露出シ北方エングウ井スト角ヨリ南ノ方クレーセ  
 ル島マテノ間ハ處々灣入アリ小澳ヲ爲セリ日本海方面ニ於テ最艦隊ノ碇泊ニ便ナルハラザレフ

灣其ノ外新浦ト爲ス

日本海沿岸ノ沿海區ハ沿岸山脈ノ爲メ内地ノ地區ト遮斷サレ共ノ幅二十路里乃至五十路里(五里一十二里)ノ狹帶ヲ爲シ此ニ一條ノ道路縱貫セリ此ヨリ内地ニ通スル横ノ道ハ處々ニ沿岸山脈ヲ通スル時アリ此ノ中最多キハ(一)鏡城ト富寧トノ間(二)端川ト吉州間此ノ間ハ山脈ノ處々ニ道路アリ(三)咸興府ヨリ以南ナリ

前陳ノ如キ地形ニアルヲ以テ左ノ結論ヲ生ス

第一 陸兵ノ揚陸ニハ(一)鏡城ヨリ以北ノ海岸(ろ)クレセル島ヨリ南方ニ於テスルヲ以テ最便利トス

第二 大部隊ヲ揚陸センニハ假令此ノ地區ハ比較的富饒ナルモ(米魚鹽等ヲ得又小市街アリ)其ノ幅員狹隘ナルヲ以テ便利ノ根據地タルヲ得ス

第三 迂回牽制等ノ運動ヲ許サ、ル爲メ單ニ地區ノ長サニ沿ヒ對手ノ進入ヲ防止スルニ最便ノ地ハ鏡城ト吉州間及ヒ博川ト咸興間ナリ

博川ト咸興間ノ地區ハ帽子山トノ距離最近ニシテ富饒ナル滿洲地ヘ入ルノ關門ナリ又此ノ約中ニ前記ノ新浦アリ富寧ノ區域ハ豆滿江ト海トノ間ノ地ヲ占メ韓國中最狹部ヲ爲ス此ノ地區ノ效能ハ

第一 海岸ニ出入アルカ爲メ揚陸ノ容易ナルコト(龍在灣ヲ含ム)ナリ内地ヘ通スル道路モ此ノ區域ニハ最多シ但造山灣ト双浦灣トノ間ハ此ノ限ニアラス爰ニハ唯一條ノ小徑通スルノミ

共ノ他ノ道路ハ少シ修築ヲ加フルトキハ車輛ヲ通スヘシ

第二 此ノ上陸シタル部隊ヲ掩護スルニ足ル道路ノ方向良好ナリ例ヘハ琿春ヲ經テ浦鹽斯德ヨリ滿洲ニ達スル最捷ニシテ最便ノ道路通スルト又韓國ヨリ滿洲ニ通スルモノニシテ二五〇路里(六二里)ノ延長ノ間ニ唯一ナルモノモ此ノ地區ヨリ通セリ之カ爲メニハ豆滿江ハ最良ノ防禦線トナレリ即チ此ノ線ノ西方ニ在テハ江ノ左岸ハ全ク通行ニ適セサル地域ヲ以テ堅メ東方ニ在テ殊ニ琿春ヨリハ江共ノ物カ自然ノ防禦物トナル即チ共ノ江幅ノ廣クシテ水深キコトナリ

第三 北韓ヲ經テ南島蘇利地方ヨリ旅順口若クハ朝鮮半島ニ入ル總テノ道路ハ本地區ノ内ニアルコトナリ此ノ關係ニ於テハ富寧街道ハ他ノ豆滿江口ノク井ゲン街道ヨリモ著シキ效能ヲ有セリ

平頂ノ山脈ハ西ノ方三水及ヒ開城ニ達セリ此ノ中滿洲ニ出ツル道路トシテ僅ニ一條ノ小徑アルノミ共ノ海ニ瀕スルトコロハ揚陸ニ便ナラス尤海岸ヨリ數條ノ紆餘曲折セル徑路ハ平頂山脈ニ通スルモノアリ此ノ如キ地勢ナルト尙此ノ地域一帯ノ荒蕪ニシテ人類ノ生息ニ適セサルトノ故ヲ以テ本地域ハ兩隣地域ノ安全ナル連鎖トナルニ過キス此ノ中最樞要ナル地點ハ鰲山ニ近キ吉州及ヒ端川トス鰲山ヨリハ申山茂山ヲ經富寧及ヒ慶興ニ到ル道路通ス

中央區域ハ會寧迄ハ平頂山脈及ヒ鴨綠江ニ圍マレ其ノ他ハ清川江并ニ北大同江ノ上流ニ直角ニ走レル山脈ト沿海山脈トニ由リ圍繞サレノウオキエフスクヨリ旅順口ニ到リ又兩沿岸及ヒ半島

内地ヨリ吉林省州ニ通スル最捷ノ道路爰ニ通セリ北方ハ滿洲豐沃ノ域ニ接シ帽子山ヨリハ吉林及ヒ奉天ニ到ル車道通セリ故ニ帽子山ハ鴨綠江ヲ渡ル必要ナル關門ナリ其ノ他重要ナル地點甲山及クツジシハ日本海側ヨリ内地ニ入ルノ街道ニアリ江界及ヒ寧遠ハ黃海ヨリ内地ニ入ルノ街道ニアリ後者ハ又半島内地トノ交通要路ニ當ル

南西區域ハ殆ト全ク水田トナリ其ノ他ニ於ルヨリモ富饒ニシテ且人口繁殖セリ清川江ヲ界トシテ南北ノ二區ニ分チ其ノ北方ニハノウオキエフスグヨリ旅順口ニ南方ニハ半島中有ラユル方面ニ到ルノ道路通セリ

總テ此等ノ諸道路(元山ヨリノ沿海道路ヲ除ク)ニ對シテハ大同江木隊及ヒ其ノ支流ハ甚シキ障礙トナリ其ノ他中央滿洲ニ通スルモノニ對シテハ清川江及ヒ大同江ノ水源山脈南滿洲ニ通スルモノニ對シテハ鴨綠江障礙トナレリ其ノ鎮南浦ヨリ發スルモノトラザレフ灣ヨリ北方日本海沿岸ヨリ發スルモノハ大同江ノ流ニ咸興ヨリスルモノハ清川江ニ沿フテ通ス而テ前記ノ諸山脈ハ何レモ此等市府ノ北ニアリ此ノ外最著シキ市ハ舊都ノ平壤ニシテ京城ヨリ義州ニ通スル支那街道ト大同江流トノ交叉點ニアリ即チ沿海山脈ニヨリ半島ノ狹窄部ノ中央ニ位置セリ成川及ヒ陽徳ノ二市ハ京城ヨリ北大同江ニ向ヒ或ハ韓國東岸ヨリ平壤ニ向フ通路ニ在リ鎮南浦ハ開港場ナリ安州ハ支那街道ニ於テ清川江ノ渡シ場トナリ熙川ハ北區域ニ通スル道路ニ在リ爰ヨリ上流ノ清川江ニハ舟楫ヲ通セス鴨綠江ノ義州ハ支那街道ノ要驛ニシテ爰ヨリ奉天旅順口ニ到ル車道通シ又北方荒漠地方ヨリ半島ノ内地ニ到ル小徑モ通セリ

南韓

韓半島ハ實ニ作戰ノ第三地點トナル即チ兩面ニ海ヲ受ケ南ノ方九州島ニ近ク臨ムヲ以テ大陸ト日本群島トノ陸軍勢力ノ相衝突スヘキ自然ノ作戰場ナリ半島ノ長サ五百露里幅ハ其ノ最狹部ニ於テハ百二十露里平均約二百二十露里ヲ有セリ

山系 半島ノ脊梁ヲ爲スモノハ中央韓山脈ナリ初頭ヲ半島中部ニ起シ所謂金剛山ヲ形成ス此ノ長サ約六十露里ニシテ北緯三十九度ノ月移台ニ達ス一帶ノ山脈全ク曲折ノ山道ヲ通スルニ適セス唯二條ノ細徑長箭洞ヨリ三七〇〇呎ノ高峯ヲ通シテ漢江ノ河孟ニ通スルノミ此ノ高點ヨリハ山脈著シク低下セリ

北方ニ支出スルモノハ廣キ高原ヲ爲シ一二〇〇乃至二〇〇〇呎ノ高地ニ於テ道路ヲ通シ延テ陽徳ニ到リ爰ニ他ノ著シク低キ中央山脈ト合シ南ニ出ツルモノハ數多ノ支脈ヲ派出シ諸川ノ分水界ヲ形成ス此等支脈ハ各其ノ分岐點ニ於テ著シク本脈ヨリモ低下シ遂ニ丘陵トナル

東海岸ヨリ本脈ニ到ルノ距離ハ四十露里約十里ヲ上ラス其ノ最高點ハ六〇〇〇呎ニ達セリ山脈ノ海岸ヲ離ル、此ノ如キ距離ニアルヲ以テ其ノ全半島ノ地勢ニ影響スル所ハ東海岸ノ地域ハ其ノ幅甚ク狹隘トナリ爲メニ其ノ中央部ニ於テハ港灣ヲ形成スルノ餘地ナカラシム西海岸ノ地域ハ之ニ反シ廣闊ニシテ漸次海ニ低下シ海岸線ハ出入シテ無數ノ港灣ヲ形成シ又島嶼ヲ以テ點綴セリ此ノ沿岸一帶ニハ四〇呎乃至六〇呎ノ干満差アリ沙堆アリテ沙堆及ヒ干潮時ニ干出スル堆岸多シ潮流モ亦漲落ニ應シ二様ノ強流ヲ生ス

東沿海岸ハ全ク之ニ反シ斯ノ如キ著シキ干満差ナシ一晝夜ニ於ル水準ノ差ハ四呎ヲ超ニス又概シテ陡界ナリ然レトモ其ノ山脈ノ近在スルカ故ニ良好ノ港灣ニ乏シ漲潮ハ概シテ著シカラス隨テ百般ノ便宜ハ半島ノ南東隅ニ歸シ爰ニハ洛東江ノ海ニ注ク江口アリ全半島ノ南ト東トノ側壁ノ連絡ヲ破ル

東海岸ニハ河川ト稱スルモノ無ク唯處々ノ窪路ニ溪流ヲ見ルノミ山岳ノ西麓ヨリハ洛東江其ノ源ヲ起シ北ヨリ南ニ流レ二百五十露里六十二里ニシテ馬山灣ニ到リ海ニ注ク此ノ全流域ニ沿ヒ京城ヨリ釜山ニ到ル二條ノ大道路通セリ中一條ニハ電信柱ヲ架設シアリ江口ノ附近ニハ南韓中  
最良ノ港釜山港及ヒ馬山浦アリ洛東江ハ四呎吃水ノ小舟ニ對シテハ二百三十露里約五十七里ノ上流星州迄溯航ニ適セリ其ヨリ以上二百五十露里約六十二里乃至三百露里七十五里ノ上流ニアル善山迄ハ淺キ荷舟ノミ漸ク通ス滿水ノ季節ニハ溯航距離ハ例外ニ増大ス

水浦江一名群江ハ荒漠ノ地方ヲ貫流シ半島ノ南西隅ニ注ク本江ノ上流ニ當リ釜山ヨリ京城ニ通スル一方ノ道路通セリ漢江ハ韓半島中最大ノ河流ニシテ二條ヨリ成ル其ノ北方ノモノハ支流トナリ南方ニ在ルモノハ本流トナル江口ヨリ上流約百露里マイチヤイ村ニ於テ相合シテ一條トナレリ漢江ハ實ニ自然ノ交通道路ヲ形成スルモノニシテ其ノ源ヲキヰンガン山ヨリ發シ日本海ヲ距ルコト四十五露里十一里餘ニアリ其ノ中流ハ南漢江トナリテ群江及ヒ洛東江ノ上流ト相距ル僅ノ距離ニ流レ又其ノ支流臨津江ハ大同江及ヒ陽德高原トハ近距離ニアリ支那形船ニシテ一五〇〇布度(二十五噸)ノ積載量アルモノ順風ニ乘シ江口ヨリ二百露里以上五十里ノ距離ニアル丹陵

迄ハ溯航スルヲ得概シテ漢江ハ其ノ平水ニ於テ本支流ノ合流點ヨリ上流二百露里五十里ニ舟楫ヲ通スルコトヲ得即チ此ノ距離總計三百露里七十五里以上ニシテ日本海ヲ隔ツルコト六十露里(十五里)ナリ

北漢江ハ其ノ合流點ヨリ上流百露里(二十五里)ノ間ニ舟楫ヲ通ス但爰ニ最困難トスルハ竿若クハ曳索ヲ以テ舟ヲ溯ラスコトニシテ殊ニ急流ニ際シテ然リトス

漢江一帯ニ泛ヘル船舟ノ概數統計ハ左ノ如ク見積ルヲ得ヘシ即チ本支流ノ合流點以下二一〇〇隻此ノ積載量一、五〇〇、〇〇〇布度(二五、〇〇〇噸)南漢江ノ上流ニ一二〇〇隻此ノ積載量七一〇、〇〇〇布度(一一、八三三噸)北漢江ニ六〇〇隻此ノ積載量四〇〇、〇〇〇布度(六六、六六六噸)ナリ漢江中流々域ノ地味ハ甚タ豐沃ニシテ殆ト大同江ノ流域ニ伯仲セリ下流ノ地質ハ沙地多ク上流ハ處々ニ火山岩及ヒ「バザルト」石ノ層ヲ交ユ

橋梁ハ皆無ナリト雖モ渡船ノ設備南漢江ニ於テ其ノ數三十六ニ達ス(具ハルヲ以テ交通ニハ差支ナシ)氣候ハ甚タ温和ナリ雨量ハ約三十吋ニシテ其ノ四分ノ三ハ六、七、八月ニ降ル冬季ハ大氣極テ乾燥スルモ甚タ寒カラス但京城ノ附近ニ在テハ十二月ノ末ヨリ二月下旬ニ互リ溜水ノ氷解セサルコトアリ

道

慶尙道 本道ハ洛東江ノ河域ヲ占有セリ海ニ面セル山脈ノ傾斜地ニハ人口稀少ナルモ内地ニ在

テハ甚々稠密ニ且道路四通シ京城ヨリ釜山及ヒ馬山浦ニ通スル大道路ハ全河流ニ沿フテ通シ又南西部ニ於テハ群江ノ上游ヨリ馬山浦ニ通スル道路アリ

日本海沿岸山脈ハ群江及ヒ洛東江ノ兩河系ノ間ニ散在スル諸山ハ連續セス洛東江ノ河域ハ其ノ面積實ニ廣大ニシテ前記ノ三大道路ハ總テ爰ヲ通シ日本ヨリ亞細亞大陸ニ入ルノ第一關門ト爲リ日本軍隊ノ從來好シテ採用シ來レル道路ナリ第十六世紀ヨリ釜山ハ既ニ對馬侯ノ食邑ナリシナリ

江原道 全半島ノ基礎ヲ形成スル山脈兩側ノ傾斜地ヲ占有シ全クノ山地ニシテ完全ナル道路ナシ唯一ノ大道路ト稱スルモノハ京城ヨリ元山ニ到ルモノニシテ而モ荒蕪ノ地方ヲ通過セリ沿海地域亦港灣ニ乏シ

木道ノ効力ハ日本海側面ヨリノ侵入動作ヲ拒クニアリ

全羅道 半島南部ノ西半ヲ占有シ其ノ南部ハ高地トナリ北部ハ平地トナル南部ハ家畜及ヒ馬ヲ産シ天然ノ飼料ニ富メル好牧場ヲ爲ス木道ニハ良好ノ港灣多シ然レトモ山地ナルカ故ニ道路ニ乏シク本街道トシテ一條ノ道路海岸ニ沿ヒ通スルノミ

忠清道 木道ノ北東部ニ當リ半島ノ南東部ヨリ來ル三條ノ道路通セリ就中清州街道最著ル此ノ街道ハ實ニ日本ヨリ大陸ニ至ル道路ノ鎖鑰ナリ西部ニハ木浦ヨリノ沿海道路通セリ

黃海道 清國ノ山東省ニ對シ恰モ慶尙道カ日本ニ對スルカ如キ關係ヲ有シ爲メニ支那軍隊ノ上陸地トナリ又海賊ノ襲撃ヲ受ケタルノ例ニ乏シカラス山岳ハ主山脈ニ接合シ其ノ低下セルモ

ノハ大同江及ヒハパール水ノ分水界ヲ形成セリ隨テ内地ハ山地ニシテ森林多ク人口稀ナリ沿海線ハ淺堆多キカ爲メ大部隊ノ兵ヲ揚クルニ適セス但島嶼ノ散在スルモノアルカ故大東河口ニ向フ中間ノ根據地トシテ利用スルヲ得ヘシ開城ハ船著ニ便ナラスタンボーチヤンノ口ノミハ稍便利ナリ京城ニ通スル主ナル道路ハ道ノ北部ヲ通シ大同江ノ有力ナル防禦線ヲ渡ル

京畿道 漢江ノ下流一帯ノ地ヲ占メ爰ニ國都京城ニ通スル總テノ道路集中ス漢江灣ハ其ノ淺水ナルト屢次ノ出水ト荒天ノ爲メ水道ノ變化甚シキカ故航行ニ適セス海岸ハ概ネ卑低ノ沙堆ヲ爲セリ京城ハ別ニ作戰上ノ價值ヲ有セスト雖モ此ノ附近ノ地ハ諸道路ト渡シ場ノ中樞トナルヲ以テ古來ヨリ防備ヲ設ケ常ニ日清兩勢力ノ衝突地トナリ來レリ往時防備ノアリシ市ハ江華開城廣州及ヒ水原等ナリ竹山ハ漢江ノ西ニアリ釜山及ヒ木浦ニ通スル兩街道ノ要點ニ當ル漢江河口ニハ仁川港アリ

道名	區ノ數	戶數	壯丁ノ數	人口
慶尙道	七一	四二一、〇〇〇	三一〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇
江原道	四三	九三、〇〇〇	四四、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
忠清道	五四	二四四、〇〇〇	一三九、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇
全羅道	五六	二九〇、〇〇〇	二〇六、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
黃海道	二八	一〇三、〇〇〇	八七、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
京畿道	三六	一三六、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	六八〇、〇〇〇

京	城	一	三一、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
總	計	二八九	一、三一八、〇〇〇	八八三、〇〇〇

本街道カ大同江ノ支流南江ヲ渡ル點ニ昔時ハ軍略上樞要ノ地點トナリタル黃州アリ同市ハ北ニハ山岳最重疊トシテ跋渉困難ノ地域ヲ控ヘ南ハ大同江河域中最豐沃ナル部ニアリ

黃海道ノ產物ハ山鹽及ヒ材木ニシテ何レモ山東省ニ輸出サル、モノナリ

全半島ノ道路ハ其ノ水田ノ中ヲ行クド江邊ノ凹凸トニ據リ車道ニ適セス主ナル道路ハ毎日ノ行程ヲ計リ宿驛ヲ設ケ牛馬ヲ憩ハシムルノ設備及ヒ食物調理用ノ釜等アリ主ナル道路トハ京城ト諸港トノ間ニ通スルモノナリ此ノ中三條ハ釜山及ヒ馬山浦ヨリ京城ニ通ス總テ其ノ初頭ハ半島周圍ノ緣邊ヲ爲セル山脈ノ自然ノ罅裂ヨリ通スルヲ以テ日本ヨリ京城ニ入ルノ最捷路トナリ東側ヨリハ全ク通行シ難キ沿岸山脈ヲ以テ保護サレ西側ヨリハ初ハ全羅道ノ諸山アリ次ニ寄り付

キ難キ海岸ヲ以テ擁護サル三條トモ初ハ洛東江ノ沿岸ニ沿ヒ北行ス此ノ途中ニ於テ第一ノ峠トナルモノハ忠清道及ヒ慶尙道ノ道界ニ横ハレル山脈ト爲ス最西方ノ道路ハ此ヲ超エテ群江(木浦江)ノ沿岸ニ出ツ其ヨリ常ニ南方ヨリ京城ニ入ルノ關門ト稱スル忠州附近ニ向ヒ集中シ次テ漢江ヲ渡ル東方ノ道路ハ初ニ南漢江ヲ渡リ次テ此ノ流ニ沿行セリ京城以北ノ道路ハ區々ニシテ一ハ元山ニ向ヒ一ハ平壤ニ通セリ尙一條ノ道路京城ヨリ黃海ノ海岸ニ沿ヒ各港ニ通セリ京城仁川間ニハ漢江ノ流ニ沿ヒ鐵道ヲ通セリ

韓國内ニ於テ糧食品ヲ調達シ得ルノ程度ハ左ノ輸出表ヲ見テ之ヲ知ルヲ得ヘシ

		釜山及ヒ仁川	元	山	總	計
米		二、七〇〇、〇〇〇		五、〇〇〇		二、七〇五、〇〇〇
豆		六七〇、〇〇〇		三二〇、〇〇〇		九九〇、〇〇〇
コ	ウ	五一〇、〇〇〇		六〇、〇〇〇		五七〇、〇〇〇
總	計	三、八八〇、〇〇〇		三八五、〇〇〇		四、二六五、〇〇〇

○附録第六 兩國ノ宣言

日本ノ宣言

日本政府ハ一九〇〇年三月十二日ヲ以テ露國ト戰端ヲ啓クニ當リ將來戰鬪行爲ヲ繼續スル間違守セントスル左ノ條例ヲ發布セリ

第一條 露國臣民ハ日本國內ニ在留スルコトヲ得日本國內ニ在留セント欲スルモノハ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ所在警察署ニ出頭シ旅行券ノ交附ヲ乞フ可シ

第二條 日本ノ港灣ニ在泊スル露國商船ハ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ戰時禁制品ニアラサル貨物ヲ搭載シ出港スルコトヲ得

第三條 戰時禁制品トハ左ニ記載スル諸品ヲ云フ

一 各種砲彈

- 一 彈丸及ヒ附屬品
- 一 軍隊用彈藥
- 一 各種ノ燃料(石炭及ヒ液體燃料)
- 一 機械用及ヒ船用機關用油

中立國商船ハ前記ノ諸品ヲ露國港灣竝ニ敵地ニ向ケ輸送スルヲ得ス

中立國船舶ハ戰時禁制品ニ準シ露國軍隊電報郵便物及ヒ軍人ヲ輸送スルヲ得ス

第四條 戰爭中日本政府ハ一八五六年四月十六日巴里海上宣言一八六八年十二月十一日榴彈ニ

關スル彼得堡宣言一八六四年八月二十二日傷病兵救護ニ關スルジュネーブ條約及ヒ一八六四年

ノジュネーブ條約ヲ海戰ニ應用スルコト、ダムダム彈ヲ使用セサルコト及ヒ輕氣球ヨリ爆發物ヲ

投下セサルコト其ノ他陸戰ニ關スル一般法規及ヒ慣例等ヲ規定スルヘীগ條約ヲ遵守スヘキ

ヲ宣言ス

本條ニ關シテハ相互ノ主義ニ基キ露國ニ於テモ亦當然右ノ遵守セラルヘキヲ望ムモノアリ

第五條 中立國及ヒ其ノ臣民ニ對シテハ日本政府ハ可然筋ニ訓令シ又個人ヲモ戒飭シ最好ノ關

係ヲ維持スルコトニ努ムヘシ

一九〇〇年三月十四日 東京ニ於テ

諸中立國ノ一般宣言

三月十三日露西亞ト日本ノ間ニ戰端ヲ啓クニ當リ之ニ加入セサル諸國即チ英吉利佛蘭西獨逸清

國西班牙和蘭北米合衆國及ヒ其ノ他ノ中立國ハ中立ニ關シ雙交戰國ニ共通ナル一般中立宣言ヲ  
發セリ

前記ノ中單リ清國ハ中立國ト稱スル中ニモ嚴正ナル中立ハ清國港灣及ヒ清國飲水ニ於テノミ之  
ヲ維持スルコト、シ露國ノ勢力範圍内ニアル滿洲ニ於テハ之ヲ除外トセリ

佛國モ亦嚴正中立ヲ守リ佛國港灣ノ地方官憲ハ左ニ掲クル規則ヲ勵行スヘキヲ宣言セリ

前記以外各中立國ハ一様ニ左ノ宣言ヲナセリ

- (一) 中立國臣民ハ交戰國ノ戰鬪役務ニ服スルコトヲ得ス
- (二) 兩交戰國ハ中立國ノ領域及ヒ港灣ヲ使用シ駐屯地避泊地若クハ根據地トナスコトヲ得ス
- (三) 交戰國ノ軍艦艇ハ中立國ノ一港灣ニ入港シ二十四時間以上碇泊ス可カラス但天候險惡ナル  
カ若クハ乗員ノ生活ニ必要ナル糧食需品ノ缺乏スル場合ハ此ノ限ニアラス
- (四) 或中立國ノ港灣ニ雙交戰國ノ軍艦艇及ヒ商船碇泊シタルトキ甲交戰國ノ軍艦艇ハ乙交戰國  
ノ軍艦艇及ヒ商船カ出港シテ同中立國ノ領水ヲ離レタルヨリ二十四時間ヲ經タル後ニアラ  
サレハ出港スルヲ得ス
- (五) 中立國港灣ニ於テハ乗員ノ生活ニ必要ナル糧食需品及ヒ最近ノ自國港灣若クハ最近ノ目的  
地ニ到ルニ要スルタケノ石炭ヲ除クノ外軍需品若クハ其ノ他ノ需品ヲ搭載ス可カラス交戰  
國軍艦艇ハ一タヒ或中立國ノ港灣ニ於テ石炭ヲ搭載シタルトキハ三箇月ヲ經過シタル後ニ  
非スンハ再同中立國ノ他ノ港灣ニ入り石炭ヲ搭載スルヲ得ス



露國ノ宣言

露國陸軍部參謀長ノ立案ニ係ル宣言ハ國際公法専門家ノ校閲ヲ經タル充分ノ成案ト稱ス可カラ  
ス此ノ如キハ寧ロ或一部海軍士官ノ間ニ流布スル意見ヲ發表スルヲ以テ優レリトス

露西亞帝國政府ハ本年三月十二日露曆ヲ以テ帝國ト日本國トノ間ニ戰端ヲ啓クニ到リ爰ニ

- (一) 中立國及ヒ敵國ノ私人及ヒ其ノ陸上公海領海等ニ於ル私有財產
- (二) 日本ノ爲メ軍務竝ニ民政ニ服スル者及ヒ日本ノ國有財產
- (三) 負傷者病者及ヒ溺者等ノ救助ニ從事スル船舶
- (四) 戰鬪ノ場所若クハ其ノ附近ニ出現シ若クハ露國ニ對シ或敵對行爲ヲナセル中立國ノ私船軍艦  
ニ關スル國際規定ヲ宣言ス

第一項ニ關シ

- (イ) 中立國ノ私人及ヒ其ノ財產ハ不可侵トス若シ此等私人ニシテ露國ニ對シテハ敵意ヲ挾ミ日  
本ニ對シテハ有利ノ行爲ヲ爲シタルトキハタトヒ其ノ目的ヲ達セサルモ之ヲ露國野戰軍法  
會議ニ附ス

- (ロ) 日本臣民ニシテ露國版圖内ニ居住スルモノハ總テ之ヲ退去セシム可シ

各地方長官ハ其ノ行政權ノ範圍内ニ於テ此等ニ要スル猶豫ノ期日ヲ定ム此等ノ有スル私有  
財產ハ不可侵トス所在地住民ノ之カ侵犯ニ對スル保護ニ關シテハ所有者ノ意見ニ任ス(譯者

曰ク原書此所ニ??ヲ附シアリ蓋其ノ不都合ナルヲ指摘スルナリ以下做之

- (ハ) (イ) 及ヒ (ロ) ノ規定ハ陸上及ヒ領水區域内ニ存在スル人及ヒ財產ヲ稱ス領水區域トハ距岸十哩  
ノ線ヲ云フ

- (ニ) 中立國々旗ヲ掲揚シ航行スル船舶ハ必要ト認ムル場合ニハ何レノ海面ニ於テモ之ヲ臨檢ス  
ヘシ若シ同船内ニ日本ノ國有財產(??)トナルヘキ貨物若クハ下條ニ記載スル戰時禁制品ヲ搭  
載スルトキハ之ヲ差押エ可シ而テ其ノ貨物ハ浦鹽斯德捕獲審檢所ノ判決ニヨリ沒收スルコ  
トヲ得(??)貨物ノ正當所有主ヲ認議スルニ於テ疑ハシキ場合ニハ同捕獲審檢所ニ於テ決定ス  
沒收セラルヘキ貨物ヲ輸送シタル船舶ノ所有主ハ船舶カ抑留サル、ヨリ來ス損失ニ對シ賠  
償ヲ申請スルコトヲ得ス但正當理由ナクシテ差押ヘラレタル船舶ニ對シテハ損害賠償ヲ申  
請スルノ權利ヲ有ス賠償金額ノ決定ハ浦鹽斯德捕獲審檢所ニ於テ行フ貨物ノ所有主ハ貨物  
ニシテ損害セラレサル以上如何ナル場合ニ於テモ賠償ヲ申請スルヲ得ス差押ヘラレタル船  
舶ノ乘員ハ船舶ヲ軍港ニ回航シタルトキハ之ヲ解放ス可シ但俘虜ト認メラルヘキ日本臣民  
ハ此ノ限ニアラス

戰時禁制品トハ左ノ物品ヲ稱ス

- (一) 鐵及ヒ鋼製品及ヒ同金屬原形ノモノ、礦物
- (二) 各種ノ武器
- (三) 武裝品及ヒ運輸裝置

- (四) 火藥爆發物及此等ノ原料、硝酸及硝酸石
- (五) 船舶機裝具
- (六) 革及ヒ製靴
- (七) 綿花
- (八) 馬匹 擔負用及ヒ食用家畜
- (九) 金銀塊及ヒ金銀貨幣
- (十) 紙幣及ヒ補助貨

第二項ニ關シ

武官タルト文官タルトヲ問ハス日本國ノ勤務ニ服スル者ニシテ露國軍隊ノ勢力ノ及フ範圍内ニ在ルカ若クハ差押ヘラレタル船舶内ニ在ル者ハ之ヲ抑留シテ俘虜トナス抑留セラレタル者其ノ後ニ到リ露國若クハ其ノ臣民ニ對シ危害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ露國野戰軍法會議ニ附ス可シ

第三項ニ關シ

- (イ) 中立國及ヒ日本ノ船舶ニシテ戰闘ノ行ハルハ局面ニ來リ衛生勤務ニ服スルモノハ左ノ條件ノ下ニ船舶及ヒ其ノ係員衛生員トモ不可侵ト認メラル
- (一) 此等船舶ノ名稱ヲ同船舶ノ到著スル前二週間若クハ尙以前ニ露國政府及ヒ東洋ニ於ル露國海軍ノ最高指揮官ニ通知スルヲ要ス

- (二) 前記ノ如キ衛生勤務ニ服スル船舶ニシテ中立國ノ私人團體及ヒ會社ニ屬スルモノハ識別ノ爲メ塗り別ヲナストキハ船ノ全長ニ互リ兩舷ニ一米半ノ幅ヲ有スル紅色ノ帶ヲ施シ全體ヲ白色ニ塗り其ノ日本政府ニ屬スルモノハ白色ノ船體ニ同様ノ綠色帶ヲ施スヲ要ス
- 綠色ノ識別帶ヲ有スル日本政府ニ屬スル船舶ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得
- 但新條約ニ違反セリ捕獲ノ上ハ戰争ノ終結マテ露國ノタメ同一任務ニ服サシメタル後露國ノ所有ニ移ルモノトス

- (三) 前記ノ船舶ニシテ交戰國雙方ノ爲メ一視同仁ノ目的ヲ以テ負傷者救護ノ目的ヲ有スルトキ
- (四) 前記船舶ニシテ病院船ノ任務トスル所ニ反ストスルモ露國軍艦ノ總テノ要求ヲ遂行スルトキ

- (五) 前記船舶ニシテ戰闘中ニアル軍艦ノ行動及ヒ射撃ヲ妨害セサルトキ此ノ場合ニ於テ露國軍艦ノ發射スル方位ニ在リテ同船舶ニ命中スルコトアルモ露國ハ其ノ責任ニ任セサルコト、ス

- (ロ) 特ニ病院船トシテ定メラレサル中立國若クハ其ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ負傷者患者若クハ救助セラレタル溺者ノ輸送ニ從事シ又ハ自由通航券ヲ有スルモノハ何レモ不可侵トス負傷者患者及ヒ救助セラレタル溺者ハ一船舶内ニ其ノ中ノ患者ト救助セラレタル溺者ヲ合シ其ノ數五十名ノ以上ニ超ユルトキハ何レモ俘虜ト認ム將校ハ負傷者ト雖モ悉ク俘虜ト認ム

第四項ニ關シ

露國軍艦ノ所在地ヲ通航スル中立國ノ私船ハ停止スルカ若クハ指定ノ方向ニ向ヒ退去スルカ若クハ十日以内抑留セラル、モノトス此ノ場合ニ於テ船主及ヒ荷主ノ被ル損害ニ對シテハ露國政府ハ責任ヲ負フコトナシ

中立國ノ軍艦ハ戰鬪行為ノ行ハルヘキ局面ニ近ク存立スヘカラス若シ之ニ反スル場合ニハ露國政府ハ之ヲ以テ凌辱ノ行為ト認メ戰時條規ヲ適用ス可シ

中立國ノ陸海軍公使館附武官ハ必ス左ノ條件ヲ遵守スヘキ約ヲ以テ軍隊若クハ艦隊ニ從軍ヲ許可セラル

- (一) 現定ノ法則ニ絶對ニ服從スヘキコト上陸ノ場合ニ於テモ亦然リ
- (二) 自己ノ通信ハ受信發信トモ檢閲ヲ受クルコト公使館附武官ニハ萬一ヲ慮リ護衛トシテ必ス二人以上ノ名譽護衛兵ヲ附スヘシ(此ノ件必要アリヤ)

通信員ハ陸軍部隊及ヒ艦隊トモ一切之ヲ許可セス(此ノ件甚タ必要ナリ此ノ思想頗ル喜フヘシ)私有ノ船舶若クハ私人ニシテ苟モ露國ニ敵意アル行為ヲ遂ケタルカ若クハ規定ノ條規ニ服從セサルトキハ兵力ヲ用ヒ之ヲ抑留スヘシ總テ此ノ場合ニ於テ所屬中立國ニ送還ノ手續ヲ取ル可シ之ニ對スル損害ニ關シテハ露國政府ハ其ノ責ニ任セス

第五項ニ關シ

中立國商船及ヒ軍艦ノ歐露諸港灣ヘノ出入ニ關シテハ從來ノ規定ヲ適用ス旅順及ヒ大連ハ水雷防禦ヲ施行スルノ故ヲ以テ全然外國軍艦商船ノ出入ヲ禁ス浦鹽斯德ニモ亦水雷防禦ヲ施セ

リト雖モ中立國商船ニ限リ日出ヨリ日没時迄霧ノ晴レタル間ニ限リ露國水路嚮導者ノ指導ノ下ニ出入ヲ許可ス之カ爲メ入港セントスル船舶ハ一時港外ニ泊シ嚮導者ヲ待チ合スヘシ

○附錄第七 戰爭前ノ彼我ノ状態ニ關スル覺書

陸軍中佐 男爵コル フ述

一九〇〇年ノ春日本ト戰爭ノ場合ニ於テ日本ハ兵力ノ最大限度ニ於テ二十萬ヲ動シ得ヘシ此ノ中約四分ノ一ヲ作戰豫備ニ十五萬ヲ野戰軍ニ充テ尙後者ノ中七萬七千ハ八日間ニ準備ヲ整ヘ得ヘシ日本ノ海軍ハ一等艦二十隻二等艦十五隻ヨリ成リ小形艦船ハ尙此ノ以外ニアリ  
我カ海軍ハ一等艦九隻二等艦九隻ヨリ成リ小形艦船ヲ有セス然レトモ増援ノ到著ヲ待テハ一等艦十一隻二等艦十隻ヲ加フ陸軍ノ勢力ハ南烏蘇利邊境ニ浦鹽斯德ノ衛戍兵一萬(内三千ハ海軍兵ノ陸上ニアルモノヲ算ス)ノウオキエフスク軍團二萬三千ブラゴヘスチエンスクニ三千關東州ニ一萬護境兵ノ滿洲鐵道ニ散布セルモノ五千アリ此等ハ何レモ動員令發布ノ下ニ二週間以内ニ充分ノ準備ヲ完成シ得ヘク(關東州ハ二十四時内ニ)四乃至六週間ノ後ニハ西伯利亞軍管區ノ兵ヲ以テスレーテンスクニ一萬四千ヲ六乃至十四週ノ後ニハ三萬ヲ集中シ得ヘク又宣戰後第八週ノ初ヨリ第十週ノ終ニハ恐ラクハローレンブルグノ兵計一萬六千ノ到著スル者アルヘシ斯クテ滿洲ノ護境兵浦鹽斯德及ヒ關東州ノ戍兵ヲ除キ吾人ノ有スル野戰軍ハ二週日ノ後二萬六千六週日ノ後四萬十週ノ後五萬六千十四週日ノ後八萬六千ニ達スヘシ

兵力及ヒ準備完成期限ノ比較ニ關シテハ日本ハ一週日タケ吾人ヨリ先ヲ制スルモノト見サルヲ得ス乃チ陸兵ニ於テ日本ハ二週日ノ後我ヨリモ三倍タケ優勢ニ十四週日ノ後ニハ殆ト二倍タケ優勢ニ海軍ニ於テハ増援ノ到達ヲ待テスラ我ヨリモ著シク優勢ニアルヘシ此ノ如キ對照ト我カ陸海軍兵力ノ初期ニ於ル散在トニヨリ豫備ヲ集中スルマテハ勿論陸上ニ於テハ如何ナル攻撃的働作ニモ出ツル能ハサルコト明白ナリ海上ニ在テモ艦隊ノ現存ヲ以テ敵ノ上陸運動ヲ妨碍セントナラハ成ル可ク戰鬪ヲ避グルノ必要アルコトモ亦明白ナリ故ニ第一外交談判ヲ遷延セシメテ我カ艦隊ノ有利ナル出發地點ニ到著スル迄ニ戰爭開始ノ機ヲ後ラスコト第二陸上ニ於テ勢力ノ集中迄主力決戰ノ期ヲ後ラスコト必要ナルヲ見ル

戰鬪行爲ノ行ハルヘキ地方トシテハ韓國我カ南烏蘇利邊境滿洲ノ吉林及ヒ奉天兩省樺太ヲ除キ太平洋ノ沿岸及ヒ日本ノ總島嶼ナリトス日本ノ諸島嶼ハ我カ艦隊ノ比較的弱勢ナルヲ以テ單ニ牽制ノ目的物タルニ過キス我カ大洋沿岸ハ人口稀薄ニシテ且道路ナシ故ニ若シ之アリトスレハ黑龍江口ノ占領著シク人氣ニ關スノ外ハ敵ノ之ニ對スル運動ハ何等影響ヲ及スコトナシ隨テ爰ニハ平時ニ於ル守備兵ノ數ヲ其ノ儘ニ存在(一千)セシムルヲ要ス樺太ノ防禦ニ關シテハ我ニ何等ノ利益ヲ與フルコトナクシテ却テ我カ兵力ヲ減殺スルニ過キサレハ本島ハ裸體ノ儘ニ之ヲ放置ス可シ此ノ如クニシテ恐ラク起ルヘキ主戰働作ノ局面ハ正面ニ於テハ浦鹽ヨリ旅順ニ互ル一〇〇露里側面ニ於テハ馬山浦ヨリ伯都納ニ互ル一〇〇露里ニ互リ尙伯都納ヨリストレーテンスクニ互ル約一〇〇〇露里ハ此ノ以外ニアリ然レトモ斯ル廣大無邊ノ疆域ナルニモ拘ラス重要

ナル敵ノ揚陸働作ノ真ノ目的地トシテハ單ニ三箇アルノミ吾人ニシテ之ヲ亡ハンカ政略上ニ於テモ戰略上ニ於テモ其ノ最重要ナル打撃ヲ蒙リタルコトハナル三要點トハ他ナシ旅順浦鹽斯德竝ニ吉林及ヒ伯都納ノ兩市ヲ有スル滿洲ノ一省是ナリ前二者ハ關東州ト南烏蘇利邊境ヲ領有スル據點トナリ後者ハ軍隊營養ノ泉源地(其ノ一部ハ沿海州住民ニ對シテモ)即チ戰局面ニ於ル總作戦ノ策源トナルナリ戰爭初期ニ際シ延長セル我カ正面(浦鹽ヨリスレーテン)ニ到ルヲ此ノ邊境ニ於ル陸上道路ト河川水路トノ聯結ニヨリ短縮セント欲セハ勢ヒ軍隊ヲ二箇ノ集團トナシ吉林及ヒ浦鹽斯德カ若クハ全部浦鹽斯德ニ集中スルコトハナルヘシ蓋關東州ノ防禦ハ同地方ノ餘リニ遠隔セルト其ノ突出セル地形トニ由リ之ヲ全然豫メ配置セル守備兵ニ一任セサルヘカラサルカ故ナリ之ヲ浦鹽斯德ニ集中スルトキハ南烏蘇利邊境ヲ滿足ニ防禦シ得テ勢力ノ分散ヲ拒グニ足ルモ尙左ノ不利ヲ免レス即チ第一滿洲一帯ヲ掩護スル能ハサル代リニ隨テ同地方ヨリ軍需品ノ供給ヲ仰ク能ハサルコトハナル第二根據地ハ單ニ浦鹽斯德ノ一點トナリ第三總豫備ノ到著前ニノウオキエフスク軍團ヲ攻撃的働作ニ動ストキハ勢力ノ分散トナリ第四重大ナル不利ト稱スルハシルカ河及ヒ黑龍江ニ於テ處々長程ニ互リ淺水アルカ爲メ増援軍隊ノ輸送ハ甚メ不安ノモノトナリ實際到著ノ大約期日ヲスラ豫算スル能ハサルコトハナリ中ニモシルカ河水運ヲ利用シ輸送力ノ増加ヲ圖ルハ漸ク五月一日ニ入リテノコトナリ之ニ反シ吉林ニ豫備部隊ヲ集中スルトキハ中央滿洲ト西伯利亞鐵道ニ最捷ノ道路ヲ掩護スルヲ得テノウオキエフスク軍團カ道路ノ開通ニ從ヒ如何ノ方向ヲ執リ攻撃働作ニ出ツルモ一般勢力ノ集中ニ違フトコロ無シ此ノ如ク

兵站地ニ展開ヲ執ルニ於テハ初期ノ正面一五〇〇露里ハ三三〇露里吉林ノウオキエフスグマ  
 テニ短縮セラルヘシテ沿黒龍軍管區ノ豫備隊ヲ集中セントナラハ主戰働作ノ行ハルヘキ地  
 ニ對シ有利ニシテ安全ノ出發點ヲ撰ミ以テ優勢ナル増援ノ役合ヲ待ツヘキナリ  
 此ノ目的ニ最適合シタルハ附錄北韓ノ紀要ニ就テ見ルカ如ク同國ノ中央區域ナリトス  
 第一北韓ノ中央區域ハ朝鮮海灣側ヨリスルモ或ハ黃海岸ヨリスルモ總テ半島ノ側ヨリスルモ  
 ニ對シ中央滿洲ヲ掩護スルニ足リ第二半島ノ中心ヨリ北向スル敵ノ攻撃方位ニ對シテモ前記兩  
 灣ヨリ浦鹽斯德ニ向フモ關東州ニ向フモノニ對シテモ其ノ側面ヲ脅スコト、ナリ第三吉林ニ集  
 中スル交通線ハ全ク安全トナリ第四浦鹽ニ通スル舊交通線ヲ保全スルトキハ作戰ニ大ナル自由  
 ヲ與ヘ第五關東州ニ向フ敵ノ進軍ニ對シテハ之ヲ扼スルニ鴨綠江ノ水路ヲ利用シ得ヘシ尙最後  
 ニ此ノ北韓ノ中央區域ハ沿海山脈ト清川江及ヒ大同江ノ上流間ニ綿亘スル山脈ニヨリ圍繞セラ  
 ル、ヲ以テ一旦爰ニ都合克ク集中ヲ遂ケタル曉ニハ更ニ進ンテ攻撃働作ニ移ルタメ充分安全ナ  
 ル兵站線ヲ建設シ得ヘシ此ノ最後ノ條件ニ示ス戰略的展開ヲ遂ケタル後ハ三三〇露里ノ正面ハ  
 五〇一八〇露里(江界長津間)ニ短縮セラレ兩翼ニハ堡壘ヲ築キ八萬五千ヨリ成ル野戰軍團ハ其ノ  
 樞軸ニ位置スルヲ得ヘシ  
 却說海上ノ働作ハ如何ト云フニ黃海ノ海面ハ山東半島ヨリ巨濟島ニ連ル自然ノ地勢ニヨリ著シ  
 ク其ノ廣袤ヲ狹窄セラル是ヲ以テ日本艦隊ハ單ニ其ノ通報艦一隻ヲ旅順港口ニ配スルノミニテ  
 モ己レ朝鮮海峽ニ駐リナカラ克ク我カ旅順艦隊ノ南下ヲ扼シ得ヘシサレハ此ノ方面ニ於ル我カ

艦隊ハ日本海方向カ若クハ日本群島ニ對シ或働作ヲナスニアラサレハ到底制海權ヲ制スル能ハ  
 ス又増援艦隊ト無難ニ合同ノコトモ覺東ナシ浦鹽斯德ハ東西二箇ノ水道ヲ有シ敵ノ封鎖ヲ困難  
 ナラシムルト津輕海峽ト宗谷海峽ノ存在ヲ思ヘハ我カ艦隊ニ取リテハ第一來航スヘキ増援艦隊  
 ト合同ノ見込アリ第二日本沿岸ニ牽制運動ヲ試ムルヲ得ヘク第三最必要ノ條件ハ戰鬪ヲ避ケテ  
 日本海ノ海權ヲ以テ彼我ノ爭奪ニ附シ未タ何レニモ專屬セシメサルニ在リ  
 前陳ノ如クナルヲ以テ恐ラク決戰ノ以前ニ達セラルヘキ目的トシテハ第一陸軍ノ總野戰軍ヲ北  
 韓ノ中央區域ニ集中スルコト第二日本海ニ現存艦隊ヲ維持スルコト之ナリ  
 然ルニ朝鮮海灣及ヒ朝鮮東部ノ沿岸ヨリ吉林ニ達スル距離ハ吉林ヨリスレチエンスクニ達ス  
 ルモノニ比シ甚シク短少ナルヲ以テ前記第一ノ目的ヲ達センニハ務メテ此ノ沿岸ヨリスル敵ノ  
 進軍ヲ阻碍スルコト極テ必要ナリ之カ爲メノウオキエフスク軍團ト艦隊トハ相協同シテ東ノ方  
 面ヨリ之ニ當リ開戰前旅順ニ集中セル水雷艦艇隊ハ西ノ方面ヨリ之ニ當ラサルヘカラス  
 敵ノ企畫スル所如何

日本ハ浦鹽斯德ニ向ヒ進ミ來ル可シ我ニシテ浦鹽斯德ヲ亡ハンカ我カ艦隊ニ對シテノ策源地モ  
 陸軍ノ前進根據地ヲモ併セ亡フコト、ナリ斯クテ破レタル我カ軍ヲ北方ニ追窮スルニ於テハサ  
 ナキタニ延長セル正面ヲ一層長カラシメ我ハ滿洲ニ入ルノ捷路ヲ奪ハル、コト、ナルナリ是ニ  
 於テカ日本軍ノ利トスル所ハ第一將來ノ運動ニ對シ間斷ナキ海上輸送ヲ利用シ安全ナル策源地  
 ヲ獲得シ尙該策源地タルヤ日本々島ノ兩端ヨリ同一距離ニアリ第二日本海上ニ鞏固ナル制海權

ヲ得ルコト、ナリ浦鹽斯德ニハ一萬ノ要塞兵ト二萬三千ノ一軍團ヲ駐メテ安全ニ之ヲ維持シ得ヘキナリ日本軍ニシテ自己ノ目的ヲ成功セントナラハ七萬五千ヲ超エサルノ兵ヲ以テ之ヲ遂行シ得ヘシ試ニ日本カ有スル輸送力ノ最大限度ヲ見積リ二萬五千噸トスレハ此ノ兵數ヲ輸送センニハ一回ノ往復ニハ約六日ヲ要スト見積リ三回ノ大輸送ヲ以テ事足ル第一第二梯團揚陸ノ地點ハ尙我カ兵數ノ優勢ナルヲ以テ浦鹽斯德ヨリ六晝夜行程ヨリ少カラサル地點ニ於テシ又揚陸ヲ行フニ於テモ艦隊ノ脅迫ヲ受ケサルノ間ニ遂ケラレサル可カラサテ敵ノ此ノ揚陸ニ對シ最有効ノ抵抗ヲナスヘキハ我カ艦隊ノ任務ナリ我カ艦隊ニシテ現存スル以上ハ日本海ニ於テ行動ノ自由ヲ有スルヲ以テ揚陸ヲ行フコトハ困難ナリ若シ又敵ニシテ揚陸ヲ遂ケタランニハ敵ヲシテ二箇正面ヲ以テ我ト戦ハシムル如ク仕向クルヲ要ス斯クテ南島蘇利邊境ヲ保護シ以テ敵カ此ノ地方ノ軍需品ヲ利用スルヲ拒クヘシ

浦鹽斯德ノ陸上防備ハ堅固ニシテ到底突撃ニヨリ之ヲ陷落セシムルコト能ハス然レトモ克ク之ヲ守ランニハノウオキエフスグ軍團ヲシテ行動ノ自由ヲ保存シ絶エス敵ヲ威嚇スル如ク守備兵ト協同ノ働作ヲ執ラシムルコトヲ要ス敵ノ撰定スル揚陸地點ハ決シテ亞米利加灣或ハボシエツト灣ヨリ内方ニハアラサルヘシ敵若シ前者ニ於テ揚陸センカ敵ハ行軍至難ノ地域ニ陥ルヘキモノトス浦鹽斯德ヨリハキロフスグニ達スル道路ヨリハ遙ノ距離ニアリ之ニ反シ後者ニ於テセンカ珥春ヲ經テ滿洲ニ入ルノ我カ最捷路ヲ扼シ敵ハ良好ノ港灣ト鐵道線路ニ到ル最捷路トヲ占有スルコト、ナル

斯ル想定ニヨリ之ニ應スヘキ最良ノ策トシテハノウオキエフスグ軍團ヲ何レカボシエツト灣ノ附近ニ配シ敵ノ揚陸ニ對シ其ノ正面ヲ撃ツノ位置ヲ執ラシメ若シ又亞米利加灣ニ於テスル場合ニハ其ノ浦鹽若クハ鐵道線路ニ向ヒ進撃スルノ時ニ當リ敵ノ側面ヲ撃ツノ位置ニ配置スルニアリ故ニ第一ノ想定ニ對シ之ニ處スル我カ戰策ハ第一主力艦隊ヲ日本海ニ行動セシムルコト第二浦鹽斯德ノ守備ヲ衛戍兵ニ一任スルコト第三ノウオキエフスグ軍團ヲボシエツト市ヨリ遠カラサル距離ニ駐屯セシムルコトナリ

第二ノ想定 日本カ旅順ニ向ヒ行動スルヲ見タルトキ

我ニシテ旅順口ヲ亡ヒタルトキハ我カ外交上ノ妖術ヲ算スルノ上ニ大打撃ヲ受ケタルモノト謂フ可シ乃チ我カ兵力ヲ失フコト一萬ニシテ又南方ヨリ滿洲ニ入ルノ門戸ヲ開クコト、ナル日本ハ斯クテ滿洲ノ門戸ヲ開キ得ルモ此ヲ遂行センニハ一定ノ時日ヲ要シ又他ノ方面ヨリ兵力ノ幾分ヲ減セサルヲ得ス

斯ル企畫ニ對シテハ三萬乃至四萬ノ兵ヲ要シ揚陸最適ノ地點トシテハ地峽附近ニアル港灣ノ一ナルヘシ爰ニハ遼東半島ノ總衛戍兵ノ數ヲ合スルモ日本ノ輸送一梯團ヨリモ劣レルヲ以テ揚陸ノ業難シトセス

之ニ對スル我カ抵抗ノ策ハ敵ヲシテ地頭以南ニ揚陸セシメサルニアリ之ニハ旅順ニ據ル水雷艇隊ヲシテ當ラシムヘシ此ノ以上ノ行動ハ務メテ日本軍ノ大勢力ヲ此ノ方面ニ誘引シ以テ持久ノ防禦策ヲ講スルニアリ

我カ艦隊ヲシテ日本ノ沿岸及ヒ濠洲及ヒ亞米利加ヨリスル軍需品ノ輸送ノ航路等ニ對シ威嚇ヲ行ハシムルモ亦可ナリ我カ艦隊ヲ黃海ニ集中スルノ策ハ宜シカラス何トナレハ日本艦隊ニ取リ之ヲ封鎖スルハ極テ容易ニシテ事爰ニ到リテハ日本軍ハ日本海方面ニ何等掣肘セラル、コトナク陸軍ノ勢力ハ集中ノ遂ケラル、ヤ否ヤ迅速輸送ノ途ニ上リ得レハナリ但旅順ニ對スル行動ハ其ノ效果ノ顯著ナラサルカ爲メ敵カ或他ニ牽制ノ目的ヲ有シ之ト關聯シテ行動スルノトキニアラサレハ之ヲ見ルコトナカラシムル是旅順ノ運命ハ自然ト終局ノ勝利ヲ占ムル者ノ手ニ落ツヘキコト明白ナレハナリ

第三想定 滿洲ノ攻撃

吾人ニシテ滿洲ヲ亡ハシカ吾人ハ軍需品調達ノ泉源地ト全露西亞ヨリ浦鹽竝ニ旅順ニ達スル最捷路ヲ亡ヒ吾人ノ薄弱ナル戰略正面ハ中央ニ於テ切斷セラレ我カ勢力ノ集中ハ單ニ遼遠ナル北方ニ止ルヘシ

日本軍ハ準備整頓セル軍需品調達ノ策源地ヲ占有シ我カ増援部隊ニ對シ中樞ノ位置ニ立ツコトトナル

此ノ働作ヲ遂行スル爲メ日本軍ハ或ハ朝鮮海灣カ或ハ大同江口カ或ハ半島ノ南端ニ揚陸ヲ試ムヘシ

日本軍カ朝鮮海灣ヨリ上陸スル場合ニ於テ其ノ第一梯團ノ前進部隊カ吉林ニ達センニハ陸上行軍速度ヲ一週百露里ノ割合トシ其ノ他乗船海上航行及ヒ揚陸等ニ三晝夜ト動員ニ一週間ト總

計七週ヲ要ス可シ此ノ間ニハ我カ東部西伯利亞ノ豫備隊ノ前進部隊及ヒ二萬五千ヨリ成ルノウオキエフスク部隊モ吉林ニ到着シ得ヘシ

故ニ此ノ運動ヲ都合克ク行ハンニハ日本軍ニハ少クトモ三個梯團トシテ輸送スルコトヲ要シ之カ海上輸送ニ三週乃至四週ヲ増スコト、ナル

大同江口ヨリスル場合ニハ其ノ第一梯團ノ前進部隊カ吉林ニ達センニハ八週間ヲ要シ又關東半島ノ南端ニ於テスル場合ニハ函館ノ遠隔セルヲメ此ノ上尙四一五週間ヲ要スヘシ

以上總計十二週乃至十三週間ニハ我ニハ約三萬五千ヲ有スルニ到ル可シ

日本軍ノ揚陸ニ最困難ヲ感スヘキハ淺堆多ク且潮高ノ差著シキ黃海ノ側ニ於テスルコトナリ故ニ此ノ原因ヨリスルカ或ハ他ニ原因アリテ釜山及ヒ馬山浦ヨリ上陸シ其ヨリ京城ヲ經テ吉林ニ向フモノトスレハ自己ノ第一梯團ノ前進部隊ノ吉林ニ達スルニハ十一週乃至十二週ヲ要シ之ニ先キノ計算ヲ加フレハ總計十六週トナリ斯クテ我ハ四一五週間ヲ利スルコト、ナル此ノ間ニハ我カ東部西伯利亞ノ兵力ハ投合セルノウオキエフスク軍團ヲ合シ四萬ニ達ス可シ

此ノ如キ兵力ト時日トノ關係ニ就テ見ルトキハ須ク吾人ノ執ル可キ策ハ一意日本軍上陸ノ開始ヲ遷延セシムルニ在ルコト明白ナリ

日本軍ニ取リ最揚陸ニ適セル地點ハ元山ナリ同港ハ浦鹽ヨリモ馬關海峽ノ西口ヨリモ均等ノ距離ニアリサレハ浦鹽ヲ根據トスル水雷艦艇ヲ以テ之ニ當ラシムルコト困難ナリ之ニ反シ平壤ニ對シテハ此等艦艇ノ淺喫水ト旅順口ノ近接セル故トニヨリ充分之ニ當ラシムルノ餘地アリ

日本軍ニシテ日本海ニ揚陸ヲ試ミントセハ少クトモ一部ノ制海權ヲ掌握スルヲ要ス故ニ以上三種ノ動作ニ備ヘンニハ我カ艦隊ヲ左ノ如ク配置セサル可カラス第一主力艦隊ヲ日本海ニ置クコト第二速力遲キ艦ヲ朝鮮海灣ノ一港ニ止ムルコト第三水雷艦艇ヲ旅順口ニ備フルコトナリ我カ陸軍ノナスヘキ抵抗ハ成ル可ク永ク日本軍ノ滿洲進入ヲ阻碍スルニ在リ故ニ個々ニ撃散セフレサル様豫メ決戦ヲ避ク可シ此ノ問題ヲ遂行センニハノウオキエフスク軍團ヲ南方長津江ニ前進セシメ此ノ前營ヲ新浦ニ置ク可シ

然ルニ日本軍ハ兩方面ニ互リ同時ニ作戰シ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ兵數ノ如何ニ拘ラス我カ兩翼ヲ攻撃譯者曰ク浦鹽及ヒ旅順ヲ同時ニ攻撃スルヲ云フスルカ或ハ兩翼ノ一殊ニ旅順ヲ攻撃シナカラ大同江口或ハ元山ニ揚陸ヲ試ミルヘシ然レトモ事爰ニ出ツルニ於テハ各海面ニ於ル總テノ働作ハ統一スルニ到ラス

我カ艦隊トノ關係上以上列舉セル敵ノ何レノ動作ニ對シテモ吾人ノ之ニ應スヘキ策ハ左ノ如シ

主力艦隊ヲ日本海ニ置ク

水雷艦艇ハ之ヲ旅順ニ配置ス

航續距離僅ナル軍艦ハ之ヲ朝鮮海灣内ノ一澳ニ駐メ浦鹽斯德ト電信聯絡ヲ保タシム

陸軍兵力ノ集中點ヲ吉林ト定ム

但吉林ハ或ハ我カ勢力ノ薄弱ニ乘シ日本軍ノ包圍スル所トナルノ虞アレハ五家店譯者曰ク哈爾濱ノコトナリニ撰定スルヲ良トスノウオキエフスク軍團ハ作戰ノ初期ニ於テ二種ノ役務ヲ有ス

即チ一ハ浦鹽斯德ノ防禦ト一ハ日本軍ノ取ラントスル道路ヲ壓迫センカタメ中樞ノ位置ヲ占領セサル可カラサルコト、是ナリ此ノ如キ位置ハ滿洲ト南烏蘇利邊境ヲ結合スル道路ニ在テブレレン市ヲ以テ目的ニ副ヒタルモノトナシ爰ヨリ成ル可ク南方ニ偵察隊ヲ放ツ可シ

牽制 牽制運動ヲ爲スニハ由來主戰艦隊ニ編入スル能ハサル艦船ノミヲ以テ其ノ艦隊ヲ編成スルノ趣意ニ基キ歐露ヨリ回航スル艦船ヲ利用ス可シ而テ之カ目的トシテハ臺灣ニ武器ト煽動者トヲ輸入シ又ハ亞米利加ヨリ日本ニ向フ貨物及ヒ需品輸送ノ航路ヲ脅スニ在リ

二十三週ノ終ニ到レハ吾人ハ滿洲ニ六萬ノ兵ヲ集中シ得ヘク尙事情ニ據リテハ滿洲竝ニ韓國ノ西北ニ互リ二萬五千ヨリ成ルノウオキエフスク軍團ノ到達スルアリ海軍ニ於テモ歐露ヨリ或任務ニ服セシムルニ足ルノ總艦艇モ到着スルニ到ル可シ之ニ反シ日本艦隊ハ浦鹽斯德ノ封鎖ヲ嚴密ニ行フニ當テハ我カ艦隊ノ最劣ノ狀況ニ於テスルモ我ニ比シ甚シク疲痲ノ状態ニ陥ルヘシ(實驗ニヨレハ永ク封鎖ニ從事スル艦艇ハ速力ヲ減スルモノナリ)乃チ吾人ノ攻撃開始ノ秋トハナルナリ概シテ我ノ此ノ攻撃運動ハ旅順トノ交通ヲ獲取スルコトニ歸シ尙充分ノ集中ヲ見ルニ及ンテハ此ノ必要ヲ減セサルニ到ル可シ之カタメ浦鹽斯德ヲ樞軸トシ右肩ヲ動シ動作スルコトハナル可シ要スルニ此ノ際ニ我カ戰略上ノ狀況ハ左ノ如ク言明スルヲ得即チ八萬五千ノ兵ヲ五十路里ノ正面ニ配シ約百八十路里ニ展開セル三條ノ退却道路之ニ通ス兩翼ノ根據地ハ砲臺ヲ以テ固メ其ノ一ハ鐵道ニヨリ他ノ一ハ水路ニヨリ各兵站基地ト連絡ヲ有シ左翼ニハ又艦隊ヲ集中スルニ在リ此ノ以後ニ到リ行動ノ發端ヲ我カ手ニ掌握スルニ於テハ左翼ヲ以テ之ニ當ラシム



ルコト即ち艦隊ニ原動ノ動作ヲナサシムルコトヲ以テ有望ナリトス是日本陸軍ヲシテ其ノ策源地トノ交通ヲ困難ナラシムルト我ニ取リテハ正面ヲ著シク短縮スルコト、ナルヘシ此ノ行動ハ左肩ヲ動シ動作スルノ看トナリ此ノ時ニ於ル輻軸ハ旅順トナル

日本海ニ於ル艦隊ノ攻撃運動ニシテ成功セハ最早全戦役ヲ通シ海軍ノ効能ヲ完結シタルモノト謂フ可ク此ノ以後ノ重心ハ陸軍ニ傾ク可シ

若シ我カ海軍ニシテ確乎タル制海權ヲ握ランカ我カ野戦軍ハ交通線ノ保護ニ當タラシムル數タケ増加セラルヘシ即チ滿洲線ノ保護ヨリ三千旅順ノ衛戍ヨリ六千浦鹽ヨリ三千計一萬二千ヲ加フルコトヲ得テ我カ兵力ハ九萬七千ニ達ス可シ

○附錄第八 露國側ノ執リタル戰略ニシテ作業日誌ニ登錄セラレタルモノ

一、目的 終局ノ目的ハ日本軍ヲ大陸ヨリ撃退スルニ在リ

二、方法 前記ノ目的ヲ達センニハ單ニ陸軍々隊ノ力ニヨル雙方陸軍軍隊ノ衝突ノ初期ニ於テハ日本陸軍ノ勢力ハ露國ノモノヨリ優勢ヲ保ツト雖モ四箇月半ノ後ニハ此ノ優勢ハ露國ニ移ル可シ

日本カ日本海ノ制海權ヲ獲ル間ハ前記ノ期限ハ是ヨリモ延引ス可ク隨テ優勢ノ程度モ著シカラス

露國カ日本海ノ制海權ヲ得ルトキハ前記ノ期限ハ短縮セラル可ク隨テ露國ノ優勢ハ陸軍部隊

ノ少數ヲ以テシテモ得ラル、コト、ナリ隨テ海軍ノ任務ハ補助的トナル

三、艦隊ノ勢力 露國カ日本海ノ制海權ヲ獲ルハ初期ニ於テハ勢力薄弱ナルカ爲メ不可能ナリ然レトモ増援ノ到達ト共ニ之ヲ獲ルニ到ルヘシ

四、根據地 海軍作戰方面ヲ決定シ根據地ヲ選擇スルカ如キハ早計ニ失ス何トナレハ此等ノ戰策ハ全ク戰役ノ初期ニ於テハ敵ノ執レル攻撃戰略ニ應シテ定ム可キモノナレハナリ

海軍ノ假根據地ヲゾンド群島トシ陸軍ノモノヲ——ト定ム

五、初期 初期ニ於テハ露國ハ自己ノ艦隊ヲ保存セント努メ艦隊及ヒ陸軍ヲシテ歐露ヨリノ豫備部隊ト投合セシムルタメ防禦的動作ニ出テサル可カラス

此ノ時期ノ間ニ於ル陸軍ノ任務

(一) 成ルヘク大陸ニ根據地ヲ占領セントスル日本ノ動作ヲ妨害スヘシ之ニハ二要塞譯者曰ク旅順浦鹽ヲ云フ援護ノ下ニ艦隊ヲ分配シ協同セシムヘシ

(二) 日本ヲシテ上滿洲ヲ占領セシムヘカラス是滿洲ノ南北ニ配セラレタル軍隊ニ對シ軍需品調達ノ地トナルカ故ナリ(吉林)

六、第二期 露國ニシテ攻撃動作ニ移ラント欲セハ日本海ノ海上權ヲ獲得セサルヘカラス乃チ之ヲ艦隊ニ俟タサルヘカラス次テ海上權ヲ獲得シタル後ハ陸軍ノ動作ハ著シク自由トナリ隨テ其ノ集中モ亦迅速トナルヘシ

若シ不幸ニシテ日本海ノ海上權ヲ獲得スル能ハストスルモ前項ノ目的ヲ達センコトハ依然ト

シテ變スルコトナシ  
但此ノ場合ニ於テハ著シク事業ノ困難ヲ見ルコト、ナリ歐露ヨリ呼ビ出スヘキ陸軍ノ兵力モ亦著シク増加スヘケレトモ結局戰役ノ期ヲ長カラシメ日本ヲシテ遂ニ軍費ヲ持續スル能ハサラシムルニ到ラン

七結論 前記ノ結果ヲ綜合シ觀察スルトキ左ノ結論ニ歸ス

- (イ) 歐露ヨリ回航スル増援艦隊ノ合同ヲ慮リ日本海ニハ艦隊ノ主力ヲ置カサルコト
- (ロ) 豫備トシテ黑海艦隊ノ一部ヲ東洋ニ出航セシムルコト
- (ハ) 旅順及ヒ浦鹽斯德ノ防禦ハ之ヲ陸軍ニ一任ス但西港ヨリ海上ノ急襲ヲ行ヒ務メテ日本艦隊及ヒ其ノ揚陸運動敵國海岸等ヲ脅スコトアルヘシ
- (ニ) 増援艦隊ノ回航ヲ待ツ間ニモ事情ノ許ス限リハ攻撃動作ニ移ルヘシ
- (ホ) 急ニ西部西伯利亞及ヒ歐露ノ陸軍部隊ヲ東邊境ニ向ヒ輸送スヘシ
- 八實行 前記ノ諸計畫ヲ實行センニハ主トシテ左ノ處置ヲ執ルコトヲ要ス
  - (イ) 總艦隊ヲ艦隊及ヒ小隊ニ區分編成シ陸軍ニ在テハ獨立軍團及ヒ要塞兵ヲ編成シ各指揮官ヲ任命シ統率ノ系統ヲ明ニスルコト
  - (ロ) 諸指揮官ニ命令ヲ與フルコト
  - (ハ) 義勇艦隊汽船ヲ海軍ノ管轄ニ移シ貿易航業會社シエウエレフ會社伯爾ケイゼリング會社及ヒ其ノ他私人ノ所有ニ係ル必要ノ船舶ヲ徵發スルコト

- (ニ) 諸艦艇ニ搭載セル額以外ニ三箇月分ノ準備石炭一五〇、〇〇〇噸ヲ調達スルコト
  - (ホ) 通信員名簿ヲ作り此等通信員ヲ清國韓國比律賓及ヒゾンド群島等ニ派出スルコト
  - (ヘ) 各指揮官間竝ニ各指揮官ト政府及ヒ派出通信員トノ間ニ用フル秘密暗號書ヲ調製スルコト
  - (ト) 宣戰布告ト同時戰時禁制品戰鬪行為ノ行ハルヘキ區域若クハ此ノ附近ニ在ル中立國艦船ニ關スル規定負傷者病者及ヒ溺者ノ救助ニ從事スル船舶ニシユ子ブ條約ヲ應用スル等ノ規定ヲ定メ列國ニ通告スルコト
- 右ノ宣言ヲナスニ於テ寄航ヲ禁止スル露國ノ港灣及ヒ戰鬪行為ノ爲メ通航ヲ禁止スル區域ヲ示スコト

○附錄第九 戰策ノ實行ニ關シ露國總司令官及ヒ其ノ幕僚ノ執リタル處置

命令第一號 一九〇〇年三月一日 於浦鹽斯德

- 一、茲ニ本日ヲ以テ余ニ委子ラレタル陸海軍ノ總司令官ニ就職セル旨ヲ告ケ自今公務ニ關スル諸般ノ交渉ハ本職ニ向ケ呈出スヘキヲ命ス
- 二、小隊艦隊獨立軍團要塞諸兵ノ編成各指揮官及ヒ其ノ幕僚ノ氏名ハ別紙附錄ノ如シ
- 三、余ハ追テ何分ノ通報アル迄ハニコリスク、ウスリースキーニ在リ諸般報告ハ同地ヘ向ケ呈出スヘシ
- 四、日本海ニ配セル巡洋艦小隊ハ本職ニ直屬ス

五、浦鹽斯德要塞司令官ハ亞米利加灣ヨリボシエツト灣ニ互ル伯德大帝海灣一帯ノ沿岸防禦ヲ掌リ同シク本職ニ直屬ス

六、毎日正午本職幕僚ニ宛テ左ノ諸項ヲ電報スヘシ

(一) 部隊ノ現状

(二) 工事進捗ノ程度

(三) 敵情ニ關スル牒報

宛先ノウオキエフスク及ヒ滿洲軍團長先任海軍將官<sup>出港</sup>マテ旅順要塞司令官<sup>不在ノトキハ</sup>關東州長<sup>關東州長</sup>宣

命令第一號附録

艦隊ノ編制

先任海軍將官艦隊司令長官海軍中將E

次席海軍將官艦隊參謀長兼第一小隊司令官海軍少將P<sub>2</sub>

第一小隊

戰艦 「ベトニパウロウスク」

同 「シツイ、ウエリーキー」

同 「ナワリン」

艦隊附屬義勇艦隊汽船「ヘルソン」(武装ス)

同 「モスクワ」(武装ス)

同 「サライトフ」(武装ノ上本隊ニ合ス)

同 「キーエブ」(武装ス)

豫備小隊

司令官 先任艦長海軍大佐R

戰艦 「ホルダーワ」

同 「セワストーポリ」

巡洋艦 「ワリヤード」

黒海小隊

司令官 海軍少將エ

戰艦 「ツリースワチーチェリヤ」

同 「ドウエナツアチアポストロフ」

同 「ロスチスロフ」(石炭燃料ヲ用フ一譯者曰ク本艦ハ常ニ石油燃料ヲ用フ改造シタル上ナリ)

義勇艦隊汽船 「タムボフ」

地中海小隊

司令官 海軍大佐D<sub>2</sub>

一等巡洋艦 「アドミラルコロニコフ」

水雷巡洋艦 「アブリヨーク」  
 驅逐艦 「ウヌシューテリヌイ」  
 同 「ウラースツヌイ」  
 同 「グロゾウオイ」  
 水雷艇 一一九號及ヒ一二〇號  
 日本海巡洋艦小隊  
 司令官 海軍少將k(浦鹽斯德軍港司令官ヲ兼ヌ)  
 一等巡洋艦 「ロシーヤ」  
 同 「リユーリク」  
 同 「アドミラルナヒーモフ」  
 砲艦 「ボープル」  
 同 「レウーチ」  
 同 「コリーニツル」  
 水雷艇五隻 第二〇一號 第二〇二號 第二〇五號  
 義勇艦隊汽船 「ベテルブルグ」武装ス  
 同 「ハマロフスク」  
 同 「エカチエリノスラフ」

汽船 「ナデージヌヌイ」  
 同 「アレウツ」

其ノ他西伯利亞海軍團附屬艦船

「シエウエリヨフ」會社汽船五隻  
 伯爵「ケイセリシグ」會社汽船二隻  
 義勇艦隊汽船 「ニーヂニール」ウゴロツド(回航ノ筈)  
 水雷艇七隻 九一號 九二號 九三號 九四號  
 九五號 九七號 九八號  
 黄海ニ於ル巡洋艦小隊  
 司令官 海軍少將D(旅順軍港司令官ヲ兼ヌ)  
 巡洋艦 「ドミトリードンスコイ」  
 同 「ウラチーミルモノマーフ」  
 砲艦 「グレミヤールンチー」  
 同 「アツワーシヌイ」  
 同 「マンヂウール」  
 水雷巡洋艦 「ガイダマーク」  
 同 「フサードニク」  
 水雷艇六隻 第二〇三號 第二〇四號 第二〇八號  
 第二〇九號 第二一〇號 第二一一號

義勇艦隊汽船 「ウラヂーミル」  
 同 「ウオロー子ジ」  
 滿洲鐵道會社汽船一隻  
 巡洋艦 「ラズボイニク」  
 同 「ザビヤールカ」  
 單獨ニ航行スルモノ  
 砲 艦 「ギリヤーク」  
 本職ノ幕僚  
 陸軍  
 參謀長 陸軍中將 Z  
 管理部長 侍中將官 K  
 海軍參謀  
 副官 ?  
 ノウオキエフスク軍團  
 軍團ノ編制  
 八大隊  
 砲十六門 第一病院  
 二隊  
 砲十六門 第二病院  
 一隊  
 五大隊  
 砲十六門 第三病院  
 一隊  
 六中隊  
 六隊  
 六吋白砲十二門  
 山砲十六門  
 騎砲六門  
 二中隊  
 海軍工兵一中隊  
 電信隊一中隊  
 海軍  
 海軍中將 P  
 軍團長陸軍中將 N

哥薩克百人隊 二隊  
 狙撃旅團二 八大隊  
 徒歩砲兵二大隊 砲十六門 第二病院  
 哥薩克百人隊 一隊  
 戰列旅團一 五大隊  
 徒歩砲兵二大隊 砲十六門 第三病院  
 哥薩克百人隊 一隊  
 騎兵旅團 六中隊  
 同 百人隊 六隊  
 砲兵 六吋白砲十二門  
 同 山砲十六門  
 同 騎砲六門  
 工兵 二中隊  
 同 海軍工兵一中隊  
 同 電信隊一中隊  
 總計  
 二十一大隊

四中隊  
 野砲六十四門  
 騎兵六中隊  
 百人隊十  
 騎砲六門  
 臼砲十二門  
 病院(第一第二第三ヲ除ク)  
 第四及ヒ第一〇四馬匹ヲ有セスハ幕僚直轄  
 第一〇一  
 第一〇二 (馬匹ヲ有セス)  
 第一〇三  
 綑帶所  
 第一擔架隊  
 第二擔架隊  
 衛生隊  
 野戰  
 中部  
 ノウオキエフスクニ置ク  
 ホシエットニ置ク  
 ニコリスクニ置ク  
 スラワヤンスクニ置ク  
 同上  
 ニコリスクニ置ク  
 ホシエットニ置ク  
 ハミロフスクニ置ク

後方  
 旅順要塞  
 歩兵  
 騎兵  
 砲兵  
 工兵  
 要塞砲兵  
 滿洲鐵道守備兵  
 ホシエット要塞  
 歩兵  
 要塞砲兵  
 工兵  
 假設砲臺  
 浦鹽斯德要塞  
 戰列歩兵  
 要塞歩兵  
 要塞砲兵  
 狙撃大隊 八  
 百人隊 六  
 徒歩砲 十六門  
 一中隊  
 五中隊  
 五中隊及ヒ百人隊九  
 一大隊  
 一隊  
 水雷中隊一  
 二(砲八門乃至十門)  
 二大隊  
 五大隊  
 六中隊

- 工兵
- 同
- 騎兵
- 海岸砲臺
- 海堡(譯者曰ク島ニ在ルモノヲ云フカ)
- 滿洲軍團
- 軍團ノ編制
- 一、黒龍枝隊
- 步兵二大隊
- 徒歩砲兵二大隊
- 騎兵百人隊九
- 二、後貝加爾枝隊
- 步兵八大隊
- 哥薩克徒歩砲兵四大隊
- 徒歩砲兵二大隊
- 哥薩克騎兵聯隊三
- 騎砲兵二大隊
- 一、中隊
- 水雷中隊一
- 百人隊二
- 五、大口徑砲八〇—一〇〇門
- 軍團長騎兵大將男爵K

- 三、西伯利亞枝隊
- 步兵豫備聯隊六
- 徒歩砲兵八大隊
- 哥薩克騎兵聯隊七
- 以上總計
- 三十八大隊
- 砲九十六門
- 騎兵百人隊
- 六十九
- 騎砲
- 十二門

電報

命令第二號 三月一日 浦羅斯德發電

在リバー豫備艦戰隊司令官へ

貴官ハ戰艦「ボルターワ」及ヒ「セリストーポリ」ヲ率井太平洋艦隊ニ合スル目的ヲ以テ回航スヘシ

第一回ノ載炭港ヲアルジールト定ム若シ能ク可クシハ巡洋艦「ワリヤーグ」モ其ノ隊ニ合スル筈ナ

リアルジール出港ノ後ハ速力十三節ト定メ航行スヘシ

第二回ノ載炭ハ紅海ニ於テ貿易航業會社汽船ヨリスヘシ此等汽船ニハ集合點ヲ指示シ其ノ旨通

シ置キタリ

紅海ニ於テハ巡洋艦「ナヒーモフ」アブリョーク「水雷艇第一一九號第一二〇號及ヒ驅逐艦三隻其ノ

隊ニ合スル管ナリ貴官ハ此等ヲ率井テ航行ヲ續クヘシ  
命令第三號 三月一日 浦鹽發電

在ビレー巡洋艦アドミラルナヒーモフ艦長ヘ

貴官ハ本信ヲ受領次第直ニ石炭ヲ滿載シ巡洋艦アブリヨーク及ヒ水雷艇第一一九號第一二〇號  
ヲ率井出港紅海ニ入り便宜ノ泊地ヲ撰ミ日本軍艦二隻ノ通航ヲ監視スヘシ但水雷艇ヲ以テ蘇士  
トノ連絡ヲ保ツコトヲ要ス

命令第四號 三月一日 浦鹽發電

在セリストーポリ黒海小隊司令官ヘ

貴官ハ三月二日午前八時戰艦ツリスワチーチェリヤ「ロスチスロフ」及ヒ「ドゥエーナツチアボス  
トロフ」ヲ率井太平洋艦隊ニ合スルノ目的ヲ以テ出港スヘシ

第一回ノ載炭港ヲスミルナニ第二回ヲポートサイドト定ム其ノ以後ハ貴官ノ便利ト認ムル地點  
ニ於テ貴官ニ隨航スル汽船ヨリ搭載スヘシ

命令第五號 三月一日 浦鹽發電

在アーブル驛逐艦グロソウオイ艦長ヘ

貴官ハ本信受領次第直ニ驛逐艦ウラーヌイ「ウヌシーテリヌイ」ヲ率井ポートサイドニ向ヒ出  
港シ同港ニ於テ巡洋艦アドミラルナヒーモフニ合スヘシ  
航行中速力ヲ十八節ト定ムヘシ

命令第六號 三月一日 浦鹽發電

在香港汽船サラトフ船長ヘ

其ノ船ハ本信受領次第搭載貨物ヲ卸シ迅速ニ石炭ヲ滿載スヘシ  
右ノ事業ヲ終ラハテルナーテニ向ヒ出船スヘシ出船前支那人ノ火夫ヲ備入レ本船ニ乗組マシム  
ヘシ

命令第七號 三月一日 浦鹽發電

在亞丁汽船エカチエリノストラフ船長ヘ

其ノ船ハ巡洋艦アドミラルナヒーモフ艦長ノ區處ヲ受ケ其ノ船搭載ノ乗客一五〇〇人ヲ卸シ之  
ヲ他ノ義勇艦隊汽船ノ最初ニ會合セルモノニ移スヘシ

右ノ事業終ラハ石炭滿載五〇〇噸ヲ自船ニ搭載シ黒海小隊ニ合シ之ニ隨航スヘシ

「アドミラルナヒーモフ」ハ三月 日ベリムニ在ル筈

命令第八號 三月一日 浦鹽發電

在新嘉坡汽船ニイザニーノウゴロット船長ヘ

其ノ船ハ直ニ旅順ニ向ケ出港スヘシ

命令第九號 三月一日 浦鹽發電

在旅順汽船ハマロフスタ船長ヘ

其ノ船ハ軍艦旗ヲ掲揚シ横濱ニ到リ露國公使ノ命ヲ受クヘシ



命令第十號第十一號 三月一日 浦鹽發電

在上海汽船「ウラヂーミル」及「ウオロー子」船長へ

其ノ船ハ上海ニ於テ石炭ヲ滿載シ旅順ニ回航スヘシ

命令第十二號 三月一日 浦鹽發電

在桑港帝國總領事へ

最良石炭一〇〇、〇〇〇噸ヲ購入シ浦鹽斯德ニ向ケ送ラレタシ

運炭汽船「ハユズ」ト島ニ向ヒ樺太島東岸ヲ航行シ黒龍江口灣ニ入ラシメ同港ニ於テ後命ヲ待ツ

様訓令セラレタシ

命令第十三號 三月一日 浦鹽發電

在シドニー露國領事へ

ニユーカッスル炭五〇、〇〇〇噸ヲ購入シ旅順へ送ラレタシ

總テノ運炭汽船「ハムボイナ」ニ寄港シ後命ヲ待ツ様訓令セラレタシ

命令第十四號

日本海巡洋艦小隊司令官へ訓令

編制

一等巡洋艦 「ロシーヤ」

同 「リュウリク」

砲 艦 「ボーブル」

同 「シウーチ」

同 「コレーツ」

一等巡洋艦 「アドミラルコルニコフ」

水雷艇五隻 第二〇一號 第二〇二號 第二〇七號 第二〇五號

義勇艦隊汽船 「ペテルブルグ」(武装ス)

同 「ヤロスロフ」

同 「ハミロフスク」

碎氷船 「ナデージヌイ」其ノ他

水雷艇 第九一號 第九二號 第九三號 第九四號  
第九五號 第九七號 第九八號

任務

一、元山ヨリ浦鹽斯德ニ瓦ル韓國沿岸及ヒアスコリド島ヨリ浦鹽斯德迄ノ海面ヲ監視スヘシ

二、若シ機會ノ許ストキハ敵ノ陸兵輸送船ニ對シ攻撃ヲ行フヘシ

三、露國沿岸ノ境域内ニ於テ陸兵及ヒ軍需品ノ輸送ヲ行フ爲メ陸軍ニ協力スヘシ

四、遠方偵察ノ爲メ巡洋艦「ロシーヤ」及「リュウリク」ヲ津輕海峡及ヒ舞鶴軍港方面ニ出動セシ

ムルコトヲ得

機會ノ許ス限リ沿岸ニ近ク航行シ鐵道ヲ破壊スヘシ

五、巡洋艦「ロシーヤ」及「リニューリク」ハ四月二日迄ニテルナーテニ到達シ同地ニ於テ後命ヲ待  
マシムヘシ

浦鹽斯德ニシテ封鎖セラル、ニ於テハ濃霧ノ日ニ乗シ出港シ宗谷海峽ヲ通航スヘキコト  
ヲ勸告ステルナーテニ於テハ石炭ヲ得ラル、モノト豫算スヘカラス若シ兩艦ノ行動ヲ妨  
ケサルニ於テハ運炭船トシテ「ベテルブルグ」ヲ隨伴セシムルヲ得

兩艦ハ充分完全ノ状態ニ於テ換言スレハ未ダ戰鬪ヲ行ハスシテ主力艦隊ト合同センコト  
最希望スル所ナリ是本職ハ他日全艦隊ヲ以テ日本ノ主力ニ當ラントスルニ於テ兩艦ニ望  
ム所多キモノアルカ故ナリ

六、要塞兵力ノ編制

戰列大隊二

要塞歩兵大隊五

要塞砲兵中隊六

工兵中隊一

水雷中隊一

哥薩克百人隊二

總計 七大隊

八中隊

百人隊

防禦工事及ヒ市街ノ外廓ヲ保護スルノ處置ヲ執ルヘシ

部隊ハ舍營ヲ定ムルニ當リ市街ハ其ノ南方又露西亞島ヨリ連絡ナキコトヲ念頭ニ置クヘ  
シ需品ノ貯蓄ハ八箇月ヲ支フヘキ見込ニテ需品倉庫ニ在リ掌砲掌水雷科需品モ亦各其ノ  
倉庫ニアリ

衛生事務ハ要塞衛生委員ノ手ヲ以テ行ハシム同委員ハ傷病者ノノウオキエフスク軍團附  
後方衛生委員ニ轉送スヘシ後者ノ收容病院ハニコリスクニ在リ鐵道保護ノ爲メ國民兵軍  
ヲ召集シ其ノ編制ヲ鐵道大隊ト同一ニス蘇城石炭坑ノ保護ハ山林局勤務員ヨリ此ノ如キ  
部隊ヲ編成シ之ニ當ラシム

ボシエット要塞ノ編制

戰列大隊一

砲兵中隊一

水雷中隊一

此等陸上諸部隊ニ對シテハ貴官ハ軍團長ノ職權ヲ有ス

命令第十五號 三月一日  
浦鹽發電

在カーザフ帝國領事へ

四〇〇噸ノ排水量ヲ有スル汽船三隻ヲ購入シ此ニ最良カーザフ炭ヲ滿載シポートサイドニ向ケ

送ラレタシ

命令第十六號 三月一日 浦鹽發電

在ビレー汽船カストロローマ船長へ

其ノ船ハ本信受領次第ボートサイドニ向ケ出發蘇士運河ヲ通航シ蘇士ニ於テ「ナヒーモフ」ニ合シ後命ヲ待ツヘシ

命令第十七號 三月一日 浦鹽發電

在ヲデッサ汽船アリヨール船長へ

其ノ船ヘカーヂフ炭三六〇〇噸ヲ搭載シ備砲ヲ据付ケ乗員ヲ充實シ砲煩及ヒ其ノ彈藥及ヒ他ノ義勇艦隊汽船乗員用ノ小銃ヲ搭載シ蘇士ニ到リ後命ヲ待ツヘシ

命令第十八號 浦鹽發電

「パーミヤトアゾ」艦長へ

其ノ艦乗組將校掌砲下士掌砲兵掌水雷兵潜水兵信號兵ノ一部及ヒ射撃兵掌砲射撃兵譯者曰ク露國ニ此ノ如キ兵種アリ我カ小銃ノ優等射手ノ如キモノナリ掌電具兵掌帆長准士官譯者曰ク掌帆科以外ノ准士官ヲ云フノ一部ニ各自ノ携帶武器及ヒ給貸與品ヲ渡シ遭遇スヘキ最近ノ露國便船ニ移乗セシメ成ルヘク早ク我カ艦隊ニ合セシムヘシ移乗ヲ終ラハ其ノ旨電報ヲ要ス其ノ艦ハ英國ニ於テ建造中ナル出雲朝日ノ注視ヲ避クヘシ

命令第十九號 浦鹽發電

地中海紅海印度洋馬來群島及ヒ清國ニ駐在スル總帝國領事及ヒ通信員へ

歐洲ヨリ回航スル日本ノ總艦船ノ行動ニ關スル牒報ハ如何ナル種類ヲ論セス迅速通信アラシトヲ希望ス

命令第二十號 三月一日 浦鹽發電

在倫敦帝國大使館附海軍武官へ

日本軍艦殊ニ戰艦朝日及ヒ巡洋艦出雲ノ行動ニ關スル最正確ナル情報ヲ報告スヘシ

命令第二十一號 三月一日 浦鹽發電

在バルパライソ帝國領事へ

智利國海軍ノ軍艦ヲ日本ニ於テ購求セントスル談判ニ注意シ其ノ成行キヲ迅速報告セラレタシ

命令第二十二號 三月一日 浦鹽發電

在ベノザイルス帝國領事へ

亞爾然丁國海軍ノ軍艦ヲ日本ニ於テ購求セントスル談判ニ注意シ其ノ成行キヲ迅速報告セラレ

命令第二十三號 三月一日 浦鹽發電

在ボートサイド汽船「タムボフ」船長へ

其ノ船ハ運河ヲ通航シ黑海艦隊ニ隨ヒ航行スヘシ

命令第二十四號 三月一日 浦鹽發電

ヲテッサ貿易航業會社へ

其ノ社汽船皇帝ニコライ第一世號ヲリガ女王號ヲハチヨフ號ツアノ號ツアリッア號ハカーヂフ炭ヲ滿載シポートサイドニ向ヒ蘇士運河ヲ通航シ後命ヲ待タシムヘシ汽船ツエレラ號イユーノナ號シアナ號ハポートサイドニ到リ各カーヂフ炭一二〇〇噸ヲ搭載セシムヘシ搭載用石炭ハ既ニカーヂフニ於テ購入済ミナリ

命令第二十五號 三月一日 浦鹽發電

在馬山浦小隊司令官へ

貴官ハ「ドンスコイ」「モノマーフ」「ザビヤーカー」「キーエフ」ヲ率井直ニ出港旅順ニ到ルヘシ「ガイダマーク」ハ日本ノ行動ヲ監視報告スルタメ之ヲ止ムルモ危險ニ際シテハ旅順ニ引揚クル旨同艦長へ訓令シ置クヘシ

命令第二十六號 三月一日 浦鹽發電

在上海「アウロージヌイ」「兩艦長へ

石炭ヲ滿載シ旅順ニ到ルヘシ

命令第二十七號 三月一日 司令部發

浦鹽斯德軍港碇泊汽船「ベテルブルグ」艦長へ

其ノ船ハ「モスクワ」「ヘルツン」及ヒ「サラトフ」ニ準シ備砲ヲ据付ケ乗員ヲ充實シ尙右三隻汽船ノ補充トシテ四百名ノ兵員ヲ乗組マシムヘシ以上準備整ヒ次第速ニ主力艦隊ト合同スルタメ出港スヘシ

集合地點 北緯二一度一二分東經一三〇度五六分 三月九日正午ニ於テ

命令第二十八號 三月一日 浦鹽斯德

浦鹽軍港司令官へ

武裝ヲ命セラレタル汽船「ヘルツン」「モスクワ」「ベテルブルグ」及ヒ「サラトフ」ノ補充兵員ヲ編成スヘシ旅順ニ於テ解役ヲ命シタル巡洋艦「ラスボイニク」及ヒ「ザビヤーカー」ノ兵員ヲ右ニ充用スルヲ得

乗員定員數

「サラトフ」	一七〇名
「ベテルブルグ」	一六〇名
「ヘルツン」	一六五名
「モスクワ」	一八五名
「ザビヤーカー」	一四四名
「ラスボイニク」	一七四名
計	六一八名—三六二名

命令第二十九號 三月一日 浦鹽斯德

沿黑龍州知事へ

貴官ハ石炭ノ採掘續行ノ必要上速ニ蘇城川域ニ私有財産ノ徵發ヲ行フヘシ強制徵發法ノ規定ニ基キ地方官憲ノ執ルヘキ處置ニ關聯シ本職命令ヲ彼得堡ニ報告セララルヘシ石炭ノ最大量ト最迅速ニ之ヲ採掘スルノ方法ニ關シテハ貴官カ最便ト思考セララル、方法ニ一任

又海岸へノ輸送及ロ軍艦へ搭載ノ方法ヲモ講シ置カルヘシ之カ爲メ一時間五〇〇噸ヲ搭載シ得ルタケノ契約石炭人夫ヲ備ヒ置クヲ要シ「リッドホルム」ヲ之ニ關係セシメラレンコトヲ勸告ス採掘ノ時間ト其ノ量トヲ報告セラルヘシ

(請求額ハ一晝夜百噸ト認メラル)

命令第三十號 三月一日 油鹽發電

在バタビヤ帝國領事へ

約四〇〇噸ノ小蒸氣船ヲ購入シ艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ケシムルタメテリナーテへ送ラルヘシ

(汽船購入濟)

命令第三十一號 三月一日 夜正子 油鹽發電

在ヒラデルフィア「ワリヤー」艦長へ

直ニ出港アル「ジール」ニ到リ戰艦「ホルター」及ヒ「セリストーポリ」ニ合スヘシ

總司令官幕僚ノ電報

命令第三十二號 三月一日 油鹽發電

上海「ギンスブルグ」商會へ

最良ノ海上用雙眼鏡二百個ヲ調達シ「アツワ」シマイニ托シ送ラレタシ——參謀長

(現品調達送附濟)

命令第三十三號 三月一日 油鹽發電

浦鹽斯德軍港司令官へ

海軍兵ヨリ列兵一五〇將校三名ノ一中隊ヲ編成シ之ニ上陸及ヒ行軍用具ヲ携帯センメ三月二日

海上ノウオキエフスクニ送り軍團司令部ノ區處ヲ受ケシメラレ度右總司令官ノ旨ニヨリ申進ム

參謀長

命令第三十四號 三月一日 油鹽發電

上海「ギンスブルグ」商會へ

時日ヲ限り丁抹ノ海底電線布設船ヲ雇入レ電纜ヲ搭載シ急速ノ命令ニ應スヘキ準備ヲ整フヘシ

(成功セス)

命令第三十五號 三月一日 油鹽發電

ノウオキエフスク軍團長

滿洲軍團長各幕僚へ

貴軍團長閣下ノ麾下諸部隊ニ露國及ヒ敵國ノ旗章并ニ露國海軍士官ノ服裝ヲ説明シ以テ彼我ヲ

明ニ甄別シ得ル様教訓セラレタシ——參謀長

命令第三十六號 三月一日 油鹽發電

在旅順要塞司令官へ

汽船「ニリヂー」ノウゴロッドハ九九年入籍ノ兵一〇〇〇人ヲ搭載シ到着ノ筈ナリ依テ一個狙撃

聯隊ヲ三大隊編成ニ改編セラルヘシ之ニハ八〇〇人ヲ要スル筈又要塞砲兵ヲ六中隊編成ニ改編セラルヘシ乃チ残り二〇〇人ハ之ニ充テラル、コト、ナル——參謀長  
命令第三十七號 三月一日 浦鹽發電

關東州長官

艦隊司令長官

軍港司令官

海岸望樓ト艦船トノ信號ニハ電信及ヒ號火ヲ其ノ近距離ニ於テハ手旗ヲ用ヒ艦船ノ間ニハ旗旒信號ヲ用ヒ端艇信號書ニ據ルヘキ旨關係ノ向ヘ通達セラレタシ

海岸ヨリ發スル閃光及ヒ發光ハ「モール」ス符ニテ解セス夜中信號符ヲ以テ解讀ノコトニ定ム

望樓ノ位置ハ秘密海圖ニ示シ汽船「ベテルブルグ」ヲ以テ配給ノ筈——參謀長

命令第三十八號 三月一日 浦鹽發電

黑龍江海灣等へ

石塊ヲ滿載セル「シヤラン」船ヲ沈メテ水道ヲ閉塞スヘシ(?)參謀長

命令第三十九號 三月一日 浦鹽發電

在「ビレー」ギリヤーク艦長

貴艦乗組將校四名ヲ艦隊ニ轉乗セシムルタメ「アドミラル、ナロー」モフニ便乗セシムヘシ貴艦ハ希臘群島ノ裡ニ隱レ朝日及ヒ出雲ノ運河通航ヲ待合シ兩艦通航三日ノ後「テルナー」テニ向ヒ東洋ニ

回航スヘシ但急航スルニ及ハス出發ノ際ハ其ノ旨電報アルヘシ

命令第四十號 三月一日 浦鹽發電

在「ラムスク」西伯利亞軍管區都督

イルクツク軍務知事

旅順陸軍先任指揮官

ハルビン護境軍司令官

本職ハ本日ヲ以テ總司令官ニ就職セリ自今公務上ノ交渉ハ本職ヘ向ケ呈出スヘシ——總司令官

命令第四十一號 三月一日 浦鹽發電

ラムスク軍管區都督へ

閣下ハ西伯利亞軍管區及ヒ「ハミロフスク」ヲ除キ後貝加爾州黑龍州等ノ諸兵ヨリ成ル滿洲軍團ノ指揮ヲ執ラルヘシ蒙古滿洲及ヒ後貝加爾州ニアル軍隊ニ對シテハ獨立軍團長ノ職權ヲ有セラル

命令第四十二號 三月一日 浦鹽發電

ハミロフスク軍管區都督へ

閣下ハ沿海州及ヒ「ハミロフスク」樺太島等ノ衛戍諸兵ヨリ成ル「ウオキエフスク」軍團ノ指揮ヲ執ラルヘシ黑龍州沿海州樺太島及ヒ韓國ニ在ル軍隊ニ對シテハ獨立軍團長ノ職權ヲ有セラル但浦鹽斯德及ヒ「ボシェット」ノ衛戍艦隊及ヒ沿岸防禦ノ部隊ハ貴官ノ麾下ヨリ除ク

命令第四十三號 浦鹽發電

在旅順アドミラルNへ

閣下ノ職權ノ及フ區域ヲ奉天州マテ擴張ス主力艦隊ノ指揮ハ之ヲアドミラル某へ移サルヘシ某ハ浦鹽斯德要塞司令官ヲ拜命セルアドミラルノ麾下ニアリシモノナリ(譯者曰ク此ノ章難解)

命令第四十四號 浦鹽發電

ペテルブルグ陸軍省

本職ノ麾下軍隊ヲ何時動員スヘキヤ

命令第四十五號

イルクツツク軍務知事へ

西伯利亞軍管區後貝加爾州黒龍州諸兵ヲ一時指揮セラルヘシ軍管區司令部ハ之ヲイルクツツクニ移シ滿洲軍團長ニ任命セラレタル騎兵大將丁ノ麾下ニ屬セシム

命令第四十六號 浦鹽發電

ニコラヘフスク要塞司令官へ

戰爭ハ到底避ク可カラサルニ到レリ援軍ノ到達マテ市ト黒龍江口ノ保安ヲ維持ス可シ

命令第四十七號 浦鹽發電

在旅順アドミラルNへ

開戦ハ避ク可カラサルニ到レリ貴官ハ九月艦隊ノ集中マテ要塞ヲ維持セラルヘシ

其ノ期ニ及ンテハ戰艦々隊ハ其ノ港及ヒ浦鹽斯德ノ封鎖ヲ解クニ到ルヘシ

命令第四十八號 三月三日 浦鹽發電

旅順要塞司令官へ

第四號電報ノ補足奉天州へ軍隊ヲ集中スヘシ宣戰布告ト同時滿洲護境兵ヲ貴官ニ直屬セシム貴官ハ鐵道線路ニ沿ヒ哨所及ヒ回避線ヲ建設シ鴨綠江口ニ到ル間ノ地形圖ヲ調製セシム可シ

命令第四十九號 三月三日 浦鹽發電

ノウオキエフスク軍團長

敵ノ行動範圍以外ニ我カ艦隊ヲ集中セントスルニ就キ浦鹽斯德ノ防禦トシテハ一小隊ヲ殘シ置キタリ滿洲軍團ハ八月二十日ニ伯都納ニ集中スル筈ナリ艦隊ニシテ幸ニ合同ヲ遂ケタランニハ七月中旬ニハ歸航シ得ヘシ貴軍團ハ之ヲボシエツトニ集中シ進ンテ韓國ヲ監視シニングタニ到ル交通線ヲ準備スルヲ要ス

命令第五十號 浦鹽發電

滿洲軍團長へ

曩ニ西伯利亞軍管區及ヒハミロフスクヲ除キ後貝加爾州黒龍州ノ諸兵ヨリ成ル軍團ノ指揮ヲ執ラルヘキヲ命シ置キタリ尙此ノ以前東清鐵道ノ建設ニ從事スル滿洲護境兵ノ工兵中隊及ヒ歐露ヨリ到達スル増援部隊モ亦閣下ニ屬セシメ蒙古滿洲軍司令官ノ職權軍務知事廳ヲ設立スルノ職權及ヒ西伯利亞鐵道シルカ河黒龍江及ヒ松花江等輸送ノ航行管理權等ヲ授ク——總司令官

命令第五十一號

艦隊司令長官へ與フル訓令

一、貴官ハ貴官ノ麾下小隊ヲ率非三月四日出港モルツクス群島ニ向ヒ出發ス可シ之カ針路ハ午後五時頃大隅海峡ヲ通過シ然ル後北ニ轉シ全ク暗黒トナルマテ同針路ヲ守ル可シ次テ「ロシヤ」及「ヒュール」ノ二隻ヲシテ總識別燈ヲ點セシメ津輕海峡ヲ通航シ浦鹽斯德ニ入ラシム可シ但兩艦ヲシテ屢敵國海岸ヨリ認識セラル、カ如キ航路ヲ執ラシムルヲ要ス二艦ヲ派遣シタル後ハ殘艦ヲ率非識別燈ヲ滅シ海岸ノ視界ヲ避ケ南ノ針路ニ於テモルツクス群島ニ向フ可シ其ノ途中三月九日正午北緯二一度一二分東經一三〇度五六分ニ於テ汽船「ベテルブルグ」ハ貴官ニ合スル筈ナリ同船ニハ貴官ノ麾下ニアル義勇艦隊汽船ニ搭載ス可キ砲ヲ搭載ス

最近電信局所在マテ十二時間ノ航程ニ在テ便利ト認ムル港灣ノ選擇ヲ貴官ニ一任ス又義勇艦隊汽船ノ一隻ニ將校一名ヲ乗組マシメアマボイナニ派遣スヘシ此ノ任務ハ「ヒュール」カツスルヨリ同航スル運炭船ト會シ總司令官ノ電訓ニ基キ必要ノ方面ニ之ヲ派遣スルニ在リ

二、貴官ハ其ノ麾下戰隊ノ所在ヲ決シテ敵ニ知ラシメサル様ノ處置ヲ執リ戰隊ノ行動ハ總テアマボイナニ在ル派遣將校ニ通報シ置クヲ要ス

三、貴官ハ四月八日ブートン島譯者曰クセレベス島ニ屬スル嶼ニ位置ス可シ爰ニ初テ黒海艦隊ト合同シ次テ婆羅的艦隊モ合同スル筈ナリ

四、歐露ヨリ同航スル總艦船用トシテ滿載額二倍ノ炭量并ニ生糧品ヲ併テ二箇月分糧食ヲ準備

シ置ク可シ汽船キ「エフ」ヲ此ノ目的ニ使用スルコトヲ得

五、選擇セル港灣ニ麾下戰隊ヲ碇泊セシメタルトキハ敵ノ奇襲ニ備フル充分ノ手段ヲ執ルヲ要ス即チ晝間ハ地平線ヲ監視スルメ海岸ノ高キ地點ニ望樓ヲ設ケ夜間ハ防禦網ヲ張り港口監視ノ衛艇ヲ配スヘシ晝間望樓ヨリ并ニ夜間衛艇ヨリノ規約信號ヲ制定スルヲ要ス(以上ハ總テ書類ニ認メ置ク可シ即チ海圖ヨリ寫取レル別紙ニ尺度ヲ大ニシ艦船及ヒ衛艇ノ位置ヲ記入スルコト)

六、電信局所在地トノ交通用トシテ貴官ニ小形汽船ヲ附ス本船ニハ其ノ隊ノ兵員ヲ選抜シテ乗組マシム可シ

同汽船ハ既ニテルナーニ於テ貴官ノ命ヲ待チツ、アリ

命令第五十二號

旅順小隊司令官ニ與フル訓令

一、貴官ノ率非ル小隊ハ勢力微弱ナルノ故ヲ以テ専ラ左ニ示ス沿岸區域ヲ監視スルノ任務ニ服セシム

鴨綠江口ヨリ旅順ニ到ル  
牛莊ヨリ旅順ニ到ル

以上任務ノ外又威海衛ニ在ル英國艦隊ノ行動ヲ監視ス可シ

二、貴官ハ充分成功ノ望ミアリト認メラル、場合ニ於テノミ敵ニ對シ攻撃動作ヲ執ルコトヲ得



- 三、巡洋艦「ラズボイニク」及「ザビヤカ」ノ砲力ハ陸軍指揮官ニ於テ陸上防禦ノ協同ニ必要ナリト認メタルトキ之ヲ其ノ目的ニ使用スルコトヲ得
- 四、ニューカッスルヨリ旅順ニ回航スヘキ運炭船ヲ無難ニ入港セシムルノ處置ヲ執ル可シ
- 五、一等巡洋艦「ウラチーミル」モ「マーフ」及「ドミトリ」ドンスコイヲ四月一日カ五月一日ニ韓國沿岸ニ到着スヘキ艦隊ニ合同セシムルモノト豫メ計畫シ置クヘシ
- 六、敵艦隊ニシテ旅順口ヲ砲撃スル場合ニ於テハ貴官ハ麾下ノ艦艇ヲ以テ陸上要塞ニ協力シ之カ撃退ヲ努ム可シ

命令第五十三號 三月七日 浦鹽發電

在威海衛露國通信員へ

日本主戰隊ノ入港スルトキハ其ノ艦名ヲ電報レ三月七日ノ報告ヲ補足ス可シ——參謀長

命令第五十四號

在アルジール戰艦「ポルター」艦長へ

其ノ艦「アルジール」在泊中汽船「スモーレンス」入港ノ旨ナリ然ル上ハ驅逐艦「グロソウオイ」ト合同スル迄同船ヲ地中海及ヒ紅海ニ隨伴ス可シ「グロソウオイ」ニ次キ「アリヨール」譯者曰ク汽船ナリモ其ノ艦ニ合ス

蘇士ヨリ汽船「イムペラートル」ニコライ第一「コロレワリガ」ベリムヨリ「カストローマ」ヲ護衛スヘシ  
ポーツサイド碇泊中ニ其ノ艦外三隻用ノ石炭ヲ汽船「ディアナ」ツエレリ「ノユノナ」ヨリ取り空船ハ

之ヲ「デッサ」ニ還サレタシ——參謀長

命令第五十五號

在英國汽船「スモーレンス」船長 三月一日 浦鹽發電

石炭五〇〇噸ヲ滿載シ「アルジール」ニ到リ「ポルター」艦長ノ區處ヲ受クヘシ朝日及ヒ出雲ノ視界ヲ避クルコト必要ナリ「ポルター」ハ三月一日正午「パウ」ヲ發シ十五節ニテ航行ノ旨

總司令官

此ノ後ノ戰策訓令電報等ハ全文海軍大學校日誌ニ登錄シアリ

宣戰布告ハ三月十三日トシテ各方面へ通知濟

○附錄第十 日本側ノ豫測

陸軍參謀中佐 ボグスラフスキー述

露國ハ太平洋沿岸領域ヲ防禦シ又韓國ニ於テ日本ニ抵抗センカ爲メ比較的薄弱ノ艦隊ト總計四萬ノ陸兵トヲ之ニ充ツ

此等四萬ノ陸軍兵ハ之ヲ二個集團ニ區別セリ

- (一) 一萬一千ハ關東ニ在リテ約二七〇〇方露里面積ト處々揚陸ヲ許スヘキ地點ヲ有スル三〇〇露里ノ海岸線トヲ防禦ス
- (二) 約三萬ハ烏蘇利邊境ニ在リ然レトモ此ノ中一萬ハ黑龍江口ヲ防禦ス黑龍江口ニハ陸上砲臺ヲ築キ「ボシエット」ニモ亦恐ラクハ陸上砲臺ヲ築キ之ニモ小部隊ノ兵ヲ配スルヲ以テ野戰軍

トシテ露國ノ此ノ方面ニ有スル兵數ハ二萬二千乃至二萬三千ニ上ラサル可シ  
前記ノ軍隊ハ皆充分ニ戰鬪準備ヲ完整シテ關東ノ部隊ハ戰時編制ニ編制サレ烏蘇利部隊  
ハ烏蘇利海灣ト豆滿江トノ間ノ何レノ局面ニ敵ノ上陸ヲ見ルモ直ニ之ニ應スヘキノ位置ニ  
分駐シツ、アリ二萬三千ノ烏蘇利軍團ハ動員ニ要スル時日ヲ算シ二週間以内ニ於テ集中シ  
得ルモノト推算スルヲ得

露國ノ前進豫備部隊ハ大距離ノ梯團ニアリ即チブラゴヘスチエンスクヨリ烏拉爾ニ互リ迅  
速ニシテ便利ナル交通道路ニ缺乏スルカ故西伯利亞鐵道ノ單線ハ僅ニストレーチエンスク  
マテ開通シ黑龍江ハ四月下旬ナラテハ解氷セス其ノ南烏蘇利ニ到達スルハ最初ノ三千(ブラ  
ゴヘスチエンスクヨリ)ハ五月一日ノ以後ニ第二次ノ一萬四千(後貝加爾ヨリ)ハ五月下旬若ク  
ハ六月一日ノ後ニアリ若シ又黑龍及ヒ後貝加爾州ノ軍隊ニシテ烏蘇利ニ於テセス松花江中  
流ノ位置ニ當ル滿洲ニ於テ集中セラレンカ此ル集中モ陸路若クハ水路ニヨリ亦五月下旬若  
クハ六月上旬ヨリ早キコトナク即チ年内ノ雨季トナル

西伯利亞軍隊ノ三萬ニ關シテハ其ノ滿洲若クハ南烏蘇利邊境ヘノ到達ハ漸ク七月下旬トモ  
サルヲ得サルナリ

此ノ如キ事情ニ在ルヲ以テ五月一日マテハ全太平洋岸ニ互リ特別任務ノ部隊(關東部隊ト要  
塞兵)及ヒ東清鐵道護衛ノ五千トヲ除キ露國ノ有スル陸軍兵數ハ僅ニ二萬三千即チ日本ノ二  
個師團ヨリモ劣ルノ數ニ過キサル可シ而モ韓半島ノウオキエフスクー元山ヨリハ五〇〇路

里關東ヨリハ一〇〇〇露里ノ遠距離ニ在リ

故ニ韓國ニ於ル日本ノ揚陸ハ海上ノ權力ヲ獲收シタル以上露國々境ニ密接セル部分ヲ除ク  
ノ外何レノ沿岸ニ於テスルモ至テ容易ニ遂行セラルヘシ況ヤ韓國住民ハ既ニ日本化セラレ  
敵對行爲ヲ見サルノミナラス元山釜山及ヒ仁川ニハ一大隊ツ、ノ日本駐屯軍ノ配セラル、  
アリテ既ニ占領ノ形式ニアルニ於テヲヤ

關東州ノ中立地帯以外遼東ノ東岸ニ於テスルモ亦清國ノ好意的中立アルノ故ヲ以テ容易ナ  
リトス此ヲ以テ觀ルトキハ日本ハ戰爭ノ主タル目的即チ韓國ノ領有ヲ達センニ露國ノ陸軍  
兵力ト衝突ヲ俟タスシテ克クシ得ルコト明ナリ

一旦韓國ニ根據ヲ固メンカ共ヨリ進ンテ前途ノ作戰ニ移ラントスルニ當リ或ハ孤立ノ關東  
部隊ニ對スルモ或ハ烏蘇利邊境ヨリ北韓ニ前進セシムル兵力(六月マテハ僅ニ二萬三千六月  
一日以後ハ四萬)ニ對スルモ或ハ同時ニ此ノ二者ニ對スルモ洋々トシテ成功ノ希望充分ナリ  
此ノ目的ヲ達スルニ十五萬ノ野戰軍ヲ有センニハ充分ニシテ日本ニ取リテハ可能ノコトニ  
屬ス

若シ露軍ニシテ初メヨリ攻撃動作ヲ執リナカラ西伯利亞豫備部隊ノ到達ヲ待チタリトスレ  
ハ日本軍ニハ此ノ時機ヲ利用シ關東占領ノ策ニ出ツルヲ得ヘク又北韓ニ侵入シ有利ノ地點  
ヲ占領スルヲモナシ得ヘク事爰ニ到リテハ十萬ノ露軍アリト雖モ日本人ヲ北韓ヨリ驅逐ス  
ルコト困難トナルヘシ

南島蘇利若クハ關東ノ沿岸ノ如キ直接露國領域ニ向ヒ揚陸ヲ試ミ露兵ト眞先キニ遭遇スルコトハ戰爭ノ初期ニ於テハ望マシカラス何トナレハ斯ル揚陸ハ敵前強行ノ性質ヲ帶ヒ隨テ危險ナリ稍敵情ノ判明スルヲ待チ韓國ノ占領モ安全ノ見込立チタル上ニテ前記ノ局面ニ向フコト得策ナリトスアスコリド島以北若クハ樺太島ニ對スル運動ハ其ノ陸上ニ交通道路ノ乏シキト戰役ノ進行上ニ影響スルコト尠キトヲ以テ行ハサルヲ宜シトス揚陸部隊ハ總常備師團ヲ舉テ之ニ充ツ可シ(北海道ノ第七師團ヲ除ク)日本沿岸ノ保安ト防禦ハ內國軍隊國民軍及ヒ沿岸防禦艦隊ニ任セテ可ナリ

若シ露軍ニシテ巡洋艦小隊ヨリ海軍陸戰隊ヲ揚陸セシムルノ恐アリトセハ島嶼ノ防禦ニ充テラレタル兵力サヘ存セハ充分ナリ況ヤ沿岸緊要ト認メラルヘキ地點ハ何レモ堅固ニ固メラレタルニ於テヲヤ

現時日本陸軍ノ兵數ハ左ノ如シ

一八九九年一月一日ノ調査ト一八九五年ノ例ニヨルトキハ日本ノ內國陸軍軍隊ハ其ノ大隊ハ露國ノ大隊ニ等シク騎兵中隊ハ馬一二五頭砲兵一中隊ハ砲六門ノ建制ニ於テ七個師團第一ヨリ第六ニ到ル六個ト近衛師團アリ而テ一師團ハ步兵四聯隊(三大隊ツ)、騎兵一聯隊(四中隊)砲兵三聯隊(九中隊)工兵一大隊(砲重兵一大隊)トヨリ成リタル全十二師團ハ約一四〇、〇〇〇ノ戰列兵ト砲四六八門ヲ有ス

前記ノ軍隊ヲ派遣シタル後沿岸防禦トシテ本國ニ殘ルモノハ左ノ如シ

エゾ島即チ北海道ニ步兵五大隊騎兵一中隊砲兵一中隊工兵二中隊第七師團及ヒ國民軍(日本島ニ各師團管區ノ內國軍隊即チ各留守師團毎ニ步兵四大隊騎兵一中隊工兵二中隊ノ編制ナルヲ以テ總計步兵二十八大隊騎兵七中隊工兵十四中隊アルコト、ナル

四國島ニハ同一ノ計算ニヨリ步兵四大隊騎兵一中隊工兵二中隊アリ

九州島ニハ步兵十八大隊騎兵二中隊工兵四中隊アリ

臺灣ニハ特別編制ナル一三、五〇〇ノ野戰軍アリ

野戰軍ノ動員ニハ七日ヲ要シ運送船隊ノ準備ニ又同數ノ日子ヲ費ス可シ運送船隊ノ噸數ハ一度ニ約二師團五〇〇〇人ノ軍夫隊二隊總計約三三、五〇〇八馬匹約八四〇〇頭砲一〇八門ト糧秣三箇月分ヲ輸送シ得ルノ力ヲ有ス

前陳ノ基礎ニヨリ左ノ假想ヲ生ス

韓半島ノ沿岸ニ揚陸ヲ行フ可シ

揚陸地點ハ韓半島ノ北部ニ於テ選擇スヘシ是速ニ韓半島ノ占領ヲ確實ニスルト釜山ヨリスルニ於テハ長途緩漫ニシテ疲倦ノ行軍ヲ避ケシムル所以ナリ若シ西岸ニ於テ斯ル地點アレハ海陸兩方面ヨリ關東州ヲ脅スコトヲ得ヘシ

故ニ揚陸地點ハ海上ノ必要條件ヲ満足スヘキ鎮南浦(平壤)ニ選定スルヲ良トス

鎮南浦ニハ約六師團(三回輸送)ヲ集中スルヲ得シ此等ノ師團ハ露國軍港ヲ距リタル日本ノ東部ニアリ隨テ日本本島及ヒ四國島ニ於ル稍安全ノ海岸ニ位置セルモノヲ動カスヲ得策トス

即チ第一師團司令部東京第三師團司令部名古屋第四師團司令部大阪第五師團司令部廣島第十師團司令部姫路第十一師團司令部九龍等はナリ

乗船ノ場所ハ第一師團ハ横濱ニ第三ハ四日市尾張灣内ニアリニ第四ハ大阪ニ第五第十ハ廣島ニ第十一ハ九龍ニ於テスヘシ此等諸港ノ中廣島及ヒ横濱ハ一八九四―五年戰役ニ軍隊輸送地トナリタルコトアリ

大阪ハ日本港灣中ノ良好ノモノト認メラル四日市ハ一八九七年ニ試験的ニ乗船ノ行ハレタルコトアリ九龍ハ四國島ノ唯一ノ港ノレハ之ニ適スルコト疑フ容レス

右ノ諸師團中乗船地點ニ最早ク集中シ得ルハ第四及ヒ第五ナリトス司令部歩兵二聯隊全砲兵騎兵聯隊工兵輜重部隊ハ平時ノ配置ニ於テ既ニ乗船地ニアリ残り歩兵二聯隊ハ動員完結後二晝夜ニシテ乗船シ得ヘシ此等師團ノ諸兵ハ當然第一梯團トナリ第一第三師團ノ集中マテニハ四日ヲ費シ此等ハ第二梯團トナリ第十第十一師團ト其ノ輜重ハ九日ヲ要シ第三梯團トナル平壤(鎮南浦)マテノ揚陸ヲ算シ海上往復ヲ十日トスレハ六個師團ノ輸送ハ第一梯團乗船ノ日ヨリ算シ四週以内ニ完結シ得ヘキナリ

各梯團ニハ五〇〇〇人ノ軍夫毎師團二五〇〇人ト兩師團ニ對スル三箇月分粗秣ヲ搭載ス此ノ割合ハ一人一名ニ付一日米三磅馬一頭ニ付豆滓十二磅即チ一梯團ノ輸送スル三箇月ノ分量七〇〇〇噸トナル

第三梯團ハ騎兵砲兵ノ僅少ナルカ爲メ既ニ第一第二梯團ノ消費セル額ヲ補給スルタケノ糧

秣ヲ搭載シ得ヘシ

北韓ニ於ル揚陸ハ露國太平洋艦隊ヲ監視封鎖若クハ殲滅シタル後ナラサルヘカラサルコトヲ顧慮スルトキハ海上ノ戰局判明スル迄ハ單ニ第一梯團ニ屬スル軍用重量物經理部用品及ヒ砲煩等ヲ搭載スルニ止メ軍隊ハ乗船セシメサルヲ得策トス此ノ事業モ三月八日ヨリ從事シ得ヘシ

最此ノ期間ニ日本ニ最近キ朝鮮海峽ノ港ナル釜山ニ於テスル揚陸ハ安全ニ行ハレ得ヘシ此ノ地ヨリ京城及ヒ平壤ニ達スル行通線ヲ設クルトキハ同一海上航路ニ對シ補助的ノモノトナルヘシ

此ノ目的ニハ釜山ニ最近キ距離ニ在ルヲ以テ第十二師團司令部小倉ヲシテ當ラシメン乎此ノ師團ノ歩兵旅團ニ砲兵及ヒ騎兵一中隊ヲ混シ其ノ行李ヲモ附屬シ三月八、九日頃ニ門司ヨリ乗船セシムルトキハ同十二日ニハ釜山ニ上陸スルヲ得ン

又此ノ師團ノ第三聯隊ハ三月十七日マテニ同地ヨリ第二航ノ便ヲ以テ輸送スルヲ得ヘシ(韓國ニハ既ニ日本ノ三大隊ノ駐屯スルモノアリ是第十二師團ノ第四聯隊ニ當ル筈此クテ韓國ニ上陸セル七個師團ヲ合シ第一軍ヲ編制スヘシ其ノ勢力ハ八一〇〇〇ノ劍及ヒ檢歩兵騎兵ト砲二七〇門トナル中六師團ハ義州及ヒ元山ニ前衛ヲ有シ平壤ヨリ安州ニ互ル地方ニ集中セラレ他ノ一師團ハ釜山ヨリ平壤ノ間(五〇〇露里)ニ梯團ヲ配駐スルコト、ナル即チ釜山ニ歩兵三大隊砲兵一中隊騎兵一小隊京城仁川間ニ歩兵三大隊砲兵一大隊騎兵一小隊ツ、ノ割

合ナリ依テ帝國領域内ニ残留スル近衛師團第二第八第九日本本島及ヒ第六師團九州島等ハ  
戦局ノ發展ニ應シ之ヲ左ノ如ク處分ス

(一) 若シ露軍ニシテ沿海州ヲ空クシ迅速ニ北韓ニ侵入シタリトスレハ沿海州占領ノ目的ヲ以  
テ南島蘇利邊境ニ向フカ或ハ露軍ト浦鹽斯德トノ聯絡ヲ絶ツノ目的ヲ以テ北韓ノ沿岸ニ  
上陸セシムルニアリ  
或ハ最有リ得ヘキコト、シテ

(二) 關東州ニ向ハシムルコトナリ

此等師團(第二軍)ノ前記何レノ運動ヲ取ルニ於テモ第一軍ト協同スルヲ要ス第一軍ノ運動ハ  
或ハ露軍ト遭遇センカ爲メ北方ニ向フカ或ハ遼島ニ向フカ或ハ其ノ一部ヲ以テ直ニ關東州  
ニ揚陸スルニアリ第二軍ノ揚陸地點ハ(一)ノ場合ニ在テハ第二第八師團ハ青森ニ(或ハ大湊近  
衛師團ハ直江津ニ第九師團ハ敦賀或ハ舞鶴)ヲ選ムヘシ

(二)ノ場合ニ在テハ横濱第二及ヒ近衛或ハ廣島ニ於テス可シ第六師團ハ何レノ場合ニ在テモ  
佐世保ナリ

軍需品ノ調達ハ主トシテ地方ノ物資ニヨル(即チ初メハ韓國ニ於テシテ次テ滿洲ニ入り尙支那  
請負商人ノ手ニヨリ爾他ノ場所例ヘハ上海芝罘等ヨリ供給シ得)ト尙日本々國ヨリモ輸送ヲ  
仰クコト、ス年ノ初ニ於テ未タ地方ノ物資潤澤ナラサルヲ慮リ各梯團ハ三箇月分ノ糧秣ヲ  
準備セリ此ノ額ヲケアレハマトヒ海上輸送ノ途ヲ露國ノ爲メ絶タル、コトアルモ充分長期

ニ互リ維持スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ釜山京城間ノ交通線ヲ設ケアリ軍用重量物ノ運  
搬ハ一部ハ馬匹(馬車及ヒ馬背)ト一部ハ軍夫ニ依頼シ殊ニ後者ニ重キヲ置クコト、セリ軍夫  
ノ數ハ前年ノ戰役ニ實驗シタル結果毎師團ニ五〇〇〇人ト算シ其ノ半數ヲ日本ヨリ輸送シ  
他ノ半ヲ地方ニテ備入ル、コト、セリ

前記ノ想定ヲ呈出シテ審裁ヲ請ヘリ

○附録第十一 日本側ノ戰策(譯者曰ク我下云フハ原文ノ作者曰ク)

艦隊勢力ノ對稱ニ就キ觀察スルトキハ露國ハ歐露ヨリ増援艦隊ノ到達スル迄ハ其ノ比較的薄弱  
ナル勢力ヲ擁シ到底日本ノ優勢艦隊ニ拮抗スル能ハサルコト明ナリ殊ニ著シク眼ニ映スルハ露  
國艦隊ニハ偵察巡洋艦及ヒ之ニ代ハルヘキ高速小巡洋艦ヲ有セサルノ事實ナリトス歐露ヨリ艦  
艇ノ到達ヲ待チテ露國ノ主戰艦隊ハ著シク増勢シ我ヨリモ優勢ニ移ルヘシト雖モ其ノ巡洋艦ニ  
至テハ殆ト増ス所ナク又水雷艦艇ニ於テモ増加勢著シカラス故ニ露國ノ巡洋艦水雷艦艇ハ全然  
我カ高速裝甲巡洋艦及ヒ新式水雷艦艇ヨリモ劣勢ナリトス

概シテ我カ艦隊ハ常ニ露國艦隊ヨリモ優勢ナリ然レトモ露國艦隊ノ骨子ハマトヒ雜種ノ型式ナ  
リトスルモ戰艦タルヲ失ハスシテ又其ノ砲煩モ強力ナリトスレハ海洋ニ於テ之ト遭遇センハ我  
ニ取リ事聊カ冒險ニ屬ス故ニ戰爭ノ初期ニ於テ此ノ方面ニ現存スル露國艦隊ノ一部ヲ亡滅セシ  
ムルカ或ハ之カ封鎖ニ努メサルヘカラス同時躊躇スルトコロナク我カ陸軍軍隊ヲ韓國ニ上ケ之

カ占領ヲ圖ル可シ上陸地點ハ平壤ヲ宜シトス鎮南浦平壤ノ地タル大部隊ノ揚陸及ヒ貨物ノ陸揚ニハ最便利ニシテ且安全ナリ歐露ヨリ増援艦隊ノ到達マテニ必ス全韓國ヲ占領シ固ク之ニ根據ヲ据ヘ吾人ニシテ一旦海上權ヲ失フノ或時期ニ際會スルトモ糧食軍需品ヲ長時日ニ互リ持久スルノ覺悟アルヲ要ス

故ニ作戰ノ主要ノ目的ハ露國艦隊ヲ亡滅シ韓國ヲ占領スルニ在リ

○附錄第十二 三月十二日迄ニ於ル日本陸軍ノ執リタル處置

陸軍參謀中佐 ボグスラフスキー述

命令第一號

陸軍軍隊及ヒ海岸要塞ノ動員ヲ命ス

一九〇〇年三月一日 東京ニ於テ

陸軍大臣

(三月一日夜暗號電信ヲ以テ電報セラレタリ)

命令第二號

動員ヲ終リタルトキハ左記ノ場所ニ集合ス可シ

第一師團 横濱

第三師團 四日市

第四師團 大阪

第五師團 廣島

第十師團 門司

第十二師團 門司

第四及ヒ第五師團ハ所在海軍先任將校ノ指示ニ從ヒ重量物及ヒ軍需品ヲ船舶ニ搭載スヘシ軍隊ヲ輸送船舶ニ乗組マシムルノ時日ハ追テ特令ス

經理部ハ集中セル師團ノ數ニ應シ三月八日迄ニ三箇月分糧秣ヲ横濱四日市大阪廣島門司ニ集積シ又同地點ニ各師團ニ二五〇〇名ツヽノ割ヲ以テ軍夫ヲ備入ルヘシ

元山仁川及ヒ釜山ノ各守備大隊長ハ成ル可ク表面ノ發露ヲ避ケ軍需品ノ準備ト韓人軍夫ノ備入ヲナスヘシ

第一第二第三第四第五第十第十一第十二師團ヲ以テ第一軍トナス

(秘密命令ハ電報ニヨリ必要ノ向ヘ通セラレタリ)

命令第三號

第十二師團長ハ其ノ師團歩兵第一旅團ト砲兵三中隊ヲ率テ出發シ直ニ釜山ニ向フ爲メ其ノ隊ヲ運送船ニ乗船セシムヘシ第十二師團長ヲ假ニ韓國ニ在ル總陸軍部隊ノ司令官ニ任ス司令官ハ韓國上陸ノ上ハ歩兵三大隊砲兵一中隊工兵二中隊ト四分ノ一ヲ釜山ニ駐メ之ニ釜山ノ防禦ト梯團出發ノ編制トヲ委任シ自ラ京城一平壤ニ向ヒ行軍ヲ續クヘシ本師團ノ任務ハ釜山ヨリ京城ニ到ル交通道路ノ開設トカ保安トニ任スルニアリ(第十二師團長ヘノ命令ハ電報ニテ通セララル)

三月七日

東京ニ於テ

命令第四號

第七師團國民軍警備隊ハ附録沿岸防禦配置ニ基キ海岸線ノ守備ニ就クヘシ(第七師團及ヒ臺灣守備軍司令官ヘ電報)

命令第五號

第四及ヒ第五師團ハ乗船ヲ始ムヘシ

三月九日

(午後十一時東京發電)

命令第六號

第一軍編成ノ命令

布告第二

陸軍部

日本第一軍ノ第一梯團ハ三月十五日ニ第二梯團ハ同二十五日各鎮南浦ニ上陸セリ第二梯團ノ乗船ノ際ニハ輸送船隊ノ數増加セルヲ以テ豫定ノ二個師團ニ超エ三個師團ヲ乗船セシムルコトヲ得タリ但露國艦隊カ旅順ヲ出港セルノ情報ニ接シ危險ノ虞アルヲ以テ第二梯團ノ乗船ハ内海ニ於テ行フコト、ナリ横濱ニ於テ之ヲ行ハス爲メニ第三、第十、第十一ノ三師團ヲ以テ第二梯團トセリ

第二梯團ノ韓國ニ上陸セル後三月盡日ノ現在ニ於テ平壤ニ集中セル日本軍隊ハ共ノ數六萬ニ達

シ之ニ釜山ヨリ前進スル第十二師團ヲ合スルトキハ總計七萬トナル

四月一日第一軍ハ郭山、寧邊、价川ニ前衛ヲ有シ定州、安州、肅川ノ地方ニ分駐シ平壤、元山ニハ各旅團ヲ有シ臥龍雲山ト同緯度ニアリノ方向ニ向ヒ鴨綠下流ニ偵察部隊ヲ進マシメ元山ヨリハハシー、フインチュ(譯者曰ク此ノ韓名不詳)ニ向ヒ同シク偵察部隊ヲ派出セリ敵情ニ關シテハ新浦ニ哥薩克偵察隊ノ現存セルノ牒報ノ外何等得ル所ナシ敵ノ海軍勢力ニ關シテハ恐ラクハ四月十六日頃ニ於テ歐露ヨリ著シキ増援ヲ得タルモノ、如シ此カ爲メ關東ニ對スル動作ヲ急クコト、ナリ直

接此ノ沿岸ニ向ヒ次回ノ梯團ヲ向ケルノ策ヲ執ルコト、ナレリ  
四月二日ノ推算ニヨレハ此ノ日ニハ四個師團ヲ乗船セシムル管ナリ而テ第八師團ヲ廣島ニ於テ第一及ヒ第二師團ヲ大阪ニ於テ第六師團ヲ佐世保ニ於テ第六師團ハ時恰モ運送船ノ船線ニ差支アリ砲兵及ヒ騎兵ハ共ノ一部ヲノミ乗船セシメタリ即チ總計歩兵十二大隊騎兵一中隊砲兵三中队工兵一大隊(愈々)乗船地點ニ向ヒ前進ノ命令ハ漸ク三月二十日ニ下サレタリ  
故ニ四月六日ニハ海上ニ出航シ得ヘクシテ遅クモ四月十日ニハ關東州沿岸ニ出現スルコト、ナル(距離七五〇哩)

關東州ニ於ル露國勢力ハ總計歩兵八大隊騎兵百人隊六野砲二十四門ト此ノ外旅順要塞兵ハ要塞砲ヲ有ス關東ノ地形ハ地頭ニヨリ二部ニ分タレ甚タ堅固ナル陣地ヲ有セリ故ニ歩兵四大隊野砲十六門ヲ之ニ配シ北方面ニ展開シタランニハ長時日ノ間敵ノ著シキ部隊ト對抗シ得ヘシ危急ニ際シテハ此ノ陣地ハ南方面ニスルモ維持スルヲ得ヘク共ノ兩翼ハ海面ヨリハ侵サル、コト

ナシ

迅速ニ關東州ヲ占領セント欲セハ地頭ノ北方ニ揚陸ヲ試ムルコト有望ナリ露軍ハ其ノ勢力薄弱ナルノ故ヲ以テ之ヲ阻害ズル能ハサルヘシ即チケル灣カ若クハケル灣ト貔子窩トノ間ニアル地點ニ於テシテ二個師團ヲ以テ地頭ニ向ヒ平押シニ前進セシメ此クテ露軍ヲ此ノ方面ニ誘引シタルトキハ残り二個師團ヲ以テ半島ノ西側鳩灣ニ上陸ヲ行ヒ次テ總四十八大隊ヲ同時ニ動カシテ露軍ニ當ルヘシ

地頭以北ノ地即チケル灣或ハ假ニ鹽大澳ニ於テスル揚陸ヲ助ケントナラハ同時大連灣ニ威嚇運動ヲ行フヘシ(本灣ノ揚陸ハ軍隊ノ現存スルト砲臺敷設水雷等アリ事冒險ニ屬ス)又鳩灣ニ於テスルトキハ同時旅順口ヲ砲撃スルヲ要ス

露軍ノ中歩兵四大隊ハ地頭ノ守備ニ當リ二大隊ハ旅順ノ防禦ニ全然必要トナリ哥薩克ノ一部ハ監視哨(海岸)及ヒ傳騎等ニ服スルモノト積算スルトキハ輸送船隊カ鳩灣ニ入港碇泊シ端舟ヲ卸ス迄ニ要スル時間ニ露軍ハ其ノ殘餘ノ砲兵二中隊砲八門ヲ此ノ海岸ニ集中シ得ルモノトハ思ハレズ推算ニヨレハ鳩灣ニハ運送船二十隻ヲ容ル、コトヲ得故ニ四十分ヲ費シテ2000ト4000人ヲ揚陸シ得ヘシ鳩灣揚陸ノ二個師團揚陸ヲ迅速ナラシメント欲セハ軍夫ノ勞ヲ籍リ輜重ヲ輕減シ師團ニ馬匹ノ編制ヲ減縮シ兩師團中ノ一ニ工兵ノ代リニ鐵道大隊ヲ附スルヲ良トス(各師團ノ編制ハ歩兵十二大隊騎兵一中隊砲十八門工兵一大隊ナリ)關東州ニ上陸スル部隊ノ給養上ノ保安ニハ芝罘若クハ營口ヨリ支那船ヲ備入レ糧秣ヲ得ルノ途

ヲ講スヘシ

南方ニ揚陸ノ不成功ナル場合ニハケル灣或ハ貔子窩ニ退却シ若シ又絕對ニ不可能ノ場合ニハ時ノ事情ニヨリ揚陸シ得ルノ場所ニ於テ鴨綠江口カ或ハ平壤ニ於テスヘシ

揚陸成功シ關東州ヲ占領スルニ至レハ清國政府ニ協商シ半島ノ管轄權ヲ日本ニ收メシコトヲ報告スヘシ

關東州ニハ僅ニ一師團乃至一師團半ヲ殘留セハ可ナリ爾餘ノ軍隊ハ

(一) 或ハ鐵道ニヨリ奉天ニ送ルカ

(二) 或ハ海陸ノ輸送ヲ以テ第一軍ニ合セシムルカ

ノ一ヲ執ルヘシ關東州揚陸ノ時ニ於ル第一軍ノ行動ハ附錄計畫ニ示スカ如シ(主力ハ寧邊、雲山ニ在リ)

共ノ後第一軍及ヒ第二軍(第二或ハ第二ト第六師團ノ一部)ノ運動ハ戰局ノ發展ニヨル

日本ニ殘留スル第九師團及ヒ近衛第一旅團他ノ旅團ハ東京ニ殘留ノ筈ヲ以テ獨立枝隊歩兵十六大隊騎兵四中隊砲二十四門ヲ編成シ若シ露艦隊ニシテ出沒セサル限り之ヲ韓國ニ輸送スヘシ(大分ハ北方ニ此ノ部隊乗船ノ地ハ敦賀ナリ)

(註) 韓國沿岸ノ監視及ヒ防禦區域ヲ各師團ニ分ツコト左ノ如シ

合津岬ヨリ馬養島ニ到ル

元山守備隊

南方沿岸

釜山守備隊



トイエンヨリユイエンマテ(コイエンヲ含ム) 第十二師團ノ一部  
大同江口 第五師團ノ一部  
コーセンヨリ鴨綠江ニ到ル 第三師團ノ一部

日本側ノ執レル處置一般

三月一日

- 一、主戰艦隊ニ編入セラレタル總軍艦水雷艇ヲ除クハ石炭糧食ヲ満載シ佐世保ニ至リ所屬本隊ニ合ス可シ
- 二、電報英國ニ在ル軍艦ハ近々ノ中路國ト戰端ヲ開始スルノ旨ヲ領シ速ニ回航ノ途ニ上ルヘシ
- 三、第二、第三、第四及ヒ第五號運送船ハ石炭ヲ搭載シ佐世保ニ到ルヘシ
- 四、巡洋艦吉野千代田須磨ハ在旅順口露國艦隊ノ動靜ヲ監視スルノ目的ヲ以テ威海衛ニ至ルヘシ
- 五、第一、第九、第十五、第十九、第二十九、第三十九、第四十五、第五十一、第五十二、第五十四、第五十五、第六十、八號ノ十二隻假裝巡洋艦ハ偵察勤務ニ服スルノ準備ニアルヘシ
- 六、戰艦鎮遠海防艦金剛ハ露國艦隊ノ動靜ヲ偵察スル爲メ浦鹽斯德ニ到ルヘシ
- 七、第一輸送船隊ノ護衛トシテ巡洋艦千歲淺間通報艦龍田八重山水雷母艦豐橋ヲ定ム
- 八、豫備艦ハ直ニ機裝ニ著手シ就役準備ヲ整フヘシ
- 九、海岸要塞及ヒ水雷敷設隊ヲ動員シ各準備ヲ整頓ス可シ
- 十、工作船第五十八號第六十二號第六十六號第一〇二號ニ就役ヲ命ス

十一、病院船弘濟丸博愛丸及ヒ第三十六號第四十號ハ就役シ三月四日マテニ佐世保ニ在ルヘシ

鎮守府司令長官(電報)

十二、各軍港ニハ港口閉塞ノ爲メ防材ヲ張ルヘシ

平壤日本領事共ノ他駐外總日本領事(電報)

十三、港内ヲ監視シ總テ露國ノ開戰準備ニ關スル事件ハ細大漏ラサス報告セラルヘシ

鎮守府司令長官(電報)

十四、總軍艦ニ各艦満載額ノ三分ノ一ノ英炭ヲ供給スヘシ

各鎮守府司令長官及ヒ各府縣知事(電報)

十五、帝國領域ニ存在シ又向フ三箇月間ニ輸入サルヘキ總石炭ヲ買收スヘシ私人竝ニ會社ヘノ拂

下ハ各府縣知事及各鎮守府司令長官ノ許可ヲ請ハシムヘシ

佐世保鎮守府司令長官(電報)

十六、水雷母艦豐橋ニ水雷ヲ満載シ三月六日護衛艦ト共ニ釜山ニ到ルノ準備ヲナスヘシ

同官(電報)

十七、運送船一隻ヲ機裝シ之ニ海軍將校一名ノ監督ヲ附シ對馬ヨリ釜山ニ到ル第二海底電纜敷設

ヲナサシムヘシ

基隆軍港司令官(電報)

十八、露國ト開戰ハ避クヘカラス露國艦隊及ヒ運炭船ノ出入港ヲ監視シ之ニ應スルノ手段ヲ講ス

佐世保鎮守府司令長官へ(電報)

十九運送船第二十七、第三十一、第三十八、第四十二、第四十八、第五十六、第五十九、第六十七、第八十、第八十三及ヒ第二十號ヲシテ一師團ノ輸送ニ應スルノ準備ヲ整ヘシメ三月八日マテニ乗船搭載ヲ終ル如ク充分之ニ協力スヘシ

第十二師團第一旅團長へ(電報)

共ノ旅團ハ釜山ニ上陸スル管運送船へノ乗込ミハ三月八日ニ結了スルカ如ク佐世保へ向ケ出發スヘシ兵七〇〇〇人砲十八門馬匹四〇〇頭軍夫二五〇〇人ニ對スル運送船ハ佐世保鎮守府司令長官ニ於テ準備スヘキ旨命シ置キタリ總軍需品ハ三箇月分ヲ携帯スヘシ

各鎮守府司令長官及ヒ各府縣知事へ(電報)

二十一陸海軍動員ニ關スル命令ヲ發表シ之ヲ實行スヘシ

各鎮守府司令長官及ヒ在外帝國軍艦々長へ(電報)

二十二、三月十二日帝國艦艇ノ所在ハ左ノ如シ

佐世保

戰艦富士、八島、敷島

巡洋艦笠置、千歲、高砂、吉野、秋津洲、臺灣ヨリ、明石、豐橋

驅逐艦 六隻

運送船 三隻

釜山

鎮遠、比叡、金剛、高雄、濟遠、筑紫

通報艦龍田、八重山

二等水雷艇 八隻

元山

淺間、常磐、松島、嚴島

假裝巡洋艦第一及ヒ第九號

威海衛

須磨、千代田

假裝巡洋艦第十五、第二十九、第三十九及ヒ第四十五號

平壤

浪速、高千穂、橋立、出雲、千早

驅逐艦 六隻

運送船 一隻

爾餘ノ諸艦ハ日本軍港ニアリ

各鎮守府司令長官へ(電報)

二十三、領海區域線ヲ境界トシ各軍港ニ水雷ヲ敷設スヘシ

三月九日

各鎮守府司令長官及ヒ在平壤及ヒ在威海衛枝艦隊司令官ヘ

二十四、在平壤及ヒ威海衛枝艦隊ハ三月十二日ヨリ旅順口ニ在ル露國軍艦ヲ封鎖スヘシ運送船第

十五號ニハ輕氣球隊ノ乗組アリ

同日

吳鎮守府司令長官ヘ

二十五、第四及ヒ第五師團ヲ乗船セシメ乗船ノ後ハ總運送船ヲ三月十二日拂曉マテニ下ノ關ニ集

合セシムヘシ

海軍中佐ミツリツチヲ輸送船隊指揮官ニ任ス(譯者曰ク海軍中佐ミツリツチハ作業ニ服スル學生ナリ)

在元山枝艦隊指揮官ヘ

二十六、驅逐艦曙ハ三月十二日共ノ隊ニ合スル爲メ佐世保ヨリ回航ノ筈ナリ貴官ハ同日ヨリ戰鬥行爲ヲ開始スヘシ

所轄鎮守府司令長官ヘ

二十七、函館長崎東京灣及ヒ艦隊出港後ハ佐世保軍港ニ水雷ヲ沈置スヘシ

在釜山枝艦隊司令長官ヘ

二十八、共ノ麾下通報艦八重山及ヒ龍田ヲ十二日午前八時迄ニ對馬ノ南端ニ派遣シ同地點ニ於テ

主力艦隊ニ合セシムヘシ

在佐世保艦隊司令長官ヘ

二十九、貴官ハ麾下聯合艦隊ヲ率井十二日午前八時頃下ノ關ノ視界ニ在ルヘシ陸軍運送船隊ハ下ノ關ヨリ出テ共ノ隊ニ合スル筈貴官ハ之ヲ水浦迄護衛スヘシ

陸軍運送船隊指揮官及ヒ下ノ關軍港司令官ヘ

三十、十二日午前八時我カ主力艦隊ハ下ノ關ノ視界ニ來ル筈貴官ヘ同刻マテ充分迅速ニ出港ノ用意ヲ整ヘ艦隊ノ地平線ニ現ル、ヤ直ニ運送船隊ヲ率井出港スヘシ

在歐洲艦隊先任艦長ヘ

三十一、三月十二日以後露國軍艦ニ海上ニ遭遇セハ之ニ對シ自己ノ優勢ヲ認メタルトキノミ砲火ヲ啓クヘシ但自己ヨリモ優勢ノ敵ト遭遇スルニ於テハ努メテ之ヲ避クヘシ

臺灣島地方官及ヒ諸島司ヘ

三十二、島司ハ通航スル艦船ヲ認メタルトキハ總テ最近電信局ヲ經テ其ノ旨大本營ヘ電報スヘシ

三月十一日

通報艦龍田艦長ヘ

三十三、共ノ艦ハ琉球列島ニ沿ヒ臺灣ニ航シ各島ニ就キ露艦隊ヲ認メサリシヤヲ訊問シ各電信局

ヲ經テ其ノ旨電報スヘシ

在釜山枝艦隊指揮官へ

三十四運送船隊ニシテ揚陸ヲ終リタルトキハ直ニ廣島ニ歸航ヒシメ次回輸送ノ準備ヲナサシム  
ヘシ

海軍部内へ辭令通報

三十五運送船隊指揮官海軍中佐ミツリツチ病氣ニヨリ其ノ職ヲ免セラレ海軍中佐ウオリチャツ  
スキー之ニ代ル(譯者曰ク擔當ノ學生實際ニ病氣ニ罹リタルナリ)

三月十四日

艦隊命令

三十六木浦ヨリ平壤ニ到ル運送船隊ノ護衛艦ヲ秋津洲千歲明石千早驅逐艦六隻運炭船第四號ト  
定ム

三月十四日

艦隊命令

三十七木隊ハ木浦ニ寄港ス各艦ハ運炭船ヨリ石炭ヲ滿載シ充分ノ汽釐ニ在ルヘシ

戰艦々隊及ヒ各枝隊命令

三十八各艦ノ番號符ハ艦隊運動程式ニヨル

三月十五日

平壤枝隊指揮官へ

三十九水雷運送船豐橋譯者曰ク時ニハ水雷母艦トナリ時ニハ水雷運送船トナル)ヲシテ佐世保ニ  
回航ヒシメ同軍港ノ水雷敷設ニ從ハシムヘシ

竹敷要港司令官へ

四十一水雷敷設隊ヲ釜山ニ派遣シ同港ニ水雷ヲ沈置セシムヘシ

三月十七日午前六時

護衛艦隊指揮官へ

四十二平壤ニ駐ルヘキ部隊ノ揚陸ヲ終リタル後ハ巡洋艦千歲明石秋津洲ハ出港シ封鎖艦隊ニ合

スヘシ

若シ封鎖状態ニシテ異狀ナキヲ認ムレハ木浦ニ到リ主力艦隊ニ合スヘシ

三月十五日

平壤枝隊指揮官へ

四十三封鎖艦隊ハ旅順及ヒ大連灣ニ近接シ封鎖ヲ嚴密ニ行フヘシ

三月十九日午前八時

戰艦小隊信號

四十四直ニ抜鎖戰闘航行序列制レ

本隊佐世保ニ向フ

三月十六日

艦隊辭令通報

百四十六

四十五元山枝隊指揮官海軍中佐バルスチ木職ヲ免セラレ海軍中佐イワノフ之ニ代ル

三月二十日午前八時

戰艦小隊命令

四十六各艦ハ石炭ヲ滿載スヘシ

三月二十日

通報艦千早艦長へ

四十七其ノ艦ハ石炭ヲ滿載ノ上小笠原群島ニ向ヒ出港シ露國戰艦ノ在否ヲ偵察スヘシ群島ノ視界ニ入りタルトキハ外國軍艦旗ヲ掲揚シ之ニ近接スヘシ  
若シ露艦ノ在港ヲ認メタルトキハ其ノ來航ノ目的ヲ晦マスタメ東ノ針路ヲ執リ水平線下ニ隠ル、迄急航シ其ヨリ日本ニ向フノ針路ニヨリ歸航スヘシ

運送船第十九號艦長へ

四十八南ノ針路ヲ執リ厦門ニ寄港シ其ヨリ香港新嘉坡附近ノ諸港灣ニ露國戰艦ノ在否ヲ偵察シ歸航ニツイリピン群島ヲ偵察スヘシ航行中ハ外國々旗ヲ掲揚シ且成ルヘク自己ノ目的ヲ晦マスコトヲ努ムヘシ

各司令官へ

四十九三月十二日宣戰布告セラレタリ

三月二十一日

各鎮守府司令長官へ

五十揚陸ヲ迅速ナラシムルタメ各陸軍運送船ニ四隻ツ、ノ傳馬船五十人乗ヲ供給スヘシ

三月二十一日

戰艦小隊司令長官へ

五十一戰艦小隊及ヒ總偵察艦ハ三月二十三日午前八時マテニ下ノ關ニ集合シ相合シテ陸軍運送船隊ヲ平壤ニ護衛スヘシ

三月二十一日午後十一時

各指揮官へ

五十二情報ニヨレハ巡洋艦「ロシール」及ヒ「リュウリク」ハ二十日夕刻濃霧ニ乘シ浦鹽斯德ヲ出港セリ貴官ハ之ヲ警戒スヘシ鎮守府司令長官ハ麾下水雷艇隊ヲシテ攻撃ヲ試ミシムヘシ津輕海峽及ヒ對馬海峽ハ特ニ警戒ヲ要ス

浦鹽小隊指揮官へ (譯者曰ク浦鹽ニ當ラシムル故此ノ名アリ)

五十三巡洋艦淺間及ヒ常磐ハ二等水雷艇十一隻ト共ニ對馬海峽ヲ警戒シ露國巡洋艦ノ出現スルトキハ之ヲ擊沈スヘシ

元山枝隊指揮官へ

五十四浦鹽斯德ノ封鎖ニハ假裝巡洋艦二隻ヲ港口ノ防禦ニハ松島及ヒ驅逐艦一隻ヲ當ラシムヘシ

百四十七

シ尙貴官ニ二等水雷艇八隻ヲ附ス

各鎮守府司令長官へ

五十五、韓國及ヒ對馬ノ沿岸防禦水雷艇ノ外一等二等ノ總水雷艇ヲ下ノ關ニ集合セシムヘシ此ノ中最初ニ集合セル二等水雷艇八隻ヲ直ニ元山ニ派遣スヘシ

鎮守府司令長官へ

五十六、工作船第五十八號及ヒ病院船第三十六號及ヒ第四十號ヲ平壤ニ工作船第六十二號及ヒ病院船弘濟丸ヲ釜山ニ工作船第一〇二號ヲ下ノ關ニ派遣シ所在指揮官ノ區處ヲ受ケシムヘシ

水雷運送船豐橋及ヒ通報艦龍田艦長へ

五十七、露領日本海沿岸ヲ偵察シ巡洋艦「ロシーヤ」及ヒ「リューク」ノ行先ヲ探究スヘシ豐橋ハ歸航ニハ元山ニ寄港シ水雷敷設ニ要スル材料ヲ同指揮官ニ交附スヘシ

三月二十二日

關係ノ鎮守府司令長官へ

五十八、陸軍運送船ノ韓國ニ向ヒ出港スル毎ニ海岸要塞砲及ヒ彈藥ヲ搭載スヘシ其ノ數量ニ關シテハ豫メ電報ヲ以テ平壤釜山元山及ヒ陸軍省ト協議ヲ整ヘルヲ要ス之カ輸送ヲ遂行スル毎ニ其ノ旨大本營幕僚ニ報告スヘシ

關係ノ鎮守府司令長官へ

五十九、陸軍兵ヲ搭乘セル運送船ハ三月二十三日朝下ノ關ヨリ我カ艦隊ノ同地地平線ニ現ル、ヲ

待チ直ニ出港セシムヘシ

戰艦小隊司令長官及ヒ運送船隊指揮官へ

六十、平壤ニ揚陸ヲ終リタル運送船ハ各自ニ瀨戸内海ニ還ラシメ全隊ノ揚陸ヲ終リタル後戰艦小隊ハ下ノ關ニ歸航スヘシ

三月二十二日

平壤枝隊指揮官へ

六十一、陸軍兵ノ揚陸ヲ終リタル後貴下ノ指揮ヲ受クヘキ艦艇左ノ如シ

巡洋艦 浪速及ヒ高千穂

驅逐艦 六隻

一等水雷艇 六隻

運送船 第四號及ヒ第五號

假裝巡洋艦第十五號第二十九號第三十九號及ヒ第四十五號ハ旅順封鎖艦隊ニ合セシム

三月二十四日ヨリ工作船第五十八號病院船第三十六號及ヒ第四十號ヲ貴官ニ屬セシム

自餘ノ艦艇ハ皆戰艦小隊ノ司令長官ノ麾下ニ入ル

各鎮守府司令長官へ

六十二、管區諸港灣ニ水雷ヲ沈置シ防材ヲ張ルヘシ但帝國艦船及ヒ中立國商船ノ出入港ヲ妨害抑留スル等ノコトナカラシムヘシ

三月二十四日

關係鎮守府司令長官へ

六十三病院船博愛丸ヲ下ノ關ニ回航セシメ戰艦小隊司令官ノ區處ヲ受ケシムヘシ

戰艦小隊司令官へ

六十四運炭船第三號ヲ元山ニ回航セシメ同枝隊指揮官ノ區處ヲ受ケシムヘシ

元山釜山及ヒ平壤枝隊指揮官へ

六十五(關係)鎮守府司令長官ト協議ノ上所要ノ海岸要塞砲及ヒ其ノ彈藥ヲ同官ヨリ配給ヲ受ケ此ノ材料ニヨリ海岸要塞ヲ築キ港灣ノ防禦ヲ計畫スヘシ

監視哨兵ヲ編成スヘシ

陸上石炭置場ヲ設クヘシ

亞米利加丸ヲシテ日本丸ト互ニ交代シ元山ヲ根據トシ浦鹽斯德港口ニ在テ敵ヲ監視セシムヘシ

元山枝隊ニ屬セサル爾餘ノ艦船ハ皆下ノ關ニ回航セシム

六十七(譯者)曰ク六十六ヲ脱ス(四月一日)

旅順口封鎖艦隊ニ左ノ艦艇ヲ增加ス

巡洋艦 淺間 常磐 浪速 高千穂

假裝巡洋艦 第十五號 第二十九號 第三十九號 第四十五號

驅逐艦 六隻平壤枝隊ヨリ

大連灣ノ掃海及ヒ同地所在敵ノ陸上砲臺及ヒ敵艦ヲ擊滅セシムルタメ左ノ艦艇ヲ當ラシム

戰艦 扶桑 鎮遠 高雄

巡洋艦 嚴島 和泉

報知艦 八重山

假裝巡洋艦 第五十一號 第五十二號

一等水雷艇 六隻下ノ關ヨリ

運炭船 第四號

汽船 第一四八號 第一四九號

本命令ヲ遂行セシムルタメ巡洋艦淺間及ヒ常磐ニハ爾他ノ艦艇ト合センカメ下ノ關ニ急航ヲ命セリ釜山ヨリスルモノハ四月二日對州ノ南端ニ於テ平壤ヨリスルモノハ四月二日早朝大連灣ニ於テ各艦隊ニ合スヘキヲ命シ置キタリ

陸海軍部内へ命令

六十七ノ二(四月六日)

百隻ノ運送船ヲ以テ陸軍部隊第二梯團ヲ輸送スルタメ之カ護衛艦隊ヲ左ノ諸艦ヨリ編成ス

戰艦 富士 八島 敷島

巡洋艦 高砂 笠置 千歲 吉野 千代田 須磨 秋津洲 明石

通報艦 宮古

驅逐艦 五隻  
 一等水雷艇 十三隻  
 假裝巡洋艦 第五十四號 第五十六號 第五十八號及ヒ「マッコ」譯者曰ク此ノ名不詳  
 艦隊ハ四月六日出港スヘシ

二個師團ハ之ヲケル大審口灣及ヒ深灣ニ揚陸シ困難ノ場合ニハピクトリア灣ニ於テスヘシ之  
 カ掩護トシテハ戰艦扶桑及ヒ鎮遠巡洋艦嚴島和泉高砂笠置千歲秋津洲海防艦高雄通報艦八重  
 山及ヒ假裝巡洋艦二隻驅逐艦五隻及ヒ一等水雷艇八隻ヲ命ス  
 他ノ二師團ハ鳩灣ニ上陸スヘシ揚陸地點マテノ護衛海岸砲擊及ヒ掩護トシテハ戰艦富士八島  
 敷島巡洋艦吉野千代田須磨明石通報艦宮古一等水雷艇十一隻假裝巡洋艦二隻ヲ命ス  
 陸上砲擊ノ際ハ艦隊ノ各艦ヲ二列ニ排列シ其ノ第一列ニ巡洋艦ヲ第二列ニハ戰艦ヲ列シ砲彈  
 ハ榴霰彈及ヒ花環榴霰彈ヲ用フヘシ若シ陸上ニ敵兵ヲ見サルトキハ直ニ運送船ヲ港奥ニ入ラシ  
 メ投錨シ總端艇ト命令第五十一號ニ基ク傳馬船トハ迅速ニ揚陸ヲ行フヘシ  
 陸岸砲擊ノ第一發ト共ニ旅順封鎖艦隊モ重砲ノ間接射擊ヲ以テ市街錨地及ヒ要塞砲臺ニ向ヒ  
 猛烈ノ砲擊ヲ加フヘシ

運送船隊指揮官及ヒ陸軍部内へ命令

六十八(四月十日)大審口ニ揚陸ヲ終リタル運送船ハ直ニ瀬戸内海ニ歸航シ陸軍省ノ指示ニ基キ軍  
 需糧秣其ノ他ノ貨物ヲ搭載スヘシ此等諸軍用品ハ運送船ノ準備都合ニヨリ釜山元山及ヒ平壤

ニ輸送セラルヘキモノトス

海軍部内へ命令

六十九(四月十九日)左記ノ諸艦ハ海軍中佐ウオリチヤツスキノ指揮ノ下ニ偵察戰隊ヲ編成スヘ  
 シ本戰隊ノ任務ハ木浦ニ到リ露國艦隊ヲ偵察シ若シ之ヲ發見スルトキハ接觸ヲ保チ同日ノ夜  
 若クハ便宜ノ機ヲ撰ンテ水雷攻撃ヲ加フルニアリ幸ニ任務ヲ成功セハ平壤或ハ下ノ關ニ還ル  
 ヘシ水雷攻撃ニ増援ヲ必要ト認ムルトキハ電信(無線)ヲ以テ釜山若クハ對馬ヨリ水雷艇ヲ召喚  
 スルコトヲ得

- 三等巡洋艦 須磨 明石
- 通報艦 龍田 千早
- 假裝巡洋艦 第十五號
- 運炭船 第四號
- 驅逐艦 十一隻
- 一等水雷艇 十七隻

艦隊へ

七十戰團艦隊ハ海軍中佐ベラエフノ指揮ノ下ニ左ノ諸艦ヨリ成ル  
 戰艦 富士 八島 敷島 朝日(回航ヲ果セリ)  
 一等巡洋艦 淺間 常磐 出雲後ヨリ合同ノ筈



二等巡洋艦 高砂 笠置 千歳 吉野  
 三等巡洋艦 秋津洲  
 通報艦 八重山 宮古  
 假裝巡洋艦 第十九號 第二十九號 第三十九號 第四十五號 第五十一號 第五十二號  
 運炭船 第五號  
 艦隊ハ下ノ關ニ回航スヘシ

艦隊へ

七十一、左ノ諸艦ハ海軍中佐イリノフノ指揮ノ下ニ獨立小隊ニ編成シ佐世保ニ到リ同軍港ヲ根據地トシテ濟州島ヨリ九州南端ニ到ル間ノ海面ノ偵察勤務ニ服スヘシ

二等巡洋艦 松島 嚴島 浪速 高千穂 高雄  
 三等巡洋艦 和泉 千代田  
 假裝巡洋艦 第五十四號 第五十五號 第六十八號

艦隊へ

七十二、海軍中佐ザゴリヤンスキー、キーセリノ指揮セル戰艦扶桑鎮遠及ヒ海防艦高雄砲艦筑紫ハ釜山ニ回航スヘシ

七十三、水雷運送船豐橋ハ戰艦小隊ト共ニ下ノ關ニ到リ命ヲ待ツヘシ  
 七十四、

二等水雷艇六隻 平壤ノ防禦ニ充ツ

一等水雷艇八隻及ヒ二等水雷艇八隻 對州ノ防禦ニ充ツ

二等水雷艇八隻 釜山ノ防禦ニ充ツ

二等水雷艇八隻、驅逐艦一隻 元山ノ防禦ニ充ツ

尙此ノ以外別港ノ諸港ニ在留スル艦艇ハ何レモ其ノ港ニ殘ルヘシ

竹敷及ヒ釜山要港司令官へ

七十五、水雷艇隊ノ補助トシテ對馬兩側海峽ニ嚴密ナル監視ノ方法ヲ講スヘシ

海軍大尉ビメノフヲ竹敷要港司令官ニ任ス

海軍中佐スホムリへ

七十六、貴官ハ運送船一隻ヲ指揮シ夜ニ乘シ之ヲ港口ニ沈メテ露艦ノ通路ヲ閉塞スヘシ

運送船隊指揮官へ

七十七、(四月十九日)運送船ノ歸航シ得ルモノハ直ニ之ヲ下ノ關ニ還ラシメ傷病兵ノ輸送ニ從事セ

シムヘシ

在敦賀陸軍部隊指揮官へ

七十八、第四梯團ヲ乗船セシメ新浦ニ向ヒ出港スヘシ

四月二十一日

艦隊へ

七十九各艦艇ハ需品ヲ搭載シ航海準備ヲナスヘシ

佐世保鎮守府司令長官及ヒ偵察戰隊指揮官ヘ

八十(四月二十一日)假裝巡洋艦第一及ヒ第九號ハ木浦ニ到リ戰隊ニ合スヘシ

各鎮守府司令長官ヘ

八十一(麾下)總三等水雷艇ヲ函館ニ集合セシムヘシ

運送船隊指揮官ヘ

八十二(四月二十四日)第四梯團ヲ新浦ニ上陸セシムヘシ

在佐世保戰隊指揮官ヘ

八十三(四月二十九日)戰隊ヲ率井木浦ニ到リ同港ニ於テ戰艦々隊ト合スヘシ

戰艦々隊信號

八十四(四月二十九日)午後八時直ニ拔錨二列縱陣ノ航行序列ヲ制リ速力十二節如何ナル場合ニ在

テモ集合點ヲ木浦ト定ム

海軍大尉ビームノフ(譯者曰ク彘ニ竹敷要港司令官ナリシモノ)ノ麾下ニアル水雷艇隊信號

八十五(四月三十日)午後五時半三等巡洋艦須磨及ヒ通報艦龍口ハ總艇隊一等艇八隻二等艇十二隻

ヲ護衛シ平壤ニ到リ何レモ同港在泊ノ運炭船ヨリ石炭ヲ滿載シ更ニ同地警備ノ水雷艇ヲモ率

井五月二日ヨリ三日ニ移ル夜間ニ機ヲ見テ大連ニアル露國艦隊ニ水雷攻撃ヲ加ヘシムヘシ

第二水雷艇隊司令ヘ

八十六(五月二日)大連ニ到リ三日ヨリ四日ニ遷ル夜間ニ露國艦隊ヲ襲撃スヘシ

總艦ヘ

八十七(五月二日)午前十一時直ニ拔錨戰隊序列ニ排列スヘシ

大連灣ニ向フ

平壤ヘ

八十八(總水雷艇ノ襲撃ヲ終リタル後)平壤ニ歸航スル筈ナリ此等諸艇ノ歸航セハ再出港五月四

日拂曉マテニ我カ艦隊ニ合スルヲメ大連灣ニ向ハシムヘシ艦隊ハ露國艦隊ト交戦ノ筈再出港

セシムルトキハ三隻ツ、ノ小隊ヲ編制シ航行セシムヘシ

(註) 經過日誌電案製圖原稿等ハ海軍大學校ノ事務書類中ニ保存シアリ

○附錄第十三 作業ノ結論(陸軍ノ部) 參謀陸軍中佐 男爵コル フ述

戰役ノ畫策

日本カ戰役ノ初期ニ於テ戰鬪ノ行ハルヘキ局面ニ動カシ得ヘキ甚タ優勢ノ兵力ヲ有スルコト、  
我カ豫備部隊ノ到達遲延スルコト、ハ全戰役ヲ畫策スルノ條件トナレリ勿論本戰役ノ終局ノ目  
的ハ大陸ヨリ日本軍ヲ擊退スルニ在リト雖モ而モ尙攻撃動作ヲ執ラサルニアラス但此ノ目的ヲ  
達センニハ全兵力ヲ集中シタル後ナラサルヘカラス既ニ前章ニ陳述スルカ如ク戰鬪ノ發動ハ日  
本ノ手ニ移レルヲ以テ吾人ハ戰役ノ初期ニ於テハ防禦ニ甘スルノ外策ナシ

戰鬪局面ノ餘リニ廣大ニ過クルヲ以テ單ニ最必要ナル部分即チ其ノ存亡ハ攻略上竝ニ戰略上ニ著シキ影響ヲ來ス可キ部分ノ防禦ニノミ限ルコト、セリ  
故ニ左ノ建策ヲナセリ

- (一) 馬山浦ニハ如何ナル陸軍部隊モ之ヲ派遣セサルコト
  - (二) 關東州ヲ援クルコトハ全然不可能ニ屬スルヲ以テ之カ防禦ハ其ノ衛戍ニ一任シ軍艦數隻殊ニ水雷艦艇ヲ附シ協力セシムルコト
  - (三) ノウオキエフスク軍團烏蘇利州及ヒハミロフスク衛戍等ノ諸部隊ヨリ成ルヲボシエント灣ニ配置シ直接ニハ此ノ方面ニ於ル敵ノ揚陸ヲ防カシムルコト又攻撃動作ヲ執リ浦鹽斯德ノ防禦ニ協力セシムルコト(浦鹽ノ衛戍ハ少數ノ野戰部隊ト海軍陸戰隊トヲ以テ増勢ス)
  - (四) 滿洲軍團(自餘ノ諸兵ヨリ成ル)ヲ中央松花江域ニ集中スルコト是敵ニシテ一旦中央滿洲ヲ占領センカ特ニ策源地トシテ有效ナルヘキヲ以テ甚タ危險ナレハナリ
  - (五) 總兵力ノ集中ハ戰局ノ發展ニ應シ或ハ之ヲ中央松花江域カ或ハ北韓ノ中央區域ニ於テスルコト
- 最後ノ建策(五)ハ若シ北韓ニ揚陸セル敵ニシテ後ニ及ヒ全力ヲ以テ關東州ニ向ヒ行動ヲ企ツルノ場合ニ於テ其ノ然ルヲ見ル此ノ時ノウオキエフスク軍團ハ集中部隊ノ前衛トナリ同時敵ノ延長セル正面ニ對シ壓力ヲ加フルコト、ナルヘシ

戰略ノ實行

(イ) 主戰局面ニ於ル動作 主戰局面ニ於テハ作業期間(三月一日ヨリ五月四日マテ)ヲ通シ毫モ戰略的發展ヲ見ルニ到ラス但滿洲軍團ヲ集中スルニ於テアラユル手段ヲ講シ伯都納ニハ六月十日ニ吉林ニハ六月十日ニ終結セラレ得ルカ如キ強行ナル而モ左ホトニ著シカラサル活動ヲ見タリ前線ニ於テノ動作ハ偵察ニ止リ此ノ結果ノウオキエフスクヨリ鴨綠江口ニ通スル電信架設ノ絶對的必要ヲ感シ又此ノ線ヲマフラン村ヨリ吉林ニ連絡スルコトモ望マシク感セラル日本ノ一師團カ關東州ヨリ北進シ(下)出奉天ニ向フモノニ對シテハ吉林ヨリ優勢ナル前衛ヲ向ケンメタリノウオキエフスク軍團ハ日本軍ノ主力大同江口ニ上陸セルノ報ニ接シ之ヲ北韓ニ向ヒ其ノ中央區域ニモ中央松花江域ニモ前進セシメ得ヘキ道路ノ交叉點マテ前進セシメラル此ノ如ク概シテ戰略的發展ノ安全ヲ保證スルタメノ出來ルタケノ手段ヲ執ラレタルナリ然ルニ我カ主戰艦隊ノマラツカ群島ニ向ヒ出航セルノ事實ハ勿論今回作業ノ想定上ヨリ起リタルモノニシテ實際ハ可能ノコトニハアラサルモ此ノ事實アルカタメ戰役ノ初期ニ當リ我カ行動ニ大打撃ヲ加ヘタリ日本ハ之ニヨリ確乎タル制海權ヲ攫收シ此ノ結果恰モ平時ニ於テスルカ如ク韓國沿岸己カ欲スル地點特ニ吉林ヲ距ル最僅ノ距離ニ在ル位置ニ陸軍兵ヲ揚陸セシムルニ到レリ日本ハ尙モ之ニテ満足セス一部ヲ鎮南浦ニ他ノ一部ヲ新浦ニ上陸セシムルニ於テ成功セリ其ノ新浦ニ上陸セル部隊ハ我カノウオキエフスク軍團ヨリモ劣勢ナリシモ而モ我ノ之ニ對シ攻撃ヲ加ヘタルトキ日本ノ他ノ部隊ヲシテ我ヨリモ早ク北韓ノ中央區域ニ達セシメ我カ増援軍ヲ個々ニ離散セシムルタケニ持テ堪ヘタリ是カ爲メ我カ兩軍團ヲ連絡セシムルノ策ハ爰

ニ全ク斷念スルノ止ムヲ得サルニ到リ兵力ノ集中ハ最安全ノ策トシテハ中央松花江城ニ於テスルコト、ナリ又日本軍ノ中央區域ニ向フ前進ニ對シノウオキエフスク軍團ヲシテ一部ノ敗劔ヲ蒙ラスシテ吉林ニ達セシメンニハ旁此ノ策ニ出ツルノ外途ナカラシメ乃チ最後ノ集中モ敵ノ行動如何ニヨリ或ハ吉林トスルカ或ハ滿洲北部ニ於テスルノ止ムヲ得サルニ到ル加之ノウオキエフスク軍團ヲ退却セシムルノ今ハ却テ機宜ニ適シタルモノトナル何トナレハ敵ハ制海權ヲ利用シ要スルタケ潤澤ナル軍需品ヲ自ラ輸送スルヲ以テ其ノ交通線ヲ脅スカ如キ全ク其ノ效能ナケレハナリ此ノ如クシテ我カ艦隊ノ出航ハ敵ノ揚陸ヲ安全ナラシムルノミナラス尙我ニ取り最危險戰略上ナル状態ニ於テ之ヲ斷行セシムルニ到レリ此ノ結果我ヲシテ有利ニ戰略上ノ發展韓國ニ於テヲナサシムルヲ得テ最不利利益トスル滿洲ニ退却スルノ止ムヲ得サラシメ一時ノ間戰鬪ヲ交ヘスシテ我カ策源地區域ヲ占領セラル、ニ到レリ

(ロ) 第二次戰局面ニ於ル動作 此ノ局面ニハ我カ新領地アリ我カ競争ノ新局面アリ之ヲ領有シテ效能ノ未タ何レトモ判明セサル部分等アルカ爲メ此ノ局面ニ對スル動作ハ特別ノ利害ヲ有ス此等ノ關係ヨリ作業中ニモ戰鬪行爲ヲ見ルニ到リ結局前途ノ想像ヲ試驗スルコトヲ得タリ關東州防禦ニ關スル想定ニ付テハ本半島ノ大陸ニ接スル部分ハ三路里ニ過キス(金州地頭其ノ他ノ全周ハ海ニ洗ハル、如キ地形ヲ有シ全世界要塞ノ最大ナルモノニ屬シ而テ旅順ハ實ニ此ノ要塞ノ堅城ナリト認メラレタリ故ニ此ノ地頭ニ於ル我カ陣地ヲ堅メ大連灣ニ砲臺ヲ建築スルノ處置ヲ執レリ之カ爲メ地頭ニ於ル陣地ノ背面ニ近ク敵ノ揚陸ハ困難ノ業トナルヘシ而テ

衛戍兵ノ約三分ノ一ヲ以テ此ノ陣地ヲ守ルコト、定メラレタリ

日本軍ハ非常ノ巧妙ヲ以テ其ノ優勢四七大隊砲一五〇門ト我カ水雷艦艇隊ノ薄弱旅順ニ隱遁スルノ止ムヲ得サルコト、ナレリトヲ利用シ大連灣ノ防禦ヲ破壊シタリ彼等ハ二點ヨリ揚陸ヲ初メタリ即チ最初ニ大窪口ヨリシテ次テ間モナグルイザ澳ヨリセリ之カ爲メ要塞外部ニ攻撃的防禦ノ處置ヲ執ラレタルニモ拘ラス(豫備部隊ヲ鐵道ニテ輸送ス)尙ルイザ澳ニ上陸セル敵ノ勢力ハ全衛戍ノ勢力ニ二倍セルヲ以テ之カ爲メ中斷セラル、ノ危險アリ遂ニ我カ部隊ヲ旅順ナル城廓内ニ集中スルノ止ムヲ得サルコトニ陥ラシメタリ

日本軍ハ一週ヲ要シ其ノ揚陸ヲ終リタル後ハ旅順ニ對シ二回ノ總攻撃ヲ試ミタリ但審判官ハ之ヲ認メテ無効ノモノトセリ是ニ於テ地頭ニ一師團ヲ駐メ残り部隊ノ一部ヲ奉天ニ他ノ一部ヲ鴨綠江ノ中流ニ向ヒ韓國ニ行動スル主力ト合同センカ爲メ鴨綠江口ニ進メタリ然ルニ我カ水雷艦艇隊ハ第一回總攻撃ニ際シ封鎖ヲ脱シ突出ヲ試ミ此ノ時其ノ大部分ヲ亡ヒシモ其ノ殘部ハ南方ヨリ歸航スル(合同ヲ果シ)我カ艦隊ニ合シ恰モ旅順危急存亡ノ状態ヲ通スルコトヲ得タリ是ニヨリ本艦隊ハ直ニ旅順ノ救済ニ急航セリ但此ノ時日本軍ハ地頭ニ駐屯スル一師團ノ外此ノ附近ニ現在セス是ニ於テ艦隊ハ大連灣ニ入り漸クニシテ石炭搭載ニ從事シツ、アルノ間ニ優勢ナル日本水雷艦隊ノ襲撃ヲ蒙ルコト二回ニ及ヒ次テ又日本戰艦々隊ノ攻撃ヲ受ケタリ

推論

戰役ノ一般進行程度ヲ觀察スルトキハ關東州ニ於ル動作ハ其ノ他ノ動作トハ何等關聯ヲ有セサ

ルコトヲ見ル若シ日本軍ニシテ或ハ之ヲ占領スルモノトスルモ或ハ全ク之ヲ放棄シタリトスル  
モノウオキエフスグ軍團ハ其ノ場ニ止リ之ニ反シ滿洲軍團ハ之ヲ中央松花江域ニ集中スレハ可  
ナリ故ニ決戦ハ單ニ雙方ノ主力ニ由リ行ハルモノトセハ關東州ニ於ル動作ハ無形ノ影響ナキニ  
アラストスルモ之ヲ第二<sup>ヒコシグ</sup>次ノモノト認メサルヲ得ス(下出)

我カ目下ノ状態ニ於テ關東州ハ積極的ノ意味ニ於テ何等戰略上ノ效能(其ノ他ノ效能ハ下出)ヲ有  
セス消極的ノ意味ニ於テハ日本カ之ヲ占領シテ韓國ニ於ル地步ヲ固メサルタメ之ヲ日本ノ手ニ  
落チシメサルニ在リ日本軍ニシテ首尾克ク其ノ目的ヲ達シタリトスレハ關東州ニ對スル彼等ノ  
動作ハ單ニ其ノ勢力ノ一部ヲ爰ニ割クニアリ然レトモ此ノ勢力ノ一部タル彼等ノ優勢ニ取リテ  
ハ些細ノコトニ屬シ又我カ集中ノ終ヲサルトニヨリ四五箇月ノ間ハ何等危險ヲ感セストスル所  
ナリ

但日本軍ニ取リ何等危險ヲ感セストスルハ前記四五月ノ間ニ於テノミ然リトス何トナレハ此ノ  
以後ハ日本軍ハ關東州ヲ依然維持スヘキヤ否ヤニ關セス我カ集中部隊ニ對シ彼亦其ノ集中部隊  
ヲ對抗セシムル必要上關東州ニ動作スル部隊ヲモ主戰局面ニ繰出スノ必要ヲ來スヘケレハナリ  
若シ日本軍ニシテ關東州ノ占領ニ餘念ナク飽ク迄之ヲ貫カントセンカ遂ニ其ノ集中ヲ遲延セシ  
ムルカ即チ吉林ニ向フ運動ヲ機ニ後レシムルカ或ハ必要ニ達セサルノ兵數ヲ以テ行フコトハナ  
ルヘレ果シテ然ラハ吾人ニ取リテハ時ニ於テ利スルノミナラス尙戰略上ノ發展ニ最必要トスル  
北韓ノ地區ニ於テモ利スルコトハナルヘシ要スルニ關東州ハ主戰局面ニ於ル我ノ動作ニ對シ最

效力アル積極的ノ功能ヲ有ストスルモ是ハ單ニ充分ノ勢力ヲ配シテ初テ望ム可シ

關東州ノ城塞旅順ニ對スル總攻撃ノ事實ハ本企畫ノ成否ニ關セス最必要ノ問題ニ屬ス元來總攻  
撃ナルモノハ或ハ時ヲ急クカ或ハ冒險ノ必要ニ驅ラル、カ或ハ敵勢力ノ薄弱ナルヲ打算シタル  
トキニ行ハルヘキモノニシテ迅速ニ旅順ヲ占領セントノ企畫ノ行ハル、ハ日本軍ノ勢力ニ頼ム  
所アリ之ニ反シ旅順防備ノ薄弱ナルヲ示スニ足ル前陳ノ如ク旅順ノ陷落ハ目下ノ状態何等戰略  
上ニハ有效ノ效能ヲ生セサルモ其ノ政略上及ヒ無形ノ影響ニ到テハ大ナルモノアリ日本軍ニシ  
テ一旦之ヲ占領センカ堅固ナル基礎ヲ大陸ニ据ヘ隨テ自然ノ傾向トシテ自己ノ覇權ノ下ニ黃色  
人種ノ統一ヲ計リサナキタニ薄弱ナル全白色人種ニ對シ恐ルヘキ大敵ナルヤ明ナリ而テ此ノ大  
敵ニ當ル前衛タル我カ露人ニ取リテハ特ニ然ルモノアリ假ニ現戰役中ニ於テスルカ或ハ平和條  
約締結ノ際ニ於テスルトスルモ等シク我カ租借地ヲ恢復シ得タリトスルモ吾人ノ被ル打撃ヤ實  
ニ痛切ナリトス抑吾人ノ揭揚セル要塞旗カ敵手ニヨリ卸サレタル瞬間ニ於テ吾人ハ既ニ大打撃  
ヲ蒙リタルナリ之ト共ニ亞細亞人カ兼テ懷抱セル吾人ノ打<sup>イヒシシ</sup>チ勝チ難キノ感念ハ爰ニ全ク地ヲ拂  
フニ到ラン此ノ感念ハ亞細亞ニ於ル吾人傳來ノ勸勞ニヨリ創設セラレタルモノニシテ我カ一大  
魔力ノ一ナリ此ノ大魔力アリテコソ露國傳來ノ問題ヲ容易ニ解決センニ與リテカアリトス  
故ニ關東州危急ノ秋ニ當リテハ之カ救済ニ當ルヘキモノ一ニ我カ艦隊ノ天職ナリトシ本作業ノ  
證明スル所ナリトス

但關東州ハタトヒ單ニ艦隊ノ上ニ於テノミ一時其ノ勢力薄弱ナルモ前陳ノ事由ノ存スルヲ以テ

強チ第二次戦局面トナラステ却テ不相當ニモ主戦局面タルノ看ヲ呈セリ此ノ如ク根本的問題ノ矛盾アルヲ以テ結果モ亦自然矛盾スル所ナシトモ試ニ之ヲ見シ第一艦隊ハ沿岸地帯含營及ヒ糧秣ノ集積等ニ對シ砲撃ヲ加ヘ陸上動作ニ協同シ得ルトスルモ全ク旅順ノ包圍ヲ解キ又關東半島ヲ陸上包圍ヨリ救フコト到底不可能ノコトニ屬ス第二旅順ヲ以テ我カ艦隊ノ根據地トスレハ狹長ナル黄海ノ一隅ニ戰略上封鎖ノ状態ニ陥ルヲ以テ不利ナリトシ又此ノ被封鎖ノ不利ニ陥ルヲ避ケントセハ其ノ碇泊港及ヒ石炭搭載ノ場所スラ之ヲ旅順ニ於テセスシテ大連ニ於テスルコト、ナル第三若シ日本艦隊ト闘フテ敗北センカ其ノ結果ハ僅ニ其ノ殘艦ノ一部ヲ旅順ノ内港ニ沈メ其ノ兵員ト砲彈トヲ揚ケテ旅順ノ衛戍ニ協力スルニ過キス

夫此ノ如ク關東ノ地利宜シカラサルカ爲メ敵ノ執ラントスル行動ノ主ナル目的ニ應シ關東州ニ何物カ必要ノ施設ヲ待ツコトアリトセハ我カ艦隊ヲ陸上砲臺ノ防禦ニ協同セシムルコトニアリ而テ此ノ如キ艦隊ニ相應ナラサル任務モ單ニ關係的ニ遂行サレ得ルモノトス斯クテ我カ艦隊ハ自己ノ本色ヲ發揮セスシテ海戰トシテハ甚タ不利益ノ状態ニ陥リタルモノトス

旅順ハ何等隱蔽モ便利モナケレハ概シテ我カ太平洋艦隊ノ好策源地タルニ適セス又戰鬪ノ意味ニ於テモ艦隊ノ根據地タルニ適セス

前陳ノ次第ニヨリ旅順ハ艦隊ノ海戰ニ何等貢獻スル所ナシトスレハ關東半島ハ諸般ノ關係ニ於テ薄弱トナリ海陸ノ作戰ニ不利ノ影響ヲ免レストス

サテ之ヲ堅メントナラハ作業ニ示スカ如ク

(イ) 金州地頭以南ノ諸澳ヨリスル敵ノ揚陸ヲ拒クカ爲メ要塞砲臺ヲ築キ又優勢ナル水雷艦艇隊ヲ編成セサルヘカラス

(ロ) 旅順ニ對スル突撃ヲ拒クノ方法ヲ講セサルヘカラス

但此ノ目的ヲ達センニハ關東防禦ニ配備セラレタル固定竝ニ移動ノ兵力ヲ著シク増加セサルヘカラス

同時又北方(例ヘハ仁川以北ナリトモ)ニ行動セントスル敵ノ揚陸ヲ妨害セント欲セハ之ニ當ルヘキ水雷艦艇隊ハ耐海竝ニ戰鬪ノ優性ヲ兼備シ敵カ護衛ノ下ニ在ル時スラ克ク之ニ向ヒ得ルカ如キモノヲ以テ編成スルヲ要ス斯ル艇隊ヲ大同江口(平壤河)ニ到ル全沿岸ニ有スヘシ

結論

右ニ基キ中佐男爵コルフノ意見ニヨリ本作業ノ宣言スル所左ノ如シ

(一) 絶東ニ於テ我カ有スル現今ノ兵力ニテハ馬山浦ハ何等效力ヲ有セス

(二) 敵ノ揚陸地點ヲシテ成ル可ク南方ニ於テセシムルノアラユル手段ヲ執ルヘシ

(三) 旅順ハ我カ艦隊ニ對シ良好ナル策源地トナラサルヲ以テ深ク之ニ注意ヲ奪ハレサルヲ要ス

(四) 關東州ニハ之ニ大ナル施設ヲ加フヘカラス同州ハ之ヲ我カ手ニ占領シ置クニ足ルノ陸上要塞トシテ必要ナリ故ニ如何ニシテモ第二次ノ地點タルヲ免レス

(五) 關東州ハ之ヲ陸上要塞トセハ堅固ナラシムヘシ然ル上ハ元來消極的ニハ邪魔物ナルモ變シテ積極的トナリ我カ作戰ヲ容易ナラシメ敵ノ動作ヲ困難ナラシムルニ到ル

(注) 關東州ハ艦隊ニ對シ數回ノ作戰動作ニ對シ前進根據地トモナリ又中間根據地トモナル馬山浦モ亦然リ

○附錄第十四 作業ニ於ル日本側 參謀中佐 ボグスラフスキ―述

日本側ノ問題ハ韓國ノ占領ニアリ是露國ト衝突ヲ來セルノ原因ナリ  
露國カ太平洋ノ沿岸及ヒ其ノ水面ニ有スル勢力ハ一九〇〇年三月一日ノ現在ニ於テハ遙ニ日本ニ劣レリ但露日兩國ノミノ決闘トスレハ露國ニ海陸豫備部隊ノ増援ヲ待チテタトヒ甚ク遅シトスルモ雙方ノ勢力ハ殆ト均衡ヲ保ツコト、ナルヘシ  
故ニ日本側ニ取リテハ作戰ノ成功ハ最短ノ期日ニ全勢力ヲ發展セシムルニ在リ即チ露軍カ未ダ増援ヲ得サルニ先チ成ルヘク廣キ韓國ノ區域ヲ占領シ一旦爰ヲ占領シタル上ハタトヒ西伯利亞豫備部隊ノ到着スルアルモ克ク之ト對峙シ作戰ヲナシ得ルタケノ部隊ヲ集中スルニ在リ之カ爲メ日本ハ三月一日ヲ以テ海陸ノ總部隊ニ出師準備ヲ令セリ  
陸軍ハ近衛師團ト二個師團即チ總計五萬ノ兵ヲ直ニ海外ニ出發セシメ得ルノ状態ニアリ豫定ノ推算ニヨレハ乗船ノ日(動員完結ノ第一日)即チ三月八日マテニ準備セラレタル運送船隊ノ輸送力ハ二個師團(二萬三千)ヲ輸送スルニ足リ直接露領ニ揚陸セシムルカ若クハ之ニ最近ノ地點ニ揚陸セシムヘキ第一梯團ヲ出發セシムルニ足レリ  
是ヲ以テ揚陸地點トシテハ平壤及ヒ鎮南浦ノ間ニ於テ大同江口ニ之ヲ揀定セラレタリ故ニ之ヲ釜

山ニ於テスルモノニ比スレハ道程ニ於テ著シキ利益アリ(五〇〇露里程ヲ短縮ス)又之ヲ元山ニ於テスルモノニ比スレハ陸上ノ點ニ於テ大ナル安全ト便利ヲ得ルコト、ナル何トナレハ平壤附近ニ於テハ元山ニ於ルヨリモ露ノ大野戰軍所在ヲ離ル、コト遠ク(ボシエツト灣ニ二萬五千)シテ平壤吉林―中央松花江ニ向フ露軍ノ方向ニ對シテハ直接危險ノモノトナレハナリ尙韓國ノ最富裕ナル地方ニ屬シ土地ノ物資ヲ利用シ得レハナリ鴨綠江口ノ上陸ハ海上ノ點ヨリ便利ナラスシテ韓國ノ樞要地點ヲ隔ルコト遠ク爲メニ全韓國ヲシテ日本軍ノ行動以外ニ立タシムルニ到ラン二師團ヨリ成ル第一梯團ノ乗船ハ大阪及ヒ廣島ニ於テ行ハレ三月十五日ニ始リ二日間ニ終結セリ是ヨリ二日前ニハ第十二師團ノ一旅團ハ釜山ニ上陸ヲ遂ケタリ而テ之カ任務トシテハ半島ヲ占領シ釜山ヨリ京城及ヒ平壤ニ互ル交通道路ヲ開鑿スルニ在リ此ノ交通道路ハ一ハ補助的ノモノトナリ一ハ場合ニヨリ下關平壤若クハ下關元山間ノ海上航路ニ代用セララルヘキ豫想ニヨリ設ケラルヘキ管ナリ  
第二梯團ハ第一及ヒ第三師團ヨリ編成セラレ横濱及ヒ四日市ニ於テ乗船ノ管ナリモ露國軍艦數隻ノ日本艦隊ノ監視ヲ脱シ出港シタルノ報ニ接シ運送船隊ノ太平洋ニ出現ハ危險ナリトテ横濱ニ於ル乗船ヲ停止スルノ止ムヲ得サルニ到レリ次テ運送船ノ修理工事ヲ完成セルモアリ又外國航路ヲ停止シタル等ノ事情ニヨリ其ノ數ヲ増加シ第二梯團ノ編成ヲシテ三個師團中二個師團ハ馬四部隊ヲ減縮ス)ナラシムルノ餘裕ヲ見ル  
此ノ如クニシテ第二梯團ノ乗船ハ四日市廣島及ヒ丸龜(四國島)ニ於テ營マレ揚陸地點ハ大同江口

(三月二十五日)ト選ハレタリ故ニ此ノ地ニハ歩兵六十大隊騎兵十四中隊野砲及ヒ山砲一九八門工兵五大隊輜重兵五大隊即チ約六萬ノ兵數ヲ集中スルヲ見ルコト、ナル此等部隊ハ糧食三箇月分ヲ携帶シ(一晝夜每人三、ボント馬一頭ニ付十二、ボント)ノ割充分ノ輸送機關ヲ有セリ(輜重兵大隊及ヒ人夫即チ各師團ニ三〇〇頭ノ輜重馬匹ト二五〇〇名ノ軍夫ト外ニ韓人ノ人夫ヲ備入ル、方法ヲ講シアリ)四月一日日本軍ハ大同江口平壤及ヒ元山防禦ニ要スル枝隊ヲ分チ(總計約一師團ノ四分ノ三)其ノ餘ヲ以テウエル、リム江ニ向ヒ北進ヲ始メ安州定州肅州等ノ地ニ其ノ主力ヲ分駐セシメタリ此ノ間ニ第十二師團(此ノ中京城釜山及ヒ仁川ニ一個大隊ツ、アリ)ノ前頭ハ京城ノ附近ニ達シ初ヨリ京城ニ駐屯セル大隊ト特ニ平壤ヨリ派遣セラレタル部隊トノ協力ヲ得テ釜山京城平壤トノ間ニ連續セル交通道路ヲ開設シタリ(五〇〇露里)

四月十日軍ハ尙北進シ主力ヲウクサンヨイニヨシニ駐メ兵站ヲ安州ニ置き第一及ヒ第二兵站ハ平壤ニ置ク(斥候ハ鴨綠江ニハ歩兵モアリ)

鴨綠江口一ウ井一ウエン一カング一ハムヒングノ線ニ前進セリ此ノ日ノ現在ニ在テ韓國内ニアレ日本ノ總兵力ハ歩兵騎兵ノミニテ七萬ニ達ス

露軍ニ關スル情報ハ得ルトコロ左ノ如シ

軍艦ヨリブリーエンングニ上陸セシメタル陸戰隊ノ報ニヨレハ哥薩克騎兵斥候ハ國境ヲ超エタリ(編艇上陸ハ三月十七日行ハル)次テ四月二日ハムフインングニ於ル斥候ノ報ニヨレハ哥薩克兵一小隊新浦ニ到達セリ

敵情ヲ偵察シ又道路ヲ探究スルノ目的ヲ以テ將校ヲ滿洲ニ入ラシメ又滿洲ノ住民ヲ煽動シテ蜂起セシムルノ處置モ執ラレタリ

釜山元山仁川ノ防備ニモ著手セラル

日本ハ露國海軍豫備艦隊ノ迅速回航シツ、アルノ報ニ接シ殘餘ノ時日ヲ利用シ關東ヲ占領セント焦慮セリ(推算ニヨレハ先ツ二週日幸ニ此ノ時運送船隊ノ輸送力ハ修理ヲ完成シ又外國ヨリ歸航セルモノアルトニヨリ著シキ程度ニ増加シ爲メニ一回ノ往航ノミニテ約五萬人ト馬匹及ヒ輜重ヲ減縮セル砲兵部隊トヲ優ニ輸送スルニ足ル

揚陸ハ要塞砲ノ射界ヲ避ケテ二點ニ於テ又艦隊ヨリハ旅順市街ヲ砲撃シナカラ充分ノ協力ヲ得テ行ハレタリ

即チ揚陸部隊ハ歩兵四十七大隊砲一四四門騎兵四中隊工兵二大隊半(此ノ中ニ鐵道大隊アリ)輜重(馬匹ハ總計三師團分)及ヒ糧食縱列ノ一部トナリ

騎兵五中隊ハ船内ニ殘リタルマ、鴨綠江口ニ向ヒ同地ニ於テ四月十一日豫備糧秣ノ一部ト共ニ揚陸セリ別ニ歩兵一大隊工兵一大隊半及ヒ騎兵一中隊ハ四月十一日營口ニ向ハシメラル本部隊ノ任務ハ此ノ附近地頭ヲ占領スルニアリ

關東州ニ揚陸セル部隊ノ糧食ヲ持續センカ爲メ四月十四日「ジャンク」ノ備入レタルモノ到着ス

四月二十日日本軍ハ(審判官ハ旅順ノ二回總攻撃ヲ無效ト判ス閉塞トシテ地頭ニ一師團(此ノ師團ハ輜重ヲ有セス初ヨリ要塞兵ニ充ツルノ豫定ナリ)シ)殘シ共ノ餘ヲ以テ半島ヨリ出發シ一師團



ハ營口ニ向ヒ(奉天ノ侵撃ニ加ル筈)二師團ハ韓國軍ニ合同スルノ途ニ上レリ  
此ノ行軍ハ金州―營口―義州ノ三角形ノ外邊ヲ行クノ法ニヨリ遂行セラレ敵ヲ見サルト又其ノ  
頂點ハ日本軍隊ノ占領ニ歸スルヲ以テ全ク安全ノモノト認メラル糧食ハ其ノ有スル縦列ト運送  
船便ニヨリ金州ニ集積セラレタル豫備ト徵發隊ニヨリ營口及ヒ義州ニ集メラレタルモノニ據リ  
充分ナリトス

五月一日日本軍ハ露國勢力トノ關係上左ノ集中位置ヲ執レリ

- (一) 鴨綠江ノ北方彎曲部ニ四個師團ヲ配シ其ノ先頭部隊ハ山間ノ諸峠路ヲ占領シ最近キ背後ニ  
一個師團(鴨綠江ノ交通ニ於テ)ト遠キ半島内ニ尙一師團ト鴨綠江ノ左岸ニハ騎兵五小隊四月  
十一日上陸ノモノヲ有ス

- (二) ダグレンヤンノ南ニ二師團アリ五月二十日頃ニハ尙一師團ノ合同スル筈ナリ

- (三) 營口ノ南方ニ一師團アリ奉天ニ向フ途ニ上ル此ノ前衛ハ營口ノ前方ニアリテ(四月十一日揚  
陸セルモノ)ニシテ關東ヨリ騎兵ト合同セリ主力ノ左側ヲ安全ニス

- (四) 關東地頭ニ一師團

- (五) 二萬人歩兵十六大隊騎兵四中隊砲二十四門工兵一大隊ヨリ成ル枝隊四月二十四日新浦ノ附  
近ニ上陸セリ本枝隊ノ任務ハ軍カ滿洲ニ進入スルニ當リ之ヲ掩護スルカ若クハ北韓ニ進入  
スルニ當リ之カ前衛トナルニ在リ第九師團ト(師團司令部敦賀近衛ノ一旅團東京ヨリ鐵道輸  
送)之ニ當リ敦賀ニ於テ關東州ヨリ歸航セル運送船ニ乗船ス(最初ニ空船トナリタルモノ)亞

細亞大陸ニ上陸セル日本ノ總兵力ハ十四萬三千人砲四二〇門即チ十一師團ト近衛師團ノ半ナ  
リ

此等師團ハ平均七月一日マテノ糧食ヲ攜帶シ其ノ以後ハ地方ノ物資ニ藉ルコト、セリ  
給養ノ方法ハ左ノ如シ

第三第四第五第十第十一師團ハ糧食縦列ニヨリ三箇月分ノ糧食ヲ各師團毎ニ所有ス即チ六月十  
五日乃至七月一日迄維持ス彈藥ハ各自渡シ付ケ及ヒ縦列ノ分ヲ合シ平均一週分ヲ有セリ

十二個師團ヲ二回ニ輸送シ其ノ後ハ三箇月分ノ糧食ヲ下關釜山線ノ汽船便ニテ補充セリ

新浦ニ上陸セル部隊ハ自ラ三箇月分ノ糧食ヲ所有シ關東ノ部隊ハ四月十四日頃一箇月分ヲ支那  
人ヨリ調達シ尙本國ヨリ豫備ヲ執リ總計六月一日迄持續スルコトヲ得

毎日ノ給養ノ量ハ每人三三ポンド(米馬一頭ニ付十二ポンド)豆滓トシ一師團ノ三箇月分ノ量ハ六噸  
半トナル

移動部隊ヲ金州―營口―奉天ノ線ニ前進スヘキ豫定ナリシモ此ノ計畫遂ニ實行ニ到ラス

日本ノ防禦トシテ豫定以外ニ尙近衛ノ一旅團ヲ殘サレタリ故ニ最安全ナル推算ニヨルモ日本諸  
島ニハ外征部隊ノ出發後(臺灣ヲ入レ)ニハ野戰軍護郷軍要塞兵及ヒ其ノ他ノ豫備ヲ合シ七萬ノ兵

アリ

(註) 報告第一第二及ヒ其ノ附録ノ詳細處置及ヒ計畫圖等ハ全文ノ儘大學校事務書類中ニ保  
存シアリ

結論

戰略作業ヨリ得タル經驗ノ基礎ニヨリプログスラノスキ―中佐ハ左ノ如ク結論セリ

(一) 露國艦隊ハ自國陸軍兵力ノ集中ニ時日ヲ與フル爲メ日本軍ノ揚陸ヲ阻碍セサル迄モ成ルヘク其ノ地點ヲ遠カラシメ又其ノ時日ヲ遷延セシムルヲ以テ任務ノ目的トセサル可カラス故ニ日本軍ヲシテ平壤ノ代ニ釜山ニ上陸セシメタランニハ露軍カ時日ニ於テ利スルトコロ一箇月半以上ナリ

(二) 日本艦隊ト對抗シ又日本軍ノ海上輸送ノ途ヲ絶タントノ目的ヲ以テゾンド群島ニ集中ヲ計リ之カ爲メ我カ露國艦隊ノ日本ト韓國ノ海面ヲ去リタルコトハ何等利益ヲ齎サ、ルノミナラス寧ロ害ヲ齎セリ何トナレハ日本軍ニシテ一旦三箇月分ノ糧食木作業ニ見タル如クヲ保安シタランニハ本國トノ交通ノ繼續ハ左マテ必要トセサル所ナレハナリ況ヤ韓國ノ物資ハ其ノ自由ニ處置シ得ヘキモノアルニ於テヲヤ又日本群島ノ港灣ニ留ムト其ノ關東ヨリ新浦ニ互ル沿岸ヲ占領スルニ於テハ之カ交通ヲ遮斷スルカ如キハ到底我カ艦隊ノ力及フ所ニアラサルナリ特ニ日本艦隊ニ取リテハ内海ニ隠ル、カ或ハ我トノ衝突ヲ避ケ得ルコト容易トスルニ於テ然リトス

(三) 露國艦隊ノ動作ヲ敏活ナラシムルタメ韓國竝ニ日本ノ沿岸ニ於テ其ノ揚陸輸送ノ根據地タルヘキ港灣ニ關スル諜報ヲ得ルノ機關ヲ設クルコト必要ナリ  
乗船ノ場所トシテ日本港灣ノ紙上ノ材料ハ充分ト認ム可カラス何トナレハ築港問題ハ日本

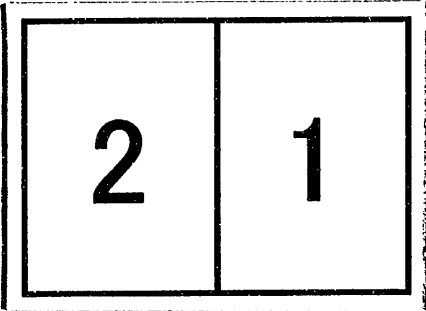
人ノ計畫スルトコロナレハナリ

(四) 露國艦隊ノ任務ハ概シテ攻撃的ヨリハ寧ロ防禦的ニアリトスレハ海軍將校ヲシテ我カ陸軍ノ勢力ト又此ノ勢力ニ協同シテ我カ沿海州邊境ニ互ニ動作スヘキ條件ニ關シ充分ノ知識ヲ有セシムルコト必要ナリ

(註) 實際ニハ艦隊ニハ攻撃的態度ヲ執ラシムルコト有利ナリトス

陸海軍勢力ヲ互ニ知悉スルコトニ關シテハ本戰略作業カ莫大ノ裨益ヲ與フヘキコト疑フ容レス

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第十一師團 第一旅團 海上輸送

執行官	三月一日發セラレタル命令	命 令	執 行	日	日	日	日	日	日	日	
第十二師團長	第一旅團ノ編制ハ步兵二個聯隊騎兵一個中隊砲兵三個中隊ニシテ總人員七千人馬匹四百頭砲十八門車七十二輛ヨリ成立シ三月分ノ糧食薪料ヲ用意シ三月七日マテニ佐世保ニ到着スヘシ	午後二時佐世保ニ騎兵一個中隊糧食薪料合セテ千二百二十三噸到着ス 午後五時同所ニ步兵到着ス	同	同	同	同	同	同	同	同	
佐世保鎮守府 司令長官及 出征旅團長	旅團ニ隨行スヘキ軍夫二千五百人ヲ三月七日マテニ募集シ三月ノ糧食ヲ同日マテニ用意シ運送船ニ搭載スヘシ 三月七日ヲ以テ運送船ニ砲煩馬匹、糧食、薪料ヲ翌八日ニ人員ヲ乘載スヘシ 巡洋艦淺間千歳通報艦八重山龍田ハ釜山ニ至ル運送船ヲ護衛スル用意ヲ爲スヘシ各艦共ニ充分ニ戰闘準備ヲ爲シ又石炭糧食ヲ充分ニ搭載スヘシ 横濱ヨリ入港シタル水雷母艦豐橋ハ水雷敷設用材料ヲ充分ニ搭載シ釜山ニ赴ク部隊ト共ニ同シク出發スヘシ	運送船ノ搭載配當 第二十七號運送船 第一砲兵中隊(砲六門、車二十四輛、馬九十三頭)、行李百十五噸、軍夫三百人 第三十一號運送船 第二砲兵中隊(砲六門、車二十四輛、馬九十一頭)、行李百五噸、軍夫二百人 第三十八號運送船 第三砲兵中隊(砲六門、車二十四輛、馬九十一頭)、行李百五噸、軍夫二百人 第四十二號運送船 糧食百二十噸、軍夫百人 第四十八號運送船 騎兵一個中隊(人員百三十五人、馬百二十五頭)、行李二百四十噸、軍夫二百人 第五十六號運送船 糧食百二十噸、軍夫百人 第五十九號運送船 糧食百二十噸、軍夫百人 第六十七號運送船 糧食百二十噸、軍夫百人 第八十號運送船 糧食百噸 第八十三號運送船 糧食百噸、軍夫百人 第二十號運送船 糧食百四十噸、軍夫百人	同	同	同	同	同	同	同	同	同
釜山領事及ヒ 軍隊上陸掛海 軍大尉	第一旅團ヲ釜山ニ輸送スル爲メ三月六日マテニ第二十七號第三十一號第三十八號第四十二號第四十八號第五十六號第五十九號第六十七號第八十號第八十三號及ヒ第二十號ノ各運送船ヲ佐世保ニ回航セシムヘシ各運送船ハ炭水ヲ充分ニ用意シ内三隻ハ各九十三個ノ隔房ヲ設ケ一隻ハ百二十五個ノ隔房ヲ設ケ自餘ノ設備ハ命令書ニ依ルヘシ 三月八日ノ晚マテニ十隻ノ運送船ヨリ軍隊ヲ下船セシムル爲メ「ジャンク」ヲ用意シ砲煩馬匹「ジャンク」ニ積卸ス爲メ筏舟ヲ用意スヘシ 輸送物資ハ成ル可ク多數ヲ要ス	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	二月二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合ニテ十六隻ヲ用意シ「ジャンク」ハ馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻ツ、ノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	

第一師團第一旅團海上輸送

命令	執行	日	日	日	日	日	日
一日發セラレタル命令	三	月	七	日	同	八	日
團ノ編制ハ步兵二個聯隊騎 中隊砲兵三個中隊ニシテ總 千人馬匹四百頭砲十八門車 輛ヨリ成立シ三月分ノ糧 ヲ用意シ三月七日マテニ佐 到著スヘシ	午後二時佐世保ニ騎兵一個中隊糧食糈秣合セ テ千二百二十三噸到着ス 午後五時同所ニ步兵到着ス	兵員ノ乗船 兵員 三百人	揚陸 馬九十二頭、行李百噸、兵二百人、軍夫二百人	砲六門、車二十四輛、行李百噸、兵百 人			
隨行スヘキ軍夫二千五百人 七日マテニ募集シ三月月ノ 同日マテニ用意シ運送船ニ ハシ	運送船ノ搭載配當 第二十七號運送船 第一砲兵中隊(砲六門、車 二十四輛、馬九十三頭)、行李百十五噸、軍夫 三百人 第三十一號運送船 第二砲兵中隊(砲六門、車 二十四輛、馬九十一頭)、行李百五噸、軍夫二 百人 第三十八號運送船 第三砲兵中隊(砲六門、車 二十四輛、馬九十一頭)、行李百五噸、軍夫二 百人	兵員 三百人 兵員 三百人 第一聯隊第一大隊 九百九十五人	馬九十一頭、行李百五噸、兵二百人、軍夫二百人 馬九十一頭、行李百五噸、兵二百人、軍夫二百人 兵九百九十五人、軍夫五十人、行李六十噸 馬百二十五頭、兵百三十五人、軍夫百人、車百輛	砲六門、車二十四輛、兵百人 砲六門、車二十四輛、兵百人 行李六十噸、軍夫五十人 行李四十噸、軍夫百人 行李六十噸、軍夫五十人 行李六十噸、軍夫五十人 行李四十噸、軍夫二百人			
日ヲ以テ運送船ニ砲、馬 長、糈秣ヲ翌八日ニ人員ヲ乘 シ 淺間千歲通報艦八重山龍田 ニ至ル運送船ヲ護衛スル用 ニ各艦共ニ充分ニ戰闘 爲シ又石炭糧食ヲ充分ニ搭 載シ 入港シタル水雷母艦豐橋 敷設用材料ヲ充分ニ搭載シ 赴ク部隊ト共ニ同シク出發	護衛艦及ヒ水雷母艦ノ用意整ヒ鑄地ニ繫泊シ 八日午後五時蒸氣ヲ起スヘキ命令ヲ受ケリ 各運送船ハ三月六日午後五時マテニ同航シ來 リ波止場ニ繋留シ第二十七號第三十一號第三 十八號ハ馬匹ノ爲メ隔房九十二個ヲ備ヘ第四 十八號ハ同シク百二十五個ヲ備ヘリ 午後二時ヨリ搭載ニ著手シ夜ニ及ヘリ	出征部隊ハ午後五時用意整ヒ午後 五時三十分運送船順次鑄地ヲ出テ 二縱列ヲ以テ護衛艦ヲ其ノ線外ニ 有シ進發セリ 鑄地ヲ出ツルヤ圖ニ示ス如ク整列 シ午後六時三十分針路ヲ平戸島ノ 南端ニ取レリ 午後八時十五分針路ヲ轉シテ釜山 ニ向ヘリ	午前七時釜山ニ近ツク運送船及ヒ水雷母艦ハ 通報艦八重山ヲ前頭トシ單縱列ヲ以テ入港シ巡 洋艦淺間千歲ハ總テ運送船ヲ放テ遣レリ 軍隊ヲ搭載セル運送船ハ深ク灣内ニ入り成ル 可ク港ニ接近シ護衛艦ハ沖合ニ留レリ 午後八時三十分艦船悉ク投錨セリ	巡洋艦淺間千歲通報艦八重山龍田 及ヒ十一隻ノ運送船ハ午後一時ニ 出發ノ用意スヘキ命令アリ 午後一時各艦船鑄地ヲ出テ前ノ陣 形ニ整列シ針路ヲ對馬ノ南端ニ取 リ航進セリ 午後六時運送船ハ佐世保ニ至リ護 衛艦ハ馬山浦ニ引返シ午後十一時 港口ニ投錨セリ	黎明ニ及ヒ巡洋艦淺間千歲通報艦 八重山龍田ハ馬山浦ノ鑄地ニ入り 艦隊ニ合セリ		
八日ノ晩マテニ十隻ノ運送船 半隊ヲ下船セシムル爲メ一 ノヲ用意シ砲、馬匹、トシヤ ニ積卸ス爲メ筏舟ヲ用意ス 物資ハ成ル可ク多數ヲ要ス	二十一日 三月八日午後八時馬匹ヲ搭載セル運 送船一隻ニ對シ筏舟四隻ツ、ノ割合 ニテ十六隻ヲ用意シトシヤンクハ馬匹 ヲ搭載セル運送船ニ對シ八隻ツ、 馬匹ヲ搭載セル運送船ニ對シ四隻 ツノ割合ニテ六十四隻ヲ用意セリ	午後九時喫食シ十時ヨリ揚陸ヲ始ム 筏舟ハ馬八頭、馬丁十八人ヲ載ス 「トシヤンク」ハ五十八人ヲ載ス 筏舟ヲ曳ク爲メ小蒸氣船一隻ヲ用意ス					